

創立 75 周年・第 65 回記念展を迎えて-

本年は奎星会創立七十五周年にあたる。「奎星」の名の発案者でもあった宇野雪村先生はその頃の経緯を次のように述べている。

「上田桑鳩先生が比田井天来翁の精神を受け継ぎ、古典研究、開拓を目的として奎星会を結成されたのは昭和十五年である。その後、会は同人展等研究活動を行ないながら、昭和二十七年一般公募展「奎星展」に踏み切った。」と。

今日、3/4 世紀を経たが奎星会の基本的姿勢、精神は一步も揺がない。それは今回の奎星展の部制をみても明らかである。

◦前衛書部 ◦創作書部 ◦臨書部 ◦小品書部 ◦パラ・ワーク部

しっかりと古典を学んで新しい書に止揚する。また広く様々な世代、立場ならではの書の可能性も探っている。時代や状況におもねらない。書の本体を確かに見据えて、自分自身を更新する展覧会にしたいものである。

また、記念企画として「奎星先人の書」を併催した。熱い思いで新しい書を念願した奎星先人の書の足跡をたどる。是非奎星三十人の光芒、まなざしを見てほしい。それは顕彰のためだけではない。私達の奎星に連なる者としての誇りと矜持のためである。

各部とも出品者一同は全力で作品に取り組んだ。快作が美術館狭しと展示されることを確信している。奎星展を再び進取の精神に満ちた会場にしよう。私達は新しい書を創り出そうという一点で繋がっているのだから。

会 長 中原志軒

奎星の書・その動勢

最高顧問 岸本太郎

奎星会の創設は昭和15年であり、本年（平成28年）創立75周年・第65回展を迎えた。

現代書創造は奎星会の前衛書活動による成果であったことは公認されている事実でもある。

昭和23年に発足した毎日書道展は日展第五科と並んで書の興隆に大きな影響力を及ぼした。しかし保守と前衛の確執で分別され、日展から前衛派系が脱退することになる。

上田桑鳩・宇野雪村等奎星会他、毎日書道展を主軸に書の革新を目指して活性化を求めて行く。特に奎星会系のイメージを確かな前衛書として検証しながら、奎星の書、アートを創造して行くのである。

“奎星”とは中国においては西方に七宿あり、文芸を司る星をいい、蒼頡の「奎星韻曲の勢を仰観し、亀文鳥跡の象を俯察して象美を博し、合して文字をつくる」という故事から、文運はつねに新しく変遷する意をもっていることで奎星の名称が作られたという。

奎星会は書の前衛を目指して、都美術館において開催されてきた。本年は特別陳列として「奎星・先人の書」「第17回宇野雪村賞展」特別賞受賞作品を併陳。会期中「ギャラリートーク」「席上揮毫」「ワークショップ」「オリジナルカレンダーを創ろう」を併催、盛会を得たことである。

記念展部門は5部門

- (A) 前衛書部
- (B) 創作書部
- (C) 臨書部
- (D) 小品書部
- (E) パラ・ワーク書部

書の革新・前衛書活動を目指して、さらなる奎星書のイメージを一層確かなものに向きつけて来たのである。

奎星会展がイメージする書の前衛を検証しながら、新しい書の未来性、無限性を再確認し、奎星会の書、80周年、70回展の書、アートを創造することである。

更なる発展を願い
最高顧問 大樂華雪

書を真に現代芸術として確立したいという高邁な理想を掲げて、上田桑鳩、宇野雪村先生によって、創立された、その名は「奎星会」。わが奎星会は、創立 75 周年、第 65 回記念奎星展を迎え、盛会裡に終了した。

すばらしき伝統を、また一步、築き上げることが出来た。色あせた単なる伝承に終わるのでなく、すばらしき伝統として、これからも、夫々の時代に生きる書芸術が確立されなければならない。そのためには、理想に燃える“奎星”に集う同志が、精進、努力を続けなければならない。けん引するリーダーの責に抛るところが、実に大きい。さて、奎星会は、会長の任期を、八十歳までとする定年制を敷いた。いきおい、創立者の上田桑鳩、宇野雪村先生の会長任期は特別として、三代目会長の稲村雲洞先生は十年、それ以後、四代目の岸本太郎先生からは、三年の任期となってしまった。三年の短い任期中に、「為すべきことは何か……」自問、自答しながら、以後の会長は、夫々に、努力されてきたと思う。さて、私は、菅野清峯会長に継いで、六代目会長に選任された。

私に与えられた任期も三年であった。

会長就任に当って、「一体、私は、何を為すべきか……」ともかく、「三年間の、私の為すべき、ビジョンを掲げなければならない……」と考えた。三年間に出来そうなこと、結局、三つのビジョンを掲げることに決意した。

会長就任の総会の挨拶の中で、大切な人事に関する事でもある、次の三つを挙げて、私の思いを訴え、会員諸氏のご協力をお願いすることにした。

1. 若手の登用
2. 女性の積極的登用
3. 中央と地方のバランスを考える

以上の三点を挙げて出発した。

奎星会の夏の研修大会でも、講師に、若手を起用することにした。

選ばれた若手講師は、それなりに勉強もし、若き指導者として誇りを持って次の若き世代に良き刺げきを与えて、研修会はより活性化されたものになるであろうと考えた。

次に女性登用の問題であるが、奎星会は、すばらしい多くの女性を擁している。そういう人達をどんどん登用して、会員、とりわけ女性会員の積極性を喚起してもらいたいと願った。

次は、中央と地方のバランスの問題、

奎星展も毎日展も、出品者を、地方に、ゆだねている部分が多い。中央、地方が一体となって、会員が増え、出品者が増加することが大切である。魅力有る奎星展、奎

星会にする事が大切である。

さて、会長在任中、「記憶に残ること」「残しておきたい事業」も有った。

その一つに、平成 23 年 7 月 6 日から 7 月 31 日まで、国立新美術館で開催された、第 63 回毎日書道展特別展示「宇野雪村の美」が有る。

毎日新聞社、毎日書道会の主催。企画協力奎星会で、大樂華雪実行委員長、中原茅秋実行副委員長、田村空谷事務局長が担当した。

展覧会は、大勢の入場者で、にぎわい大盛会であった。また、旧蔵宇野雪村碑法帖 14 品（中国北京、故宮博物院所蔵）も展覧する事になり、借り受ける為に、訪中、又、終了後は、返却の為に、再度訪中もした。豪華図録「2011 宇野雪村の美」も刊行、大切な記録として残すことが出来た。

桑鳩先生との出会い
最高顧問 中原茅秋

昭和 27 年、当時の師匠であった高橋竹村先生の薦めもあって奎星会に入会した。すでにご存知の方も多いと思うが、竹村先生と上田桑鳩先生とは比田井天来門下生で、しかも同年同月同日（明治 32 年 5 月 11 日）生まれという奇縁でお互い意気投合し、終生兄弟以上の親交があったという。それが一つのきっかけで、私は桑鳩先生を知るようになり先生の書かれる前衛書の魅力にとりつかれたのである。第 4 回奎星展が初出品で以後 65 回展まで 60 年間、前衛書を中心に出品し続けることが出来た。これも桑鳩・雪村・竹村の三師匠と多くの先輩方の指導のお蔭と感謝している。特に桑鳩、雪村両師匠の前衛書への影響は大なるものがあつた。昭和 28 年、竹村先生が胃潰瘍の大手術で小田原の病院に入院された折に桑鳩先生はいち早く見舞にこられた。その時、竹村先生に「君の弟子に中原という男がいるが、君はしばらく指導が出来ないと思うから、私が代わりに面倒を見るので、君さえよければ遣しなさい」と言われたそうので、それが契機となって入門させていただいたのだつた。先生は若い人たちを特に大切にしてくださり、何かと面倒を見てくださった。が一旦指導となると厳しく、手本は一枚も書いてもらった記憶はなく「古典をしっかりと勉強しろ、良い線で書け、コセコセした小手先だけの仕事をするな、他人の真似、自分の真似もするな、個性的な作品を創れ」など書の本質とも言える多くの指導、助言を受けたのだつた。最近の奎星展を先生がご覧になったら、何と言われるだろうか。「こんな甘っちょろい前衛書を書くなんで!!」と怒鳴られそうな気がする。多分雪村先生だって同様なことを言われるだろう。会員の中には桑鳩先生を知らない人が多くなっているし、雪村先生を知らない人も既に出てきている。直接両先生の指導を受けることは出来ないが、書に関する考え方、前衛精神などの本質は時代が変わってもずっと引き継がれていかなければならないし、引き継ぐべきである。その中で時代に合った新しいセンスのある書を創り出すべきだと思う。次代を背負う若い人たちは、桑鳩、雪村両先生が築いてくれた前衛書の財産である正道の書を噛み締めて、ずっと継承してくれることを願うのである。

桑鳩先生の思い出は数多くある。私が 31 歳の時、第 14 回奎星展のポスターとはがきのデザインを任された。断わり切れず数日後、原案を恐る恐るお見せすると「これは良い」と取り上げてくださった。不満もあつたろうが太っ腹の先生だと感じたのだつた。先生の水石収集は有名だつた。小田原を流れる酒匂川の上流にも収集にこられ、お供をした事があつた。石にも造形の美や表情がある。石にも磨けば光る石もあれば光らないのもある。それを見分けるのが大切で、人間も全く同じだと言われたことが今でも心に残っている。この他にも桑鳩語録と言われる名言がいくつも私の心の中に

宿っている。

桑鳩・雪村の指導と地方の現状

名誉顧問 小森秀雲

中原一耀先生に入門して間もない、昭和 28 年、桑鳩先生が急に高松に来られた。大きな風呂敷包みを抱え、

「どうじゃ、これ見てみ！ 今度出す原稿じゃ！」

と言われ、くちびるを舌でなめながら嬉しそうに包みを開かれた。中から「書の創作手引」と書かれた肉筆原稿が、どっさりと出てきて驚いたことが、今も強烈に思い出される。(この本は、あまり出廻らなかったように思う。)

桑鳩先生は、何度も香川県に来られたが、前衛書の指導はされることなく、殆んど書道展出品の作品指導であったり、講演会、半紙の臨書指導が中心であった。しかし、屋島での楽焼茶碗、小豆島へのスケッチ旅行、吉野川での採石等を楽しまれ、時に、茶碗と小品の個展を開かれたこともあった。戦後の書道界では、伝統の否定と革新の産声は高まってはいたが、地方ではまだ前衛書は育っていなかった。

昭和 36 年、桑鳩先生は、前衛書の普及、発展を願い、四国での前衛書展を開くべく、「高松前衛書道展に際して」の一文を作られた。率先して前衛書運動の推進にご尽力下され、「四国奎星展」は、四国の前衛書開拓の魁になった。

昭和 40 年代の地方の書道熱は、まだまだ低く、極めて保守的で、日展中心の時代であった。読めない前衛書は、頭から邪道であると決めつけられ誹謗中傷され、極めて低い評価で敬遠されていた。たとえ一字一字、はっきりと読めなくても、意味内容が理解されなくても文字らしき字が書かれておれば、書であると納得し、安心する時代でもあった。県内では、前衛書を理解させるより、先づ書道人口の増加が急がれた。各書道団体は沢山あったが、横のつながりもなく、親睦もはかれない弱点を補うべく、昭和 46 年に、地元の四国新聞社に働きかけ「四国書道展」を設立した。第一部(漢字)第二部(かな)第三部(前衛)第四部(詩文・篆刻等)と四部制をとり、規定違反作品を除き、全員入選させるよう配慮した為、次第に出品点数も増加し、書道会も勢いづいた感じがした。

昭和 48 年には、度々来県されている宇野雪村先生にお願いし、香川の地で「蘭亭会」を開き度いと懇願し、先生の収蔵されている蘭亭関係の資料を展示し、その上、雪村先生に講演まで依頼した。東京・大阪で開かれる蘭亭会を香川でも開催するというので、香川奎星会員が中心になり、栗林公園内にある高松市美術館をお借りして実施した。この「香川昭和蘭亭記念展」は大成功裡に終了した。これを機に、新しい書の息吹きが芽生え、書道への限りなく高い関心を喚起する事が出来、ほっとしたものである。書道熱は高まったとは言え、更なる会員相互の書芸術の高揚を願い、今度は中原一耀先生が発起人となり、同志と語り、地元の毎日新聞高松支局を尋ね、支局長に切望し、垣根を越えた大同団結の必要性を説き、昭和 49 年、「毎日書道学会」を

誕生させた。この会は、会員制であり、児童生徒は硬筆展・書初め展、一般は年一回の学会展と、毎学期一回の実技講座を実施した。学期一回の書道講座は、非常に人気が高く好評であった。前衛書の講座であれば、事前に講座内容を周知し、参加者を募っている。前衛書の講座の場合、前衛関係の人達は勿論出席するが、漢字、かな、篆刻、詩文の人達も、自由に参加できるシステムのため、毎回、百人以上の参加者で極めてなごやかな講座が現在も続けられている。

中央では、伝統派が毎日展を離脱し、反目しあっているが、本県では、この「公益社団法人毎日書道学会」の名の元、学会員は分裂することもなく、仲良くなごやかな親睦が続けられてきた。審査員も、常に前衛書の講座にも顔を出しているのも、学会展での審査の場合、前衛書の最高賞を決める時でも、前衛部門の人達は席を外し、その他の審査員が前衛部の審査に当り、常に適確に前衛書の最高賞を決定することができるまでに理解が深まっていることを喜ぶたい。

桑鳩・雪村両先生が蒔かれた前衛書の種は、すっかり大きく生長し、書道芸術の高揚を計るべく創り上げた、「四国書道展」も 45 回展が終り、「公益社団法人毎日書道学会展」も 41 回展が終った。両書道展が共存して書道界を盛り上げる原動力となって現在に至っている。第一回展から出品されている人達の中から既に、日展審査員が二人も輩出されており、小さな県でありながら、日展にも毎年 20 名近くが入選するまでに底辺が拡大され、技能も秀れ、中央での審査員も数多く輩出されるまでに成長してきたことは本当に嬉しい。

この両書道展を軸に、訪中も、二、三回に及び垣根を越えた輪が広がり「和」を大切に研究が今も続けられている。

高松前衛書道展に際して

上田桑鳩

前衛書道、それは初めて見る人にとっては奇異に見え、あるいは驚歎、あるいは邪道呼ばわりをされるかも知れない。しかしこれまでの書のように何と書いてあるかと、読もうとすることをやめ、じかにじっくり直感的に見てもらいたい。そうすれば胸中に何か迫ってくるものがあるだろう。その上で、見る人自分勝手に、さまざまに想像するならば、あるいは喜びを、あるいは悲しみや怒りを、また勇気や安静といったさまざまな気分が胸中に湧いてきて、作品に共感を覚えてくるだろう。凡そ芸術鑑賞はすべてこのようにすべきであるが、特に取り立てていうのは、前衛書道が、従来の書と理念を多少異にしているからである。

次にその相違点をあげると、

1. 前衛書は文字を書いているのだが、従来の書のように、文を読むことを主としているのではなく、文字の形、筆勢や墨色によって自己の生活感情を表現しようとしている。
2. 従来の書のような無自覚な伝統の継承でなく（形式の受継ぎでなく）精神内容の受継ぎをし、これまでの書道のやってきた情性的伝統の継承を打破し、書に生命の復活をはかろうとしている。
3. 従って伝統の精神に則り、昭和の新しい時代の書を創ろうとする。

などである。われわれ前衛書道人は、古典を尊重し、その学習は保守の人々に優るとも劣らぬ熱意を持ってはいるが、形式の継承を超えて、古典の性格に着目し、その展開をはかろうとするものである。その第一着手として知ったことは、書の実しさは、文字の意味内容になるのではなく、書かれた形や筆勢という造型にあることを明らかにした。これを裏返して書の立場から言えば、書は造型的に見て筆者の個性や感情を受取って面白く思うのであって、これが主であり、その上若し読めるならば、その文意（文学性）と造型性の美しさを総合して味うのである。従って書の造形性は独立したもので、よし読めなくとも、書の実しさは味えるものであることは、近時西欧で書を高度の美術として各地で展覧会を催していることをみても分ろう。これを知ったわれわれは、読めることより、見ることのために、造型性に力の重点を注ぐことになるのだが、現代人の感情を表現しようとすると、時代の違った時代精神によって創られた古典の形式では、表現できないことになる。そこでわれわれは、自らの考えを行動によって、創造しようとする。自然それは未開の地を開拓することになる。われわれは、こと新らしくも、表現の自由を知らされた。されば、古典にない方法や形式をもって、勇敢に自己表現をすることができるのである。しかし、その自由も放姿であってはならぬことも知っている。われわれは従来の書道に比して無限といえるほど範囲は広がったが、大調和をするという一線で自制するのである。この内容的な自制方法

は、形式の無限の拓がりを許してくれる。そのために、古典の型を守らずに、現代の書が創れるのであるし、それは時代精神を表わすということで、伝統の精神に合致するのである。芸術行動にあつては、かかることをことあたらしくいうまでもないのであるが、しかし、これを実行している人は、そう多くなかろう。保守の人もこれ位のことは知っている筈であるが、実行しないから、時代錯誤にも、古典の形式の踏襲しかできないのである。つまり勇氣と実行力に缺けているのである。

古典の形式を真似しないわれわれは、また他人の真似もしないことに注意する。極言すれば、昨日の自分の真似をすることも警戒する。すなわち、日に新という時の流れとともに人我ともに、変遷する機微をも見逃してはならぬのである。この冷厳な境地に立って真実と真理に向って実践しわれわれは人間修業をすることに愉悦を覚えるのは、自らの力で創造し、自己表現することが、如何に楽しいかを証していよう。それができないものは、たとえ前衛めいた作品を作ったとて、筋金入りの前衛者とは称えないのである。審査に情事を加えたり、他に迷惑を及ぼす者も同然である。われわれの芸術は生活の中から生み出そうとするがために、人間性に徹することから始まるからよい生活をするにまで注意を払うのであるとはいえ、前衛書が始まってこの方僅かに十数年しかたたない。書道が始まって以来の歴史に比しては、極めて日浅く、その作品はまだ完成したとは保証し得ない。陳列した作品は必ずしも成功したとはいえぬかも知れぬ。ただ今日までに、たどり着いた結果を見てもらう外はないのである。倅に、われわれの真実と真理に立向っている熱情を汲んでもらえるならば、望外の喜びである。 (一九六一、九、三)

御挨拶

今回県下初めての試みとして四国奎星展を開くことになりました。四国に於てはこれまでに書道に関しては種々なる展覧会が開かれております。最近書の新しい仕事や墨象に対する魅力も高まりつゝある折柄此際同志相計り、前衛書、墨象として全国的に地盤と組織をもっている我が奎星会の中心勢力をひくことにいたしました。

出品作家はすでに世界的に有名なる上田桑鳩会長外、宇野雪村、小川瓦木を始め全国各地の代表作家の粹をあつめました。すでにこの作品中にはアメリカ、ドイツ等海外に出陳の決定したものも多く、見応えあるものと存じます。

尚、四国地区奎星会同人の作品と、その社中の作品を同時展覧すると共に奎星会同人中原一耀主宰の墨花書道会の総力をこれに合せた訳であります。

最後に奎星のこの種の試みは県下ではまず最初のもので多数皆様の御高評御清鑑を仰ぐ次第であります。

四国奎星会同人一同

[香川] 上田晩雲、中野孤雲、中原一耀、藤村紫雲、山野象東、西村天山、小森秀雲

[徳島] 田中柏翠、涇口素水、天羽弘堂 [愛媛] 伊藤無道、合田豊山、真鍋士鴻

「奎星-先人の書」に思う

理事長 堀吉光

奎星会創立 75 周年・第 65 回記念奎星展も盛会裡に無事終了。今回の記念事業として、祝賀会の開催、功労者表彰、記念講演会、作品集の刊行、記念出版として貫名菘翁『松居遊見叟碑稿』を刊行し、更に東京都美術館の奎星展会場内において「奎星-先人の書」を展覧した。現代書を創始、開拓、発展させた先賢-上田桑鳩、宇野雪村と、それ以降の系譜を確認し、物故作家 30 人（32 作品）を展覧することによって、今に繋がる前衛書の展開が更に広がりを見せる試金石となる企画展示であった。来場者からの反響も大きく盛況であった。

さて展示作品の選定にあたっては、遺作の調査、確認をすることから始めたが、ご遺族にも既に作品の行方はわからず、やむなく出陳をあきらめざるを得ない状況もあった。10 年後、20 年後には、ご遺族の世代交代もあり、果して遺作が今後どのように受け継がれてゆくのか、甚だ不安である。奎星会の歴史を刻んだ先賢の先生方の遺作を後世に伝える方策を考える必要に迫られているのではないか……。企画展を了えて切にその対策を願う次第である。

また、5 年後の奎星会創立 80 周年記念事業についても、今から検討、立案して奎星会の更なる発展へと導きたいものである。会員諸氏の漲る熱意を期待したい。

まずは、この度の第 65 回記念奎星展企画展示にご尽力戴いた方々に感謝申し上げたい。

第 65 回記念奎星展を終えて

故稲村雲洞先生方がいまだ若かりし頃、夜行列車で上野駅に着き上野公園の水道で顔を洗い、全て手作業で奎星展を運営していた時から 65 年が経ちました。

この 65 年間で大凡 6 万点近くの作品が発表されたこととなります。今回の 65 回記念展での特別陳列、「先人の書」からも感じられたことですが、奎星展の書はどれ一つとして同じものはありません。それぞれの作家が個性豊かな表現を探求し、肩書きや権威に頼ることなく、古典に立脚した書の前衛を追求し続けています。時を越えこの 6 万点を一堂に並べることができたなら、と想像しただけで鳥肌が立ちます。

奎星展の伝統は守るのではなく、日々進化することで受け継がれるもの。それが前衛書家集団に課せられた命題であると改めて痛感した記念展でした。

奎星展会部長 天 野 碧 邨

奎星会創立 75 周年・第 65 回記念奎星展

記念祝賀会 期日／平成 28 年 11 月 5 日（土） 会場／上野精養軒

祝賀会式次第

- 一、開会の挨拶 奎星会理事長 堀 吉光
- 一、会長挨拶 奎星会会長 中原志軒
- 一、来賓挨拶 （一般財団法人）毎日書道会専務理事
糸賀靖夫様
中華人民共和国駐日本国大使館 文化担当
賀 怡蘭様
毎日書道会最高顧問 創玄書道会最高顧問
中野北溟様
- 一、来賓紹介
- 一、乾杯 毎日新聞社事業本部総務・企画部長
三岡昭博様
- 一、祝宴 ジャズ演奏 ピアノ 中島さち子
ウッドベース 米木康志
ドラム 相川 瞳
- 一、閉会の挨拶 奎星会副会長 山本大廣

ご来賓

赤平泰処 様
秋本耿雨 様
旭谷朗抱 様
麻生泰久 様
石飛博光 様
石原太流 様
一 休 園 様
糸賀靖夫 様
稲村龍谷 様
印 象 社 様
上田啓之 様
薄田東仙 様
宇野公容 様
栄 豊 齋 様

岡崎康次 様
岡田健一 様
岡 忠 様
賀 怡蘭 様
開 明 様
香川倫子 様
柿下木冠 様
片岡重和 様
神郡弘通 様
川邊艸笛 様
北野攝山 様
協和貿易 様

喜代吉鐵牛 様

桐山正寿 様
栗本高行 様
吳 竹 様
芸術新聞社 様
慶徳紀子 様
古賀弘幸 様
小竹石雲 様
佐久間康之 様
志 昌 堂 様
下谷洋子 様
修 美 社 様
書道芸術社 様
末木 崇 様
鈴木響泉 様
鈴木まつ子 様
鈴木義典 様
関口春芳 様
高木厚人 様
高木金次 様
高橋直司 様
匠 出 版 様
竹下享子 様

竹田晃堂 様
谷川雅夫 様
田向良歌 様
千葉蒼玄 様
辻元大雲 様
円谷英夫 様
藤 樹 社 様
東洋額装 様
中野北溟 様
中野 暁 様
名児耶 明 様
西 墨濤 様
西村修一 様
野崎玉雨 様
林 蕉園 様
林 竹聲 様
美術新聞社 様
美術年鑑社 様
比田井和子 様
藤野北辰 様
仿 古 堂 様
墨 運 堂 様
堀内宏明 様
牧野商会 様
増子哲舟 様
松井玉箏 様
松井茂陽 様
三岡昭博 様
水野 剛 様
水川舟芳 様
三宅相舟 様
宮本博志 様
森 邦敏 様
柳 碧蘚 様
柳澤朱篁 様
山中翠谷 様

山之内郁治 様

リンクス 様

渡辺墨仙 様

和中簡堂 様

奎星会創立 75 周年記念

「菘翁 松居遊見叟碑稿」刊行にあたって

赤池艸碯

貫名菘翁の晩年、83 歳の作に中字の楷書「松居遊見叟碑」がある。この碑は滋賀県東近江市五個荘竜田町清林寺の門に向かって左側に建っている。能登川駅から車で 10 分程のところである。

遊見叟とは近江商人の典型と讃えられた人物で、松居久左衛門（三世）のことである。遊見の没後、郷党の人々がその徳を慕い、善人遊見の人となりを偲び、篆額と選書を菘翁に依頼して建立したものである。

菘翁はこの碑を書くにあたり、行書の細字草稿を安政七年の仲春に書き、その年の四月（三月に安政は万延となる）迄に数回にわたり碑稿を書いている。

昭和 57 年、私は碑稿の一つである阪正臣旧蔵本を静岡市内の骨董屋で入手した。もう 30 年以上も前のことである。その頃、私はよく古本屋とか骨董屋を覗き見していた。静岡の町には立ち寄る店がいくつかあった。中でも駅から近い、賑やかなところの「いけだ古美術」にはよく足が向いた。その日も習慣のように店に入ると、奥の片隅に本が無雑作に積まれていた。主人は「阪某先生という書道の大家のものをまとめて買いました。」と言った。その中の縦 30 センチ、横 15 センチ程の桐箱が目についた。その蓋に隷書で「遊見叟碑稿」、裏に※「大正辛酉暮春得之 茅田叟」とあった。茅田は阪正臣のことである。中は題簽のない布表紙で、阪氏手作りの匂いがする法帖仕立ての本だった。ページを捲ると「古云……」の見覚えのある字面に目を疑った。真蹟なのか？咄嗟の判断が出来ず躊躇した。それで「もしかしただいただきます。すぐ返事をしますので取って置いて下さい。」とお願いして帰宅した。早速、手当たり次第に調べ始めた。すると昭和 33 年刊、書芸文化院発行の「寂庵・良寛・菘翁作品集」の解説に江川吟舟氏の決定的な文が載っていた。

『今でも残念なのは、阪先生のお持ちになっておった「松居遊見叟碑文稿」と「山田公雪冤碑文稿」の真蹟を譲っていただかなかったことである。今は誰の手に渡っていることであろうか。先生の逝去後、未亡人をお願いすれば譲っていただけないこともまかったと思うのである。「松居遊見叟碑稿」は数本この世の中にあるようである。先生のお持ちだったのは、旧鳴鶴本よりはやや大き目の出来のよいものであった。『墨美』の 44 号の「特集 松居遊見叟碑稿」には鳴鶴本、秋鶴本、松居本と三種類をあげているが、阪先生のお持ちだったのは、これ以外の本だったように思われる。そうすると、四本を数えるわけである。今どこにあるのか残念でたまらない。』

「間違いない、これだ！」と確信した。

そんなわけで四種目の阪正臣旧蔵本は家蔵に帰したのである。しばらくしてから宇野雪村先生に原寸大の写真を送付した。すると夜遅くに電話が鳴った。先生だった。

要は「碑稿はどうして手に入れたのか？」ということだったと思う。しかし、実際は先生が何を仰ったのか全く思い出せない。先生の突然の電話にパニック状態になった私は、ろくに話も出来なかったと思う。はっきり思い出すのは、先生からの電話を一方的に私が切ってしまったことである。とんでもない非礼をやらかし、冷や汗をかいたのをよく覚えている。でも先生はその後、すぐに「焼付有難く拝受 多謝 菘翁松居遊見叟碑稿 珍しいもので未発表のものでしょう 中字の堂々たるものです」と手紙をくれた。嬉しく、何かほっとしたことだった。

たしか昭和 61 年だと思う、同門で広島の実の益成が、私のアトリエを訪ねてくれた。その日は書道談義に時を忘れ、一晩じゅう語り明かした。菘翁に話が及ぶと遊見叟碑稿のことで話は盛り上がった。この日のことが切っ掛けとなり、その年の全日本高等学校書道教育研究会広島大会において益成政義は「貫名菘翁・松居遊見叟碑稿について」と題して発表、貴重な論文を残した。

私は碑稿の四種を一緒に並べ、取り分け家蔵本の魅力を実感したいと常々思っていた。すると念が届いたのか、鳴鶴本を収蔵する書壇院の柳澤朱篁先生から電話が入った。「碑稿の展示を中心に菘翁展を企画したい。」と胸を弾ませるお話だった。事はとんとん拍子に運び、ついに全ての碑稿が平成 26 年 11 月から 3 カ月間、虎の門にある書壇院ギャラリーで展覧された。

その遊見叟碑稿の家蔵本が奎星会創立 75 周年の記念品として、原寸大の原装に近い形で刊行することとなった。解説は、奈良教育大学の谷川雅夫先生に書いていただいた。ここに感謝申し上げます。

この碑稿の原本は嘗て宇野先生に見ていただいた。その時、先生は「やはり菘翁は肉筆でなければ駄目だな。」と仰ったが、もしこの印刷された法帖をご覧になったらどう思われるか、と気になっている。

「現代書の行方」

麻生泰久

現代書は、昭和二十年以降、欧米の新しい芸術概念が日本に入ってきて、それ以前に逼塞していた新しい考えを持つ書の先生方が急に力を得て、いろいろな試みの中で、新しい書が発展してきたものです。

今日の書は、公募展の存在というものが大きな発展のもとになっております。しかし、その発展の裏にも公募展の反省材料というものがあります。それは本来的な書の変質したところや、発展に伴うマイナス面ともいべきものであり、これが功罪相半ばすればよいのですが、書を変質させたことのほうが多いような気がいたします。

昭和二十三年、日展に書が参加しました。この日展は伝統芸術の殿堂を標榜しておりましたから、新しい書というものはあまり歓迎されませんでした。その頃、同時に起こったのが毎日書道展です。毎日書道展は第一回展が全日本書道展で、第二回展が日本総合書芸展といいます。第三回展から毎日書道展と称しましたが、この総合書展というところが新しい芸術思潮を取り入れた書道展であった証とすることができるのではないのでしょうか。名前というものがその会の性格を表しているとも言えるのです。この総合書展こそが毎日書道展の功績であると思います。

初めに申しましたように昭和二十年以降、新しい芸術思潮の流入によって、旧態依然とした考えに倦んでいた人たちは、自分たちの理念の正当性を裏づけられたような気がしたのでしょう。それに俄然勇気を得た進歩的な人々は、精力的に活動をされていくわけですが、しかしこうした運動は突発的に起こるものではありません。昭和八年に結成された書道芸術社がその先駆の一つでしょう。ここを中心に活動を展開した方々は陋習の多い書道界に一つの改革の烽火をあげたと言いますか、こうした純粋な運動を展開されたわけですが、この動きが当時はそう容易く受け入れられるわけでもなく、鬱々としたなかで過ごされたのではないかと思います。それが外国からの新しい思潮と合体して勢いを増していくわけですが、この書道芸術社にいらした先生方が戦後になって一番活動をお見せになりました。まず主宰の上田桑鳩先生がおられますし、宇野雪村先生もおられます。そういう方々の力があって、今日の現代書というものが発展の基を作られたと思います。

ところで、こうした新しい書というものが発達してきますけれども、それには基盤整備というものが必要となってきます。現代書の基盤整備に力のありましたのは上田先生の発刊されました『書之美』（昭和二十三年）という月刊誌です。こういう本の内容が皆さんの心の中に浸透していったのだと思います。その中で忘れてならないのは、書道界だけでなく、いわゆる画家や彫刻家といった、他の芸術分野の方々との交流です。中でも書というものを立体的に捉えて、書を芸術として扱おうとする態度が大きく評価されてよいのではないかと思います。『書之美』の中には、長谷川三郎、須田剋

太、イサムノ・グチといった人たちが登場されて、多方面から書というものをみていろいろ提言してらっしゃる。このように書というものを芸術しようとするならば、書家だけで議論を尽くしたとしても井の中の蛙といった論になってしまうのではないのでしょうか。そういったときに長谷川三郎は書に対する理解というものを非常にもっておられて、書道が最も純粋な芸術であるように、抽象芸術は更に純粋な造形意思の具現である、といったようなことをおっしゃった。この考えは、抽象芸術が用の美として認められるもので、書のような東洋の伝統美は現代美術と共存できるもの、とこういう風に肯定的な考えをしておられます。このような視点で捉えていただいているということは、大きな書の応援団の一人として忘れてはならないと思います。こういった人たちに刺激を受けまして、書というもののいろんな試作がなされるようになっていきます。

一方、制作の方に目を向けてみますと、戦後の前衛書というのは旺盛な実験的な制作が始まるわけですが、書といえば墨と紙というのが常識的でした。しかし、戦後になりますとそういった先生方は固定観念を覆して書表現の用具用材の領域の拡大を図っておられます。つまりこれまでの概念を覆す試みをしておられる。

ところが、今日ではこうした実験的な激しい表現を見せなくなっておまして、何か知らない静かで落ち着いた活動に見えてなりません。これは書というものが、公募展という中で制約された活動になったことに一因があるのではないかと思います。もっと人間的な活動といいますか根源的なものを求めるような活動がなければ、現代書というものが無気力といいますか、形式的になってしまった、と思われるのではないかと思います。

「唐人は法を尊び宋人は意を尊ぶ」と申しますけれども、昭和の人、平成の人は類型を尊ぶではこれは情けない気が致します。唐代の書が「法」を尊ぶといわれるのは、案外形式を尊ぶというようなことになるかと思えます。その形式を尊ぶというのは、根本的には今のものとは違いますが、それに飽き足らずに蘇軾や黄山谷の「意」を尊ぶは、人間回復の意味があるのではないかと考えております。「法」を超克して意を貴んだところに時代を超えたものの進展が見られるようです。形式主義は開放されてこそ又、新しい進展が見えるのでないでしょうか。

芸術というのは本来個人の営為によるものですので、評価は個人に帰すべきものだと思います。ところが今日では公募展というものが団体評価、数の論理というようなことに繋がっておりまして、芸術が団体戦のような様相を呈しておるような気が致します。そして、こういった状況になると個人の力が過少評価されてくる。個人の価値が認められることが難しくなってきます。つまり、大団体が優遇されることになり、小団体の有為な人材が見過ごされて評価されなくなる。書道界にとっての大きな損失ではないでしょうか。少数のところにも優秀な人はいるわけですから、そういう人たちもピックアップできるような大局観をもって運営していかなければ、書というもの

の将来は暗いような気がいたします。これは展覧会のあり方からすれば、譲った方向のような気が致しますけれども、書というものを考えるときにいつも突き当たってしまう問題でもあります。

公募展の存在理由というものは書の振興や発展、書の継承というところにあるわけですが、質の高さが第一義であるべきで、質の高さに惹かれて人が集まってくる。これが本来の理想の姿ではないかと思えます。

奎星会の皆様は奎星会の理念を胸に秘めて、ご活動されていると信じておりますけれども、創立七十五周年という歴史を経ると、時代も替わり、人も代わり、考え方も変わります。しかし、そういう変化があっても、書が人間表現の手段として、文字を媒介として美しい美の世界を展開することに変わりはないのです。これだけはいつまでも変わるわけがないわけですから、人が代わってもそのところを忘れてはならないのではないかと思います。

誰かがこういっておりました。「前衛は進歩的である反面、模倣しようと思えば容易にそれを許すという性格をもっている。」皆様がこの言葉をどのように受け止められるかどうかは、言われたとおりそうだと思うか、そんなことは無いと思われるか、だったらそういうことを否定するためにも作品でお示しいただくしかないわけです。私共が書壇のあり方を見て感じますのは、やはり書は芸術とはいいいながら公募展の中で生活のための芸術にしてはならないんですね。今そこに思い至ると、この先に書道というものはどういう方向に向かうのかと心配でなりません。皆様が芸術家であると思うならば、作品と同時に名前が残るといような活動をしていただけないかと思えます。画家でも書家でも名前を挙げたときにその人の作品が思い浮かぶような作家になっていただかないと、名前だけ麗々しくあってもそれでは寂しい気が致します。名誉も地位もお金も欲しい。同時にこれは無理です。どちらかにしてほしいものです。

芸術家を目差す戦後の先生方を見てみましたら、本当に陋屋で暮らしておられまして、昭和三十年頃でも、棟割長屋に住んでいらして、その先生が出てらっしゃると丹前を着てらして、玄関を入ったら上がり框のすぐ横は台所といったようなところに住んでおられましたけれど、そういう先生方というのは気概がすごかった。でもそういった先生方がいらしたからこそ今の書道界があるのではないのでしょうか。日展でもそうですし、こういった活動の場というレールが引かれた後に今の先生方の立場があるんですね。だけどそれは自分の力だと思ってらっしゃる。それは無いでしょう。そういった先人をもっと賞揚しなければいけないと思えます。奎星会には、上田先生、宇野先生、歴代の会長先生方、草創期からの諸先輩方といった多くの先人に導かれて今日がある。こうした先人の歩いた道を考えて、もう一度新たな勢いのある奎星会にしたいと思っています。

今世界の中で、書というものがどのようにみられているかということ、昔『書と絵画

との熱き時代』という時もありましたけれども、もうすっかり欧米の画家もあまり書
というものに対して興味を持っていないように思われます。書と絵とは根本的に違う
と画家が悟ったのかもしれませんが、そこは書独自の
の良いところを展開していただいて、書というものをさらに拡大発展させて頂くよう
冀うばかりです。 (書評論家)

奎星会創立七十五周年・第六十五回記念奎星展 講演会より

平成 28 年 11 月 5 日 於上野精養軒

—特別企画 座談会—

奎星会—創成期を聞く

座談会出席者／稲村雲洞 岸本太郎 菅野清峯 大楽華雪 中原茅秋 小森秀雲
貝原司研

オブザーバー／中原志軒 堀吉 光

司会／山本大廣 中西浩暘 石井抱旦

日時 平成 28 年 1 月 6 日（木） 場所 コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

はじめに

山本 新年早々ご出席いただきありがとうございます。只今から座談会を始めます。まず理事長の挨拶をお願いします。

堀 改めまして、新年あけましておめでとうございます。今年の奎星会は創立 75 周年第 65 回記念展を迎えます。本日は記念作品集に収録するための座談会という事で、前衛書の歴史を検証し、さらに未来に向かっての忌憚のないところでご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

山本 企画委員会の方から提案がありまして、前衛書検証本を次の創立 80 周年に出版するために制作委員会というものができております。この本を作ることになった経過を企画委員長の中西先生にお話していただきたいと思います。

中西 はい、今日はありがとうございます。大略を申し上げますと若い人達が桑鳩・雪村を全く知らない会員が増えてきています。そこで若い世代に向けて、桑鳩・雪村先生と共に時代を共有してこられた先生方に、今伝えておかなければならない事々をお話しいただこうとこの企画を考えました。

山本 ありがとうございます。遅れましたが、司会をさせていただきます山本です。どうぞよろしく願いします。

奎星会は、ほぼ 80 年の歴史があつてあまりにも長く、私達を含め特に若い層は桑鳩先生・雪村先生の活動を十分理解していない。そこで直接指導を受け、活動されてきた先生方にお話を伺いたいと存じます。そして先生方のお話をもとに二冊の本を作ろうという企画です。年表は事前に中西先生の方からお送りしてあり、まずは昭和 15 年（1940 年）の奎星会が発足したその前後から桑鳩先生がお亡くなりになった昭和 43 年（1968 年）までの約 30 年間までを今回のテーマといたします。そして、どういう経緯で奎星会が発足したか、その時地方はどんな状況であったか。先生方がどういきっかけで奎星会に入られ活動が始まるか、といったことをお聞きしたいと思います。最も早いのは飛雲会からでしょうか。菅野先生、飛雲会が成立していく過程をお話しいただきたいと思います。

奎星会の出発点—又玄社・飛雲会

菅野 上田桑鳩先生が兵庫県の出身なものですから関わりがありまして、奎星会の出発点といえます。上田先生は昭和5年に錦谷から桑鳩と改号されました。錦谷というのは宝塚にお住まいで家の前の谷が紅葉谷でした。そこから錦谷とされたようです。上田先生が上京され天来先生に師事。桑鳩となった5年以後の話になろうかと思えます。一つの側面から見た大きな足跡というのは、桑鳩・雪村両先生とも全国を行脚してそれぞれの地域でグループを育てたことですね。そして、その地域を活性化して発展させたことだと思います。その最初が兵庫なんですね。

桑鳩の年表では昭和7年の頃に又玄社ができて、寺部葎江先生を中心に何人かの方で研究会をしており、その指導に桑鳩先生をお招きしておりました。昭和12~13年頃です。その頃、又玄社が中心になり全国的規模の研究会を持ち、講師に比田井天来先生・小琴先生をはじめとし、その当時の天来門下の幹部の方たちが殆ど出席され150人位の大講習会が開催されました（写真参照、以下（参））。そのように、全国的に書を広めていこうという発想の始まりだったと思います。

山本 そうすると、又玄社が主催して天来先生などをお招きした大講習会などは、当時全国的に珍しかった。他の会ではあまりかなったんですね。先駆け…ですかね。

菅野 今では、そういう講習会というのは奎星会も各地域でも持ってますし、沢山ありますが、その当時は大講習会というのは他では行わなかったと思いますね。ですから、一つの先駆けではありますね。

ところが又玄社は上田先生がご指導されていましたが、昭和12~13年頃から、だんだんとその学習の方法がお習字的な方向になっていき、昭和13年の末に実務を司っていた宇野雪村先生に上田先生が「わしは今のような又玄社のこういう稽古をするのは嫌じゃ、もう解散せい。」と言われ、「本当に書を芸術として制作し、学んでいく者だけを改めて再結集したい。そんな会を作れ。」とおっしゃったそうです。それで又玄社は昭和13年の12月に解散式をやっております。そして、新しい会を作ろうと有志十数人に語られて、会を作られたんです。

雪村先生が会名を何にしようかと桑鳩先生にお尋ねになった。2月か3月頃、桑鳩先生が神戸から帰られる途中に東の方から明けてくる太陽の中に見える雲が印象的で、「飛雲会」としたらどうかと閃いたそうです。一旦、それを受け取られた宇野雪村先生が、「飛雲会は結構なんですけれども、ちょっと平凡すぎはしないか…」と上田桑鳩先生にお尋ねになり別の会名を示された。しかし、どうもピンとこないという事で、やはり飛雲会という名前を付けられたという事です。確かに飛雲会が出発したのは昭和14年の5月頃ではないかと考えられます。そして、その14年の12月14日に、第1回飛雲会同人展を神戸の寺部先生の知り合いの紹介で元町のサービスステーションで開きました。

当時、神戸の方に宇野先生がいらっしゃった訳ですけど、その翌年に全国的な組織

を作ろうと飛雲会がきっかけになって誕生したのが奎星会であります。その奎星会の第1回の展覧会が昭和15年鳩居堂で開かれ、それが奎星会の出発点になります。ですから奎星会の一番最初の大々的活動は、この鳩居堂での第1回展だと思います。その後、戦中の時期に展覧会が中断しまして、奎星展も飛雲展も中断します。昭和20年の東京大空襲で桑鳩先生が被災され、兵庫の吉川に疎開されました。そこを中心に活動をします。それから2年ぐらいの後に、桑鳩先生がふたたび東京にお戻りになり、戦後の活動が始まっていきます。

中西 それで今、菅野先生がおっしゃっていた又玄社の、その前に六昭書道会とか。岸本先生なんかが入っておられた聴風会…。

菅野 聴風会はね、もっと後なんです。昭和20年過ぎてから、岡村雄風先生関係の人達を中心に聴風会を立ち上げたんですけど、やはり元の飛雲会に戻そうという事で結局、聴風会を消滅した形で飛雲会が続いていった。そういうことです。

で、その当時宇野先生と森田子龍先生のお二方が若手の二本柱になっていらして、そこで雑誌を刊行しようという事で森田先生が担当者となり、豊岡で昭和23年『書の美』という雑誌が出されました。続いて昭和24年の3月に豊岡の糸勝楼で奎星会の第1回の幹部講習会がありました。その糸勝楼での講習会では、線だけによるところの作品を作ってみようという事で、それが後のα部の元となる出発点になりました。長谷川三郎などの助言や指導があった事は言うまでもありません。

山本 ありがとうございます。はい、では中原先生。

桑鳩と高橋竹村—照心書道会（神奈川）

中原茅 それに関連して照心書道会、心を照らす書道会ね。その主宰が高橋竹村なんですね。高橋竹村も同じ天来門下で、高橋竹村と桑鳩先生が同年同月同日生まれでという事でお二人は非常に意気投合してね。上田先生が奎星会を作る、昭和27年第1回奎星展をやるという時に、高橋竹村は弟子達に声をかけた。その中に渋谷竹径、水越茅村がいました。奎星会からだいぶ前に離れましたけれども星野柳泉、他にもいました。上田先生が高橋竹村に「こういう訳で協力してくれ」と言う事で、竹村の方も「わかった、君の言う事は良くわかっている。」という事で、第1回展にそういう人達を出品させたんですね。それが一つの縁で今も続いています。

照心書道会が高橋竹村と上田桑鳩の生年月日が違っていたら、そういう事がなかったかもしれないですね。

山本 今お聞きしていると、神戸と神奈川がかなり早い段階で、奎星会発足の原動力となったようですね。

中原茅 それにね、亡くなったのも、同じ昭和43年の1月10日なんです。上田先生も9月ですよ。高橋竹村の葬儀に、上田先生が心のこもった弔辞を読まれた。ですから、高橋竹村と上田先生という関係から、飛雲会と照心書道会は密接な関係があるという事ですね。そういうことで、我々照心書道会も奎星会の仲間に入れていただい

たのは初めの頃です。

山本 飛雲会と照心書道会の関係を初めて知りました。

地方の事情①—広島・北海道・北陸

山本 じゃ、ひとまず神奈川との関係はにおいて、『書之美』の刊行と墨人会発足までにはかなり時間がありますが、その経過の中で前衛書の運動が盛んになっていき、人的な交流、特に長谷川三郎、あるいは関西におけるゲンビの運動などが入ってくると思っています。それらの事も考慮しながらもう少し地方での活動、たぶん奎星会はこのあたりから動きも活発になっていくんだろうと思うんですが、どうでしょうか。大楽先生、広島地域のお話を伺いたいと思います。

大楽 広島以前の事、菅野先生が詳しくおっしゃっていただいたので、それをお聞きしまして、なるほどね、桑鳩先生・宇野先生が広島へおいでいただく以前はこうだったんだなと納得する事が出来ました。それを受けて、桑鳩先生も雪村先生もたびたび広島へはいらっしゃいましたし、香川の方へもいらっしゃっています。それからお隣の岡山なんかも…。とにかく北海道から九州まで全国各地を回って、これからの書はこうあるべきだという事を説いて回られた。たくさんのお弟子さんが賛同して全国的になったと思うんです。これが今日の奎星会の発展に繋がっていると思うんですね。

山本 はい、北の方から桑鳩・雪村先生との関わりあい、当時は各地域がどういう状況だったかといったことなどお話いただければ。北海道から…。菅野先生。

菅野 あのね。北海道の滝川美術館の方にそういった事を示す資料というのがあると思います。そこから繋がって広がって行って、北海道での上田桑鳩という事がだいぶ掘めていくんではないかと思います。

山本 はい、そうですね。ところで、上田先生の作品集の文章を読むと「独立」に所属していた方も桑鳩先生について勉強されているようですが。じゃ、次は稲村先生、福井・北陸での上田先生・宇野先生との関わりをお話してください。稲村先生も若かったと思うんですけども、富山・福井の状況をお話し頂けますか。

稲村 富山の石井南耕と、福井の連中は隣同士の県ということで、上手くやっていたんだけどね…。

地方の事情②—四国（香川）

山本 そうですね。ありがとうございます。文献などで確かめたいと思います。では、小森先生、四国の方のお話、5年前の座談会でもお聞きしましたが、手島先生も盛んにお見えになっていたようなお話だったんですが、奎星会以外の先生方との繋がりなどもお話ください。そうして奎星会に絞られてゆく過程など。

小森 この企画で、今日話しおる事は順番に出しおるんじゃないかと、いろいろ変えて編集するのかな。

山本 検証本に掲載する場合は委員の方たちと検討する予定です。

ただし、今回は5年に一度の作品集を作る年なので、石井さんの出版部で編集します。この座談会の話全部載せる事は出来ませんので整理・編集します。

小森 それはいいね。上田桑鳩先生、宇野雪村先生は地方ではどうしておったかという事だが、私が中原一耀先生に入門したのが昭和26年12月28日なんでね。岡山へ中原先生と行って、そこで桑鳩先生に紹介されたんです。その時に一緒におったのが岡山の河田一白さん。一白さんが何にも知らない私に対して、桑鳩先生の前で「君、横一書いてみ」と言ったんですね。桑鳩先生が、「君そんなこと無理言うな。初めての新人に横一書けと言われたら、書けるもんじゃないだろう、やめとけ」と、そんな言うてくれた。本当に多くの方がおる中で横一書けと言われたら、なかなか書けん。桑鳩先生はなかなか人間味があって、良い人だなという気持ちでおったんです。

それからまた、私の家へ泊ったら、書道の話はほとんどしなかったです。ところが一回だけしてくれたのが、ある古典の筆の使い方。この法帖はこういうふう筆を使うんだと、机の上で実際に書いて教えてくれた。それで泊って、あくる日に、「よその家に泊る時には二晩まで、三晩泊ったらいかんぞ。君、絶対気を付けておけよ、どんなに親戚の親しい中でも、三晩泊ると、まだ泊っとんのかとなるぞ」と。また、晩に食事を出す時に、家内が「粗末なもんですけども、召し上がってください」と言ったら、「馬鹿！」と怒ったんです。家内にね。家内はびっくりしたんです。そしたら、すぐにこにこして「私は、毎日毎日粗末な物は食べてないんだ。東京で良い物を毎日食べておるんだ。だから地方へ行ったら、地方の物を食べさせてくれたらいいんだ。地方の物で、お口に合うかどうかわからんだけれども、召し上がってくださいと、こういう言い方をしたらいいんだ。」とおっしゃった。あくる日は、「わしは屋島に行き、あそこでちょっとスケッチしたい」と。それで上田晩雲さんと二人で屋島の山へ案内した。そしたら、そこで初めて字を書くという事になって、楽焼きをしおる。「君、こういうような茶碗に字を書く時には、ようけい書いたらいかんぞ、一字でええんだ」と言うので「虹」という字を一文字書いて、「楽焼きに書く時はこうやってやるんだ」と筆の使い方とかね、教えてくれた。それから、また良い拓本などが出ると、中原先生の所へ「こんなん手に入ったと、気に入らんかったら、小森へ渡せい」と、手紙を出してね。よい物は地方にも分散しようという事が常にあった。未だに拓本とか、その鑑賞とかね。それで豊かな感性を肥やすことが出来たんじゃないかなと思います。

こういう事が香川へ来た時の桑鳩という人物像ではないかと思うんですが、以上です。

山本 ありがとうございます。若い時に桑鳩先生の偉大さや人間性に感銘したお話でよく伝わってきました。ありがとうございます。では、広島ではいつごろ…。

地方の事情③—広島・岡山

大楽 当時の広島というのは、メンバーはいる事はいたんですけれども、岡山へは私

も随分行きました。尾道には曾根慶千先生がおられました。桑鳩先生は、時には曾根先生の家へ泊られて、あとは尾道で有名な旅館にもお泊りになった。そういう時には私どももまいりまして、曾根先生の家でお書きになる所を見たり、西山別館にお泊りになる時には、林子翠さんがかならず呼び出しを受けて、「オレがこれからここで書くから見とけ」とおっしゃってお書きになるのを、墨を磨りながら見ていたという事が再々ございました。いい思い出です。

それから、桑鳩先生のおっしゃっていることは皆さんたびたび聞いていらっしゃると思うんですが、「人の真似はおろか、自分の真似もするな」というような事。それから、先程申し上げた岡山では林子翠さんと一緒に代わる代わる墨磨りをしながら、先生が書かれるのをじーっと見て、私も勉強させてもらったのであります。

山本 はい、ありがとうございました。あの、桑鳩先生の地方でのお人柄とか、そこに表われる思想なんかが、浮き彫りになってきました。石井さん、何か質問して下さい。

奎星会の理念と作品に関して—書の美・α部・新書人グループ・白日会・青年書家グループ

石井 僕は昭和22年生まれです。回顧のお話が続きましたので、奎星の初めの頃の理念と作品といったものについて話をもっていきたいと思います。

僕がお聞きしたかったのは、『書の美』の発刊は、昭和23年から始まり27年に終刊しています。4年間ですね。その中に商業美術とα部という二つのコーナー（参）が設けられ、作品を出品する。それについてのコメントを長谷川三郎さんがお書きになった。その反応はどうだったのか。それから、そこに出品された作品やコメントが展覧会に出品する作品にどう反映されていったかを知りたいなと思っておりました。どなたかどうでしょう。

山本 先生方がいいがでしょうか。『書の美』では、巡回展や講習会を記事にしていますが、当時の講習会に参加された先生は…。森田子龍先生と長谷川三郎さんとかには接触されたことはなのでしょうか。

菅野 私は直接長谷川三郎さんとの接触はありません。

山本 昭和24年には豊岡での講習会をしているみたいですね。又、α部は昭和26年に設置してます。

菅野 はい、その豊岡の先程言いました糸勝楼、そこで「書の美」の幹部連中で講習会をやるわけですね。森田子龍先生が、豊岡にお住まいだったんです。宇野先生は当時、神戸にいらっしやいまして双葉小学校にお勤めになられていました。今では双葉小学校は廃校になっておりますけれど、そこに後に篆刻をやられた辺見方匡さんとかもいたんです。

そういったことで、宇野先生は神戸の方を中心に奎星会の事務局的な仕事、森田先生は編集出版部の方を担当しておられた。α部が出来て、非常に積極的に参加したの

が岸本太郎先生なんです。

山本 岸本雅洞先生？

菅野 岸本雅洞、ミヤビと洞窟の“洞”です。今は岸本太郎先生。

宇野先生は、昭和26年3月まで神戸にいらして上京される。そのお供のようにして岸本・奥平両先生が上京された。その時、宇野先生が私に「一人神戸に残ってもええやないか。おまえ残れ。飛雲会という会があるから、残れ」と。いうならば、飛雲会を託す形で一人残されたとも言える。それが昭和26年なんですね。

大楽 そう、そして『書の美』の中でね、α部を作りましたよね。

菅野 そうね。昭和26～7年の頃ですね。京都で講習会があった。その頃に作られたんですね。

大楽 私はね。一年ちょっと遅れて入ったんですけども、α部は桑鳩先生のお声で「おまえら、若いんだから、何をやっても構わないんだから、とにかく新しい仕事をやれ」とおっしゃって自然とグループができ、その中で自由に抽象的な作品をどんどん作ったのを覚えています。岸本先生どうでしょうか。

岸本 えーと、あの『書の美』。α部を提供したというのは、森田子龍さんなんですよ。青年書家グループを作ったと同時にα部を提案された訳なんです。

山本 お聞きしますが、α部は森田子龍さんが作ったんですか、それとも長谷川三郎さんの助言で出来たんでしょうか。

岸本 正確ではないんですが…。要するにそれを提案された。その時点まで、長谷川三郎さんとか、森田さんとの交流の中で新しい『書の美』の領域をやっけいこうと。それを実質的に対応したのが青年書家グループで、それを吸収しながら、発想を生かしながら発展させたというような経緯がありました。ですから、25、26年でしたっけ、『書の美』の雑誌に長谷川さんとか森田さんとか前衛系の皆さんが、そういう方を指向されたわけです。一番の提案者は森田子龍さんだと思います。それを後押しされたのが長谷川さんかもしれません。その辺はちょっと正確ではありません。

要するに現代書のさらに発展した、所謂、新しい絵画の領域を書の中にも取り入れていこうという発想ですね。それを実質的に書の方に実践したのは、青年書家グループだったんだと考えてもらうといいと思います。

石井 この年表を見ますと、その時期、昭和27年前後、先生方は20代ですよ。この本によりますと、青年書家グループに、25名参加と書いてあったんです。岸本先生、工藤蘭山先生、奥平先生、それから坂田…。

山本 坂田聖峯、これは奎星会の青年書家グループなんですね。

菅野 いただいた資料の116頁の昭和26年の8月の所にですね。白日会発足と書いてあるんです。最初白日会という名前で…。

岸本 青年書家グループというのは、宇野先生の提案なんですよ。具体的には、その時最初、白日会という名称で提案されたんです。そうしました所、絵画の方にです

ね、すでに白日会という会があったんです。それじゃマズいだろうという事で、先生が「青年書家グループという形で発足しろ」というように提案された。昭和 26 年の頃ですね。数名の皆さん方が参加して青年書家グループ、20 歳から 29 歳までの有志が参加をした。だいたい 7~8 年続くんですね。

石井 よくわかりました。又、白日会の 8 月のその前の 7 月に、新書人グループ、そんなのが出来てるんです。新書人グループ、青年グループじゃなくて、新書人グループ。その中身をみますと、雪村、小川、森田 3 名の名前が書いてある。

菅野 それは白日会、すなわち青年書家グループとは全く別の会で新書人グループというのは、宇野先生、小川先生、森田先生というような私どもからいうと一段も二段も先輩の方々のグループだったんです。

山本 これも前衛的なグループだったんですか。

菅野 それも入っているんです。青山杉雨、村上三島、宮本竹径など 18 人が参加してるんです。

山本 まだ、明確に前衛書という名称も無かったかもしれない。胎動期といえるグループ活動の一つの動きですね。

菅野 そうです。ここの宇野、小川、森田の三先生は同年代なんです。同年代の方達が募って作られたのが、新書人グループです。白日会、青年書家グループとは全く別の会です。

青年書家グループが出来て、その最初の世話人が岸本先生で 2 年くらいやったのかなあ。その後、二代目は私です。2 年くらいやったかと思うんですが、第三代目の世話係が大楽先生。それで、この青年書家グループが活動の場を雑誌『奎星』にお願いしましてね。その 2 頁分くらい貰い、青年書家グループの頁として拠点にしました。

石井 その内容は α 部の続きみたいな作品ですか。

菅野 そうですね。それが多かったと思います。サイズはだいたい半紙あるいは若干それより大きい作品。ただ、ずっと最初から同じ方向で、同じようにやったかということではなくて、普通の漢字も若干ありました。

前衛書部の始まりは…

中西 それでね、話は変わりますが、前衛書の発端といいますか、奎星会が最初に前衛書作品を発表したのではなく、今世間ではどうやら南谷さんの「電のバリエーション」(参)が、前衛書の発端だと言われておりますけれども、奎星会はその頃、そのような作品は発表していなかったんでしょうか。昭和 20 年、聴風会が発足した頃なんですよけれども…。

山本 それは昭和 20 年、「電のバリエーション」は昭和 21 年、1946 年なんですね。この作品を先生方は当時どのように見ておられましたか。たとえば『書之美』があり、昭和 26 年 6 月には『墨美』が発刊される。創刊号にはフランツ・クラインの作品を表紙として掲載していますけれども、そのあたりから前衛書の意識がどんどん高まっ

ていった。戦後で、その後アンフォルメルの運動が日本の美術界に 1950 年あたりから 60 年に入ってくるという時期ですね。先生方が若かった時代「電のバリエーション」のような作品に対する意識や評価はどうだったのでしょうか。中西先生のお話のように「電のバリエーション」が前衛書の最初といわれているんですが、その点いかがですか。

大楽 桑鳩先生がね。最後まで文字から離れる仕事はされなかった。この点が雪村先生と違う所です。私の記憶では、昭和 27 年第 1 回の奎星展の時から、それはまさに斬新な展覧会だったように思います。今ほど出品点数は多くはないんですけども…。

山本 奎星展の第 1 回というのは、森田子龍先生が出ていった年の事ですか。

大楽 はい、そうです。それでね。私は第 3 回展から出品し始めたんですけども、展覧会は見に行きました。これはすごいなあと思って、当時 α 部的な仕事をしてましたから、共通する部分がありましたけれども、とにかく感動いたしました。第 2 回展の時には、資料にもあったかと思うんですけども、とっても有名な評論家で、アーサー・ドレクスラー氏がいらっしやいまして、奎星展をご覧になり感動したというような事をおっしゃっているのを覚えております。当時は、雪村先生の作品は文字を主体としないで縦の線を組み合わせた作品を発表された。

山本 ああ、あの六曲銀屏風の大作ですね（参）。

大楽 あ。そう、すごい大きな作品でしたね。桑鳩先生は文字性を主にしたような漢字作品を発表されていたんですけども、今までの漢字作品ではない斬新な造形でした。それから 2 回展、3 回展には顔料を使った作品。そういう作品を発表されましたね。

菅野 先程の南谷先生の「電のバリエーション」が発表されたことですね。奎星展での対比できる作品は、やはり宇野先生の「純の配列」（参）。それから「龍のポーズ」（参）。年代は 1 年ずつ違ったと思いますが、それが奎星展における一番最初のものではないだろうかというような気がしますね。

山本 雪村先生が 39、40 歳位の作品ですね。「龍のポーズ」がギメ美術館のポストカードになりましたね。奎星会の前衛的作品として象徴的作品として重要な意味を持つと思います。

菅野 上田桑鳩先生と背中合わせになるのは、宇野雪村先生だと思うんですね。

山本 なるほどね。

菅野 ですから、「純の配列」は論理的な面からの研究も含めて一つの記念碑的な作品である事は間違いない。

中西 それでね、お聞きしたいのは、南谷さんが「電のバリエーション」を現代美術展に出品されたという事ですが、それは書家比田井南谷として出品したのか、美術家比田井南谷としてなのかという事。その意識がわかれば、雪村の「純の配列」「龍のポーズ」が最初ともいえる。そうした事はその時代の人でないといえなくわからないですよ

ね。

「電のバリエーション」は、昭和21年、それからα部というのは昭和26年です。その5年間の間にいろんな実験的な試みがあったと思うんですけど、世間に発表しなくても、そういう試みが実際に奎星会の中でもなされていたのかわかりにくくありませんか。

山本 南谷先生のこれは現在の作品を見た限りでは、額、和風の額がついていました。聞くとところでは、「電のバリエーション」は、始めはパネルだった。その後で作り直したのか。パネルであることと、この表装とでは、発表の仕方が違うのではないかと思います。作品だけ見ると書的で「電のバリエーション」は出来たんだと私は思うんです。

中西 ふーん、はい、どうぞ。

小森 あのね。地方の我々にとっては、α部が前衛書のきっかけだったと思うんです。その時は、私はまだ中原先生に入門してなかった時なんですけど、『書之美』のα部の作品をみて「わー、すごいなあ」と、こういう表現が書の中にあるんだと、見て驚いた記憶があるんですよ。

文字を抜きにして、自分の感情を出して、線に表わして書くというような事、こういう発想があるのかという事をね。奎星会に入ることなど考えなかった時代ですからね。面白いなという印象が非常に強かったんですね。それが、やがて奎星の前衛書になっていったと言えると思うんですよ。だから、桑鳩先生は、文字性を中心にした前衛作品。雪村先生は、非文字性でやろうと両極端の巨匠がこの奎星会を引っ張ってきたのではないかという気がします。我々香川県の方は非常に遅れたんですね。だから地方では前衛作品の発表を非常に興味深く見ておったし、近づきたいなあという、記憶があります。

中原茅 それでね。今、お話があったように、結局α部にしても、α部がぼっと出来た訳ではなくて、それ以前に生まれるまでの段階があったと思うんです。前衛とは何をもって前衛書と言っているのか。だいたいその時代というのは、僕なんかやり始めたのは昭和21年ですからこの辺の生まれた時のこと、その時代のことが良くわからないんですよ。先生は常に前衛精神でやっているから、表現上でもそのようなものを持っていたと思いますけどね。第1回の奎星展とか飛雲会の同人展なんかありましたよね。それらがどうだったのかな。写真や記録があれば見たいですね。

山本 「電のバリエーション」から更に天来先生の言動までさかのぼらないと…。前衛書という言葉（理念）は何となく出来たんだよ、では駄目で、もっと突っ込んで考究しなければいけないですね。広辞苑に「前衛書」と掲載されて前衛書というジャンルが定着していますが、さらに今後新しい次なる呼称を考えることも大切だと思います。

中原茅 その時代によって前衛書という概念がどう変わって表現されるか解らない

しね。空海の子孫など、あれだってもちろん、その時代の前衛だったかもしれないでしょ。

菅野 で、あの、基本的には α 部とはその根底は前衛精神、前衛作品なんですけれども、前衛という言葉が出てきたのはもうちょっと後なんです。 α 部のあった時は、前衛とかいうようなそういう言葉はなかった。

中原茅 後から、付けたんですよね。

菅野 そうです。だから、その当時は完全に α 部という名称の概念を我々の中に植え付けたんです。

山本 今お聞きしていると、前衛書と言われる前段階で、 α 部というのが非常に大きな影響を持った。雑誌も含めてですね。先生方若い時代にかかなり強烈な印象を持たれたのですね。

α 部の作品が、今で言う前衛書的な内容を含み、新しい書であったわけですね。

途中で、お昼がもう準備出来たそうです。2 時間があつと言う間に経ちましたので、ここで中断し午前の部はここで終わりにします。

山本 午後の部を再開したいと思います。「毎日書道展」が昭和 23 年 1948 年の 8 月に「全日本書道展」という名で始まりまして、それとも絡みあいながら、奎星会も動いていったかと思います。『書之美』の他に昭和 26 年には『墨美』が創刊されている。これも前衛書を定着する上で理論的な問題提起や作品の紹介があつて、先生方もいろいろと刺激を受けられたと思います。その昭和 26 年の 11 月「奎星会」再発足。第一次同人発表。(参)そして会員制がつくられています。先生方のお名前も散見しています。第 1 回奎星会展が昭和 27 年(1952 年)の 2 月開催されて、上田先生が会長になられる。そして展覧会開催時に「墨人会」が作られて、森田子龍、井上有一など 7 人が脱会する。突然のことでかなりの混乱があつたと聞いてますが、そうしているうちに毎日書道展の中で、昭和 29 年には墨象美術とか、近代詩文書というものが新設されていきます。

前衛書の名称について

山本 昭和 21 年に比田井南谷先生の「電のバリエーション」。それから昭和 27 年に「龍のポーズ」の宇野雪村先生、昭和 30 年には上田先生の「愛」(参)という作品等が話題になり、前衛書は可読性がなくなっていきます。後には前衛書の中に、文字性と非文字性という 2 部門が出来ます。非文字性という部門は、どのような経緯で生まれ、その時先生方は 2 つの部門に対してどのような違いを感じられていたかをお話しください。

菅野 この頃からね。毎日書道展の展覧会の名称自体が、くるくると変わるんですね。それについて、若干中身も変わるんですけども、ずーっと言える事は、一番最後の結末として、それがどこに辿り着いたのかということ、読売の読売書法会の設立という

所に行き着いてしまう。

山本 えっと、それは毎日展の35回。36回展から読売書法展に移った人達が出た36回展ですね。

菅野 それ以前から、「新しい傾向の書」であるとか、あるいはその他のいろんな名前が変わっているんです。所謂、前衛書的な新しい部門の名前が変わっているんですけれど、それは所謂保守派と言われる所の漢字部、仮名部などからのしょっちゅう圧力があつた。新しい傾向は奎星会が中心になってやっているけれども奎星会だけじゃなくて、他にも新しい作品を発表していた会がありましたね。そういうふうな運動に対して、拒否反応がずーっと続いていく。だからその煽りを受けて、時には「新傾向の書」になったり、あるいはその他の名になったりしながらですね、流動しているという事だと思ふんですね。それが毎日の展覧会を二つに割る形で、在来の伝統的な書と、新しいものを作る書と、不思議な事に毎日書道展の中に全く違う名前の展覧会で並立させるというような時期があつたんですね。一番最後の所に出てきた動きが読売の、ここでいう所の脱会で毎日書道会との分裂に至つたという事だと思ふんですね。

山本 先生のおっしゃっていることは保守的な伝統書と新しい書との軋轢ですね。で、そういう事があつて、昭和33年第10回毎日書道展の時に第5部門の前衛書部が独立して、第1回の毎日前衛書展が生まれる訳ですね。それが第10回展を終えた昭和44年に、毎日書道展と毎日前衛書展がまた一本化します。それはどのような背景があつたのですか。

菅野 結局、毎日書道展というのが途中で二つに割れました。そうすると、新聞社がやる書道展が、同時に同じような展覧会をやっているのに全く違う名称の展覧会が二つ並立するというのはやっぱり不自然ではないかといったような事が一番大きな事だった。

大楽 よろしいですか。毎日書道展の中で前衛書についての拒否反応があつたことは菅野先生の言った通りだろうと思います。

中西 それで、次にお聞きしたいことですが、その後1つになって昭和56年ですね。前衛書部が文字性と非文字性に分かれたね。それはどういう経緯で分かれたか。また、どういう基準（作品内容）で分けたか。出品者の意志が非文字性、文字性としたのか。分け方の基準はどうだったのか教えてください。

山本 それは作家の表現意識の問題になってきますよね。

大楽 一つには、所謂文字を素材とした作品で前衛的な作品。文字性の作品…。

山本 それはぎりぎりでも読めるということですね。

大楽 それから、純粋な抽象でしょ。最初から文字を素材としない前衛書。奎星会でやってますよね。第1部とするか、第2部とするか。第1部は文字を素材とした前衛書。それから純粋な抽象書は非文字性の作品で造形とフォルムの線によって作る第2部。私はこの両方あつても良いと思ふんです。これは出品者が決めていると思ふんで

す。ただ、これから先は前衛書部として毎日展の場合は今は一つになっているけれども、私は将来は2つに分かれても良いと思います。漢字、仮名と同じように前衛の方も1類と2類に分かれても良いではないかと思います。括るのはこれは前衛書として括るんですけども、どちらに出すのかは出品者が決めたら良いと思うんです。最終的に決めるのは本人だろうと思いますね。

中西 なるほど、そうですね。

思い出をひとつ—桑鳩先生のこと・「墨美」

大楽 それから、上田桑鳩先生の人物像、人間上田桑鳩の事について、触れてみたいと思うんですが、よろしいですか。小森先生が先程おっしゃったように、書のみならず陶芸、それから石を集めたりね。絵もお描きになった。全国を回られたおり、スケッチも沢山やってらっしゃった。それから円空にも凝られた。あれやったり、これやったりで、それが人間上田桑鳩そのもののスケールを大きくした。小さなジャンルにおける書家上田桑鳩を越えて、本当にすばらしい大芸術家としてね、立派な人だったと思います。これからあういうふうなスケールの大きい書家は出てこないんじゃないかなと考えます。そういうすばらしい先生が奎星会を創立したという事に意味を感じますね。皆さんも同感されるんじゃないかと思うんです。

山本 本当にそうですね。貝原先生、いかがですか。

貝原 そうですね。僕が最初に会ったのが高校一年生の時。研究大会があって、その時に初めて知って、

山本 研究大会というのは、講習会の事ですか。

貝原 講習会？。うん。あの、広島府の府中高校でね。数名の講師の先生が来られて、その中に先生がいらっしゃった。上田先生が「墨をひっくり返してもこぼれない位濃く摺りなさい」とおっしゃったことが鮮明に頭の中に残っているんですよ。それが高校時代の思い出ですね。それから、研究会を開くには、東京からお呼びするので、是非来てほしいと言ったら、そんなに熱心にやる気があるんなら行ってやるぞと言われたのが、昭和41年だったかな。亡くなられるちょっと前位の時に41・42年と2年続けて来てもらった事があるんですよ。その時宇野先生の機嫌が悪くて、「君はおれの弟子だろう！」と言われて、それはごもつともです(笑)。だけど、是非来てほしかったから。その時に画仙紙を広げなさいと言うて、5~6枚広げたら、一文字ずつ大胆に書かれたのを鮮明に覚えております。さすがだなと思って感心してね、見ておりましたよ。非文字性でなくて、文字性のものを5~6枚書かれていたと思うんですよ。その作品は、講習会に来た人にみんなやってしまったんです。で、僕は惜しい事をしたなと思うてね(笑)。先生の作品は沢山持っておったんだけど、桑鳩先生の作品はね。お手本になるようなものは、え、今はもうあんまりありません(笑)。

山本 いいお話ですねえ。先程、あの、茅秋先生。高橋竹村先生と桑鳩先生の話が出ましたが、もう少しお二人のことを。

中原茅 桑鳩先生は皆さんご存知だと思うんですが、石を集めるのが好きだったんですね。水石やらいろんな石をね、地方のね。それこそ四国だ、照心だ、北海道だと行って石集めをした。「神奈川には、小田原へ流れる酒匂川というのがあるだろう」と、「ありますよ。二宮金次郎のところですよ」と言う。「あその石は良い石だぞ。なぜかと言うとあの河原は黒い、白い所はダメだ。だから君、あの辺の場所を見つけて一緒に石を拾おうじゃないか」と言うので車を出して、石拾いをしました。シャベルを持ってね。「このね、君ね、石の見方というのはね、形はみな同じじゃないぞ、自然の石は。人間だってそうだぞ、同じ石なんかある訳ないんだ。良い石を見つけると同時に、これは磨けば良いかどうかという事も見極める目を持て」と。だから講習会以外にね、石集めでも何でもいろんな事を勉強させてもらいました。それが非常に印象に残っていますね。

山本 菅野先生、上田先生のことを。

菅野 上田先生とお会いしたのは、先程言ったように昭和 23 年ですかね。私は 19 歳の時です。で、19 歳の時から、先生が亡くなる時まで、二十数年間ということですよ。

ある時に宇野先生から話があり、「おまえ、森田子龍くんの所に行かんか」と言われたんです。最後には私が飛雲会に残るんですが、「実は森田子龍君から、おまえの所に三人若い者がいる。岸本、奥平、菅野の三人いる。わしの所の仕事を本気になってやる若い者が一人ほしい」と言う事なんです。「ところで森田君の所に行くとしたら、あそこの奥さんはキツイからな」。キツイ方でした。本当にキツイ方でした。「あの、あの奥さんの所で我慢出来るのは三人の中やったら、おまえが一番我慢できるやろ」という事なんです。で、昭和 26 年 1 月末位に、上田先生が『木簡集英』を出版される。編集のため森田先生のところに来られると。だからその時におまえが行って、上田先生と森田君の手伝いをしてみろ、そうするといろんな事がわかるだろうからということだったんです。『木簡集英』というのは、『流沙墜簡』から抜粋して作られたのが、上巻・下巻なんです。

山本 赤い表紙のものですね。

菅野 赤いの。

山本 墨美社から出版されたもの？

菅野 赤い上巻の方は早く森田先生が豊岡にいらっしゃった時出された。それから時を経て、昭和 26 年その時に下巻を出すということだったんです。それで京都駅でお待ちして、上田先生がマントを羽織って草履を履いて降りてみえて、車で行こうと。その日の夜、夕方から夜中にかけて、『流沙墜簡』の中で上巻に載っていない所のものを頁を送りながら、森田先生がこれとこれが上巻に出ていると、1 頁のこれは出ていないとおっしゃって、それを上田先生がずっとチェックしながら、そのチェックした印刷の番号をおっしゃるのを私が別の紙に書いた。そして印刷枚数を数えて、これで

は多すぎるからちょっと削ろうと、夜中の1時頃までかかりましたかね。赤い表紙の『木簡集英』の下巻の方は、私もその一部編集のお手伝いをしたという経緯があるんですね。

山本 はい、ありがとうございます。ちょっと、ついでに伺いたいのですが、『木簡集英』の他に墨美社からは何か法帖類を出版していたんでしょうか。

菅野 そうですね。『墨美』はよく見ましたが・・・。

山本 雑誌の中の古典の特集が評判でしたね。

菅野 あの、『墨美』の中でいろんなのを取り上げた。森田先生の鑑識眼とそれから見事な構成の雑誌で、私自身はよく見ました。

山本 『墨美』の発刊は大きな影響力を持っていたんですね。

菅野 それと、『墨美』は最初はそんなに発行部数も多く無かった。だんだん編集内容が斬新になり、単に書だけでなく非常に広い範囲の書的なそういう資料が紹介された。その中で、先程から出てる長谷川三郎さんの論考、あるいは有田光甫さんの文章だとか掲載されていく訳ですね。月刊でしたから、だんだんとそれが広まっていきました。新しい書、前衛書だけに視点を当てるんじゃなくて、広い範囲での紹介だったもんですから、保守的な人達や、それから書以外の他の分野の人、絵画だとかそういう人達も注目するようになってきましたね。

山本 特に外国の人たちにも評判になり、注目されることで前衛書を押し上げる力になっていたのかな。

菅野 そうなのが、『墨美』の役割だから、書道専門の出版業界の中で一つの大きな地位をなしたんじゃないかな。そんな気がします。

戦後の時代背景から生まれたもの

中西 あの、ちょっと戻りますけども、戦中戦後、昭和26年α部ができるまでの21～26年くらいですね。学童疎開があったり終戦を迎えたり、東京裁判があったり憲法が成立したり、それから全学連など・・・そのような時代背景の中で、前衛書が生まれてきた。その理由というのは何なんですか。そこへ行く迄に何かあったと思うんですよ。何故その前衛書を書くかというふうな理由というか。

菅野 私なりに二つのことが考えられるんですね。一つは、戦後の価値観の多様化、戦前というのは全て価値観が一つだったんですね。お国の為に、それから戦争、臨時徴兵してね。そういう一つの思想だけで前へ進めとね。その価値観は20年の8月15日で壊れた訳です。それから、戦後の闇市の時代があったり、いろんな時代の中ですね。何が変ってしまったかという、いろんな全ての価値観が多様化してきた。それが一番根底にある。昭和14年15年から、上田先生を中心として、新しい書の方向性を求めた活動、それが昭和18～19年頃の戦争が加熱するに従って、それどころでは無くなってきた訳ですよ。それで終戦後、何が一番変わってきたかというやっぱり価値観ですよ。

大楽 大きく変えていったのは、戦後だと思うんですね。これは書の世界だけでなく美術の世界でも、戦後になって新しい主張に目覚めたという事。これが大きな原因だと思えますね。だから、書の方も絵画の影響を受け、絵画の方も新しい書から影響を受けたという事が確実に言えると思えますね。

とりわけ『書之美』『墨美』が果たした役割は大きいですね。その中に「α部」が開設され、実質的に青年書家グループによる活動も大きな流れの一つであったことは確かでしょうね。そうして昭和33年第1回毎日前衛書展が開催されたがこの年は該当者無しでした。そして昭和34年大賞を水越茅村先生が受賞した。続いて第4回展大賞を奥平野牛先生、第5回展大賞を私、第9回展大賞岸本太郎先生、第10回展準大賞菅野清峯先生、第11回展大賞川邊清華先生と、着実に歩を固めていくんですね。その大きな流れの初めは、やっぱり自由な発想による新しい造形と筆線を求めての、所謂抽象書表現を試みた戦後の流れの中に奎星会はあったということですね。

菅野 そうですね。それで、今言われたように戦前と戦後、その境でもって変わってきた一つは価値観の多様化。もう一つは、その時代的な流れの中でヨーロッパのいろんな美術との交流。新しい美術的な思想ですね。様々な美術的思想が日本に入って来た。そういう中で、現代美術、現代芸術と言われるようなものの影響を受けて来た。そういう中での芽生えですね。やがて、α部になったり、その他の動きにつながったりと。この大きな2つの流れが原因ではないかと私は見ているんです。

中西 なるほど、納得出来ますね。それが昭和30年代後半から、花が咲いていったんですね。

中原茅 そして、それからね終戦直後、所謂毛筆習字というのはストップされてましたね。

中西 そうそう、はい。

中原茅 戦後しばらくして時代は変わって来た。それと同時に、書道とか習字が復活して来た。それがまた新しいものになってきた。上田先生なんか、そのような時から新しいものを打出してきているんじゃないかと思えますね。そういうこともあるんじゃないかと思うんですね。

おわりに

山本 お話をうかがう時間がなくなりました。今日の座談会をまとめまして、次世代が奎星会の書というのはどういうものか、真剣に考えてもらうとっかかりになればと思います。前衛書だけじゃなしに、漢字部門も含めて奎星の書のあるべき姿、未来の姿、残すべきものをまた検討していきたいと思えます。お茶が出ましたし、中原志軒先生に締めくくりをお願いします。

中原志 午前中から、長時間に亘って話を頂戴いたしました。実際に昭和15年から今日に至るまで、生活や経済とかが苦しかった時を乗り越えながら、新しい芸術を作っていくとする燃えるような思いで奎星会はここまで来ました。けれども、二代、

三代と過ぎて私達の世代になりますと、今日のお話のようなことが希薄になってきます。再確認させていただいて、後の世代にまた続けていくという事をしなければいけないと思います。本当の根っこの精神というものがやはり奎星会を作っていくんだと思います。今日はお話を沢山頂戴しましたけれども、司会者から話があったように、まだまだ半分にも足りない。三分の一にも足りないような状態です。次の機会にお話を是非お願いして、私達の方もしっかり準備をしながら、狙いを定めてお伺いしたいと思います。先生方、本当にありがとうございました。

中西・石井 どうもありがとうございました。

山本 今日の座談会は出版部・石井抱旦先生に整理していただき、作品集に収録いたします。次の宇野先生の時代、そして若い人達の考えや未来への方向性などをテーマにした座談会やシンポジウムが出来たらいいなと思ってます。長時間ありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

今伝えたいこと一座語拾遺

岸本太郎—書作の裏付けとして

いろんな団体の展覧会が美術館等で開催されますよね。そこで、いろんな特別陳列を企画してますよね。奎星会では、内容的にも非常に質の高い内容の良いものを古くから実施してきている訳なんですけれども、そういうものを是非今後もね、発展的に続けてほしいな。これはある意味では奎星という前衛に結びついていますが、文物—文房四宝的なものは前衛とは違う、古美術的な立場、その辺も並行して、美意識を高めてゆこうという方向性で、文物などの鑑賞の特陳してほしい。それを是非希望しております。

菅野清峰—審美眼

神戸に上田先生が来られる時は、大抵私が出迎え役だったんです。駅でお待ちすることは一度も無く、三ノ宮の骨董屋さん、尚古堂でお待ちしてたんです。先生が来られると、尚古堂の親父さんは奥から骨董類を持って来る。私には見せないけれども、上田先生には見せる。だいたい骨董屋というのはそういうものでした。上田先生の所には、殷代の爵があった。その爵をパッとご覧になったら、値段も聞かなければ、何にも聞かないで「お、貰た」と言った。それには私も唖然としましたね。一体いくら

なのか、どうなのか、そんなふうな事には触れないで、良いものだったら値段がどうだとかこうだとか、そんな事は眼中にない。所謂、審美眼。そういうようなもので、いろんな事を判断される所があつて、随分と感動するやら驚くやらという経験があるんです。(昭和 26 年頃)

大楽華雪—今こそ大切なもの

桑鳩先生の『蟬の聲』の初版本が出たのは、昭和 17 年ですね。その復刻本も出たんですけれども、初版本は貴重なものなんで、私も持っているんです。あれだけの随筆を書家で書いた方はいないんですよ。是非読んで欲しいですね。

それから石碑の揮毫ですが、「天来先生碑銘」の石碑がありましたね。これは雁塔聖教序風に書いてらっしゃって、これまた素晴らしい書なんです。桑鳩先生は全国に三つの碑を残していらっしゃいます。一つは、北海道の「愛樹霊塔碑」、山の中にあるんですけれども、漢字仮名交じりの文です。あの時代、あれだけの漢字仮名交じりの碑を書いたというのは桑鳩先生の先見の明、新しいものを改革しようとするように見える気がします。

それから、もう一つは広島県に碑を残していらっしゃって、これは竹原市にある「唐崎赤斎先生の碑」なんですけれども、これは、私の方で出版をさせていただいていますが、顔真卿風に書いてらっしゃって、その碑も素晴らしいですね。

それから、先程申し上げました、「天来先生碑銘」これは鎌倉の建長寺にありまして、この三つの碑が桑鳩先生の書き残された碑としては有名ですね。こういう事をこれからは奎星会では若い人達にどんどん知ってもらい、臨書もし、それと同時に現碑を見てほしいと思います。

中原茅秋—書の道標として

飛雲会展の時の上田桑鳩語録、あれが非常に印象に残っていてね。あういうふうなものをやはり、後の人達にも受け継いでもらいたいんでね。いろんな良い言葉が沢山あるからね。宇野先生語録もそうです。今一つはね、上田桑鳩先生の精神。ものの本にね、「桑鳩の目ざす所は飽くなき想像性の追究であった」という事ね。その根底には莫大な臨書があった。書の古典の追究ですね。それから、西欧美術の理論。ここが大事だと思うんです。書の線を最も大事にしたって事。書を書くという書字は、絵の場合は画ですね。それから素描では描と書く。前衛書は書くなんですね。だから、そういう書の線を大事にしていかなきゃいけない。上田桑鳩先生の全部がいいとは思わないし、今の時代からすると違う所もあるでしょうけれども、やはりそういうふうなものを振り返ってね。ちょっと脱線しちゃって、あ、あれが良いのかというような事にならないようにしてほしいなと、感じますけどね。

小森秀雲—作家の矜持

私が初めて奎星展の審査員になった時、上田先生にその審査の場で凄く叱られた事があるんです。今だに印象に残っているんですけどね。ある作品に挙手した時に、あまり良い作品ではなかった。しかし沢山手が挙がった。突然「何やっとなんだ。こんな作品何処が良いんだ！」と、ものすごく叱ったんです。審査員をね。すごいなと思ってね。その仲を取り持ったのが宇野先生です。「これからは気を付けて、良く考えてやるようにしますから」というてね。その場は収まったんですけどね。非常に審査に対する思いがね。

宇野先生はね、玄美展の審査の時はどうするかというと、審査員が前で手を挙げおる所を後ろで見おる訳ですわ。この作品は誰が手を挙げたかというのをじっと見おる。これも非常にむずかしい事だね。お二人の先生の性格を表わしているんじゃないかと思うんですけどね。

又、桑鳩先生がある県展に審査員として来た時に、その晩に香川で講演会をしたんですが、その時 200 人ぐらい集まった。前の席に香川では幹部の一番偉い先生方がいて、その二人が話をしおる。「そこだまっとけ、わしの話が聞けなんやったら出てけ！」と、パッと言ったわけやね。皆ビックリしたわけです。桑鳩先生というのはすごいなという気持ちでね。その後はまたなごやかに世間話をしおる。皆は奎星の桑鳩という人はものすごい偉大な人物だなと、人を引っ張っていくだけの力があるなという事で感心したと。

座談会を終えて

5 時間に及ぶ座談会は A4 版用紙 50 枚を超える分量であった。何せ、昭和 5 年から昭和 40 年中頃までの約 35 年に亘る激動の奎星会創成の歴史である。稲村先生をはじめ諸先生方は 10 代からの歴史でもあり、それは当然ご自身の記憶の糸をたぐり寄せながらの、いわば確認作業でもあった。お聞きすべき事柄も多岐にわたり、我々に遺すべき言葉も多い。掲載スペースの関係上半分以上は、割愛せざるを得なかったことをまずお詫び申し上げたい。

座談会終了後各先生方に「もう一言を」と御文を依頼し、その返信の中から関係文を取り出して座談の中に適宜組み込んだ。又、座談の中から「座語拾遺」として 1 コーナーを設けた。年表、関連写真等を参考にしながら座談の中に参入し、先生方の一言一語に熱い思いを感じとっていただければ嬉しく思います。

尚、編集にあたり本文は中原志軒会長、山本大廣先生、中西浩暘先生の適格なご指導をいただきながら作成しました。

(石井抱旦)

参考年譜

昭和5年 (1930)	上田錦谷を桑鳩と改号する。31歳。	
昭和6年 (1931)	六昭書道会発足／天来『書道春秋』創刊	満州事変
昭和7年 (1932)	桑鳩「又玄社」発足	5.15事件
昭和8年 (1933)	桑鳩、天来門を代表して「書道芸術社」結成／『書道藝術』誌創刊、神戸大講習会	独、ヒットラー政権
昭和11年 (1936)	上田桑鳩個展（神戸そごう）	2.26事件
昭和12年 (1937)	第1回大日本書道院展（東京・上野）／第1回書道芸術社同人展（東京・鳩居堂）／桑鳩主宰『健筆』創刊・雪村上京	盧溝橋事件
昭和13年 (1938)	又玄社解散／飛雲会発足	
昭和14年 (1939)	比田井天来没（68歳）／第1回飛雲会同人展（神戸・元町）	第二次世界大戦
昭和15年 (1940)	書道芸術社解散／雪村上京／桑鳩、奎星会結成、第1回同人展（東京、鳩居堂）	日独伊三国同盟
昭和16年 (1941)	桑鳩『臨書研究』刊／第2回奎星会員展（東京・鳩居堂）	日米開戦
昭和17年 (1942)	桑鳩『臨書大鑑』刊	ミッドウェー海戦
昭和18年 (1943)	桑鳩『蟬の声』刊／第3回奎星会展（東横百貨店）	
昭和20年 (1945)	桑鳩吉川町に疎開、雪村神戸に勤務／日本書道美術院創立／桑鳩、雪村、子龍等参加	東京大空襲／原爆投下・終戦
昭和21年 (1946)	聴風会発足、南谷「電のパリエーション」発表／第1回書道美術院展	東京裁判
昭和22年 (1947)	日本書道院結成／書道芸術院創立	六三制教育開始
昭和23年 (1948)	第1回書道芸術院展（東美）／『書之美』創刊／桑鳩東京に移居／日本書道院第1回展／第1回全日本書道展（毎日書道展の前身）／聴風会再活動／日展に書が加わる・桑鳩依囑出品	全学連結成／『美術手帳』創刊／大韓民国・朝鮮民主主義共和国成立
昭和24年 (1949)	書之美幹部養成講習会（豊岡）／「書之美」α部設置／日本書道院は日本書芸院に改称／第5回日展審査員桑鳩・特選雪村／漢字の散し書発表／近代詩文を発表／黒線芸術（抽象書）追求	中華人民共和国成立／東京芸藝大学設立／湯川秀樹ノーベル物理学賞
昭和25年 (1950)	第1回書之美公募展（豊岡、大阪）／兵庫県書作家協会創立／竹邨照心書道会創立／小学校習字復活／書之美幹部養成講習会（香川県観音寺町）／桑鳩『書之美』刊行	朝鮮戦争（～S28）／高度経済成長（～S48）／警察予備隊成立／イサム・ノグチ来日

昭和26年 (1951)	雪村東京に移居／桑鳩・子龍・雪村書道芸術院脱退／奎星会再発足／桑鳩日展で題名問題波紋／書の美京都大講習会／子龍『墨美』創刊／第2回書の美巡回展(京都・以後全国主要都市)／毎日書道展と改称・第3回展に新傾向の書加わる／新書人グループ(雪村、瓦木、子龍参加)発足／白日会(芝山、野牛、太、太郎、舟橋、呆亭、一草)発足／白日会は青年書家グループと改称 奎星会再発足第1次同人 神崎紫峯、浅田蓬村、河田一丘、七丈南豊、小田一石、堀田余生、小林湖東、鶴殿聴濤、上原欣堂、森 岫雲、曾根田鹿水、宇高示穹、富田九鳴、比田井小葩、 杉谷瑞泉、有之成蹊、柳沢大廓、大石三清、上松杜暘、戸松秀月、糸原風亭、野中尚山、深堀輝峰、山中雄谷、小川中秋、桜井琴風、野口溪山、長田看鶴、黒川繁行、上田晩雲、中村木子、春日浩洞、 村上翠亭、真鍋士鴻、天野翠琴、斎藤雄山、井上有一、安藤机賛、	サンフランシスコ平和条約／日米安保条約／民間放送開始
	喜代吉郊人、守時大融、米田掃雲、江口草玄、高橋霞栖、坂本静溪、関谷大年、曾根桂泉、柳田天来、足立華岳、錦織竹冬、田中柏翠、徳村湖山、内田雲山、魚谷松葉、田中千古、横山韶洞、小島三溪、成相南窓、池田耕翁、森田子龍、宇野雪村、清田岱石、喜多村若水、小川瓦木、松岡巖雪、馬淵録哉、板屋天池、弦巻松蔭、首藤春草、久野麦銭、寺部葭江、出口草翁、中原一耀、萩原冬珉、平川朴山、東野梅軒、浅野五牛、竹沢江東、藤原時雄、森田此香、稲村雲洞、福田松庵、藤原清洞 上田桑鳩「愛」を日展に出品 宇野雪村「純の配列」「安昌」を毎日展に出品	
昭和27年 (1952)	第1回全日本青少年書芸展(大阪市美)／第1回奎星展(都美)／『書の美』終刊／『奎星』誌創刊／墨人会結成／第4回毎日展3部新傾向あるものに改称／独立書道会創立／草人社結成 宇野雪村「龍のポーズ」を第12回美術文化協会展に出品	ブリヂストン美術館開館／『美術批評』創刊／現代美術懇談会発足／東京国立近代美術館開館
昭和28年 (1953)	日本の建築と書展(ニューヨーク近代美術館)／『アサヒグラフ』に前衛書発表／戦後飛雲会発足／第1回飛雲会書芸展(神戸・県商工会簡)／奎星会書道研究競技大会(有馬温泉)／大澤雅休没(62歳)／第9回日展「黒岳黒谿」出品拒否	日本自由党(三木武吉)結成／奄美大島返還／第1回ゲンビ展
昭和29年 (1954)	雪村『書・造型編』刊／『書道講座』全7巻刊開始／第6回毎日書道展3部に墨象芸術・4部に近代詩文／奎星会府県組織の確立	日本民主党(鳩山一郎)結成／具体美術協会結成
昭和30年 (1955)	第1回奎星会青年書家グループ展(大阪そごう)／桑鳩日展離脱／奎星会ニューヨーク展／奎星探塚展／桑鳩『書の鑑賞と学び方』刊／大澤竹胎没(53歳)／日米抽象美術展(国立近代美術館、桑鳩・雪村・子龍・有一・池田水城・難波田龍起・須田剋太・津高和一等)	日米抽象美術展(国立近代美術館)／恩地孝四郎没／安井曾太郎没／原子力基本法公布
昭和31年 (1956)	雪村日展離脱／第1回比田井天来記念前衛書展(～S35)／奎星会第一次アメリカ巡回展	神武景気／高村光太郎没
昭和32年 (1957)	奎星会第2次アメリカ巡回展／『飛雲誌』創刊／辻本史邑没(63歳)／第1回飛雲会公募展(神戸・朝日会館)／奎星会新人展(銀座)／日本前衛書作家協会創立／日本前衛書展	ソ連衛生打上成功／ジョルジュ・マチュウ来日／なべ底景気／長谷川三郎没／サム・フランシス、タビエ来日
昭和33年 (1958)	日本前衛書道展(銀座画廊)／第1回前衛書代表作家展(東京そごう)／毎日書道展から毎日前衛書展が独立／桑鳩『高等学	ザオ・ウーキー来日／スーラージュ来日／横山大観没／カンディ

	校芸術家書道指導書理論編』刊／抽象絵画の展開展（国立近代美術館、桑鳩・蒼風・桃紅・南谷・子龍等）／ピッツバーグ、カーネギー国際展（桑鳩・子龍等）／『書跡名品叢刊』第1回配本／奎星会アメリカ巡回展	ンスキー『抽象芸術論』／木村莊八没
昭和34年 (1959)	桑鳩『臨書新研究』刊／全日本書写書道教育研究会発足／森田安次没（48歳）	キューバ革命／国立西洋美術館開館
昭和35年 (1960)	ドイツ・フライブルグ書道展（桑鳩・雪村等）／奎星会アメリカ巡回展／桑鳩個展（新宿伊勢丹）	安保条約反対運動激化／浅沼社会 党委員長刺殺／瑛九没
昭和36年 (1961)	奎星シアトル展／奎星会アメリカ巡回展／YACG展（新橋）／第2次書道代表団訪中団（雪村等）／第1回九州奎星展（福岡）／四国奎星展（高松）／関西奎星展（大阪）／雪村個展（神戸ちぐさや）／第6回サンパウロ・ビエンナーレ特別出品（桑鳩・雪村等）	韓国四月革命／ソ連人間衛星船打上成功／岡本太郎二科会退会
昭和43年 (1968)	桑鳩寺落慶法要（三田・方広寺）／上田桑鳩没（69歳）	川端康成ノーベル賞／小笠原諸島 施政権返還／郵便番号制度発足
平成7年 (1995)	宇野雪村 没（83歳）	阪神淡路大震災／地下鉄サリン事 件
平成23年 (2011)	第63回毎日書道展・特別展示「宇野雪村の美」展が国立新美術館で開催された。	東日本大震災／福島原発事故
<p style="text-align: center;">* 創立40周年・第30回奎星展図録（1981）掲載「奎星会通史」より、部分再録しました。</p> <p>* 『宇野雪村の美』収録の『日本・前衛書総論』田村空谷著述を参考にされたい。</p>		

奎星会のあゆみ

- 昭和 15 (1940) 年 10 月、上田桑鳩、奎星会を創立
 11 月、第 1 回奎星会員 (同人) 展・鳩居堂
- 昭和 16 (1941) 年 11 月、第 2 回奎星会員 (同人) 展・鳩居堂
- 昭和 18 (1942) 年 1 月、第 3 回奎星会員 (同人) 展・東横百貨店
- 昭和 23 (1948) 年 4 月、雑誌『書之美』創刊 (奎星会の機関紙の役割をはたす)
- 8 月、第 1 回全日本書道展 (第 3 回より毎日書道展と改称) に参画
 10 月、日展に第 5 科として書部門成立
- 昭和 24 (1949) 年 2 月、第 2 回書道芸術院展・都美術館
 3 月、幹部養成講習会・豊岡 糸勝楼
 8 月、第 2 回毎日書道展・都美術館
 8 月、日本総合書道展・都美術館
 11 月、第 5 回日展・都美術館
- 昭和 25 (1950) 年 1 月、第 3 回書道芸術院・都美術館
 5 月、第 1 回書之美公募展・豊岡、大阪
 10 月、第 6 回日展
 12 月、上田桑鳩『書之美』刊行
- 昭和 26 (1951) 年 1 月、「 α 部、商業美術部」始まる
 1 月、第 4 回書道芸術院展・都美術館
 3 月、京都大講習会、相国寺本山
 4 月、雪村出京
 6 月、第 2 回書之美巡回展・京都、広島 (熊野)、岡山、愛媛、新潟、青森
 6 月、『墨美』創刊
 7 月、新書人グループ
 8 月、青年書家グループ
 10 月、第 3 回毎日展・都美術館
 10 月、第 7 回日展 (題名にて波紋を投ず)
 11 月、奎星会再編成、第 1 次同人 (82 名)、会員 (165 名) を発表
- 昭和 27 (1952) 年 1 月、第 1 回全日本青少年書道展・大阪市立美術館
 2 月、第 1 回奎星展、会長上田桑鳩
 3 月、墨人会結成、『書之美』廃刊
 6 月、奎星会機関紙『奎星』を創刊
- 昭和 28 (1953) 年 3 月、奎星会書道研究協議大会・有馬温泉
 8 月、青年書家グループ研究会

昭和 29 (1954) 年 7 月、第 6 回毎日書道展、墨象美術・近代詩文書新設
昭和 30 (1955) 年 8 月、上田桑鳩日展離脱表明
8 月、「現代日本の書、書の芸術」国立近代美術館
6 月、奎星会ニューヨーク展
昭和 31 (1956) 年 5 月、奎星会アメリカ巡回展国内展示「東西美術の交流展」
銀座村松画廊
10 月、第 1 次奎星会アメリカ巡回展 ワシントン他 7 カ所
10 月、宇野雪村日展離脱
昭和 32 (1957) 年 3 月、第 2 次奎星会巡回展シカゴ他
昭和 33 (1958) 年 3 月、「前衛書代表作家展」主催毎日新聞社・そごう
8 月、第 1 回毎日前衛書展（「第 10 回毎日書道展」より「第 5 部前衛作品」
が独立）
昭和 34 (1959) 年 4 月、「前衛書代表作家展」主催毎日新聞社・白木屋
昭和 35 (1960) 年 7 月、奎星会ドイツフライブルグ書道展・フライブルグ芸
術協会
昭和 41 (1966) 年 1 月、創立 25 周年記念第 15 回奎星展
昭和 43 (1967) 年 9 月、上田桑鳩没（69 歳）

昭和 44 (1969) 年 4 月、宇野雪村会長就任
7 月、第 21 回毎日書道展（「毎日前衛書展」と「毎日書道展」再び一本化）
昭和 45 (1970) 年 2 月、「原展」（主催玄美社）
昭和 47 (1972) 年 7 月、全日本書道連盟発足に参画
昭和 51 (1976) 年 3 月、創立 35 周年記念第 25 回奎星展
上田桑鳩、高橋竹村遺墨展・東京セントラル美術館
昭和 52 (1977) 年 4 月、運営組織改革（理事制度導入）
5 月、東洋書芸院創立
昭和 56 (1981) 年 3 月、創立 40 周年記念第 30 回奎星展
昭和 59 (1984) 年 7 月、第 36 回毎日書道展漢字部へ参画
昭和 62 (1985) 年 3 月、「宇野雪村、啓功巨匠書法展」北京・中国美術館
平成 3 (1988) 年 3 月、創立 50 周年記念第 40 回奎星展 近世中国明清名家書画展・
朝日生命ギャラリー
平成 4 (1989) 年 1 月、「書と絵画との熱き時代—1945~1969」・0 美術館
3 月、奎星 NA 展（NEOAVANTGARDE 展）・毎日アートサロン
平成 7 (1992) 年 4 月、宇野雪村没（83 歳）
平成 8 (1993) 年 3 月、創立 55 周年記念第 45 回奎星展 文房清玩展・東京セントラ
ル美術館

4 月、稲村雲洞会長就任

平成 9 (1994) 年 11 月、「確認・無限一奎星会代表作家展」・東京セントラル美術館

平成 10 (1995) 年 7 月、「墨魂の巨匠—現代の書 50 年」主催毎日新聞社

平成 11 (1996) 年 9 月、「上田桑鳩生誕 100 年展」・上野の森美術館

「書・上田桑鳩／現代への提言」奎星会編

9 月、「確認・無限一奎星会代表作家展」・東京セントラル美術館

平成 12 (2000) 年 3 月、「奎星新人 100 人展」・上野の森美術館

平成 13 (2001) 年 3 月、創立 60 周年記念・第 50 回奎星展「奎星・書の流れ展」・上野の森美術館

平成 15 (2003) 年 3 月、「奎星選抜 100 人書展」・上野の森美術館

平成 16 (2004) 年 10 月、傘寿記念 稲村雲洞「極みの宇宙展」・東京セントラル美術館

平成 17 (2005) 年 3 月、「奎星会代表新鋭作家展」・上野の森美術館

平成 18 (2006) 年 3 月、創立 65 周年記念第 55 回奎星展

「拓本を中心とする龍門石窟展」・上野の森美術館

4 月、岸本太郎会長就任

平成 19 (2007) 年 3 月、「' 07 奎星俊英作家展」・上野の森美術館

平成 20 (2008) 年 3 月、「' 08 奎星俊英作家展」・上野の森美術館

平成 21 (2009) 年 3 月、奎星特別企画 100 人の主張「' 10 奎星 50 人の書」展・上野の森美術館

4 月、菅野清峯会長就任

平成 22 (2010) 年 3 月、奎星特別企画 100 人の主張「' 10 奎星 50 人の書」展・上野の森美術館

4 月、大楽華雪会長就任

平成 23 (2011) 年 3 月、創立 70 周年記念第 60 回奎星展・役員の一部／上野の森美術館 公募の一部／東京セントラル美術館

7 月、「宇野雪村の美」新国立美術館〔主催（財）毎日書道会 毎日新聞社〕

平成 24 (2012) 年 4 月、中原茅秋会長就任

平成 25 (2013) 年 5 月、奎星会ホームページ開設

平成 26 (2014) 年 4 月、貝原司研会長就任

平成 27 (2015) 年 9～12 月、上田桑鳩関連の展覧会が各地で開催された

平成 28 (2016) 年 4 月、中原志軒会長就任

9 月、第 3 代会長稲村雲洞没 (91 歳)

10～11 月、奎星会創立 75 周年第 65 回記念展・東京都美術館

「先人の書」展示『松居遊見叟碑稿』刊行

奎星会通史

2010年（平成22年度）

4月

2～14 十勝管内書道団体代表作展 北海道 帯広市民ギャラリー 奎星会関係：
長沼透石、鈴木添幽、八重柏冬雷、野坂武秀、大森洋臣、安江翠泉

10 平成22年度北海道奎星会総会開催

12 奎星会おびひろ 「毎日展のための研修会」 北海道 帯広柏葉高等学校・書道
教室

17～19 知命+6 富山奎星書作展 富山市 富山県民会館ギャラリーB 石井 駿、
他

26 奎星会4月常任理事会 東京・千代田区 貸会議室・プラザ八重洲北口

第1号議案 奎星会新正会員・推挙会員・昇格会員に関する件

第2号議案 平成22年度奎星会事務局担当承認に関する件

第3号議案 奎星会6月理事会に関する件

第4号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第5号議案 第59回・第60回記念奎星展に関する件

第6号議案 「10奎星50人の書」 展に関する件

第7号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第8号議案 奎星会予算委員会に関する件

第9号議案 毎日書道会・第62回毎日書道展に関する件

第10号議案 第10回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

報告 全書連・事務局各部よりの件、平成22年度奎星会会員昇格・新正会員推挙者

◇特別同人会員 石井鳳村、武田綾苑、得能新太郎、榛葉壽鶴、

牧野光翠、増田素馨、辻庸三郎、原 香暘、坪井祥畝

◇同人会員 中村紫泉、荒川泰石、竹澤順子、上木淳吉、浅田登仙、

今田鈴子、喜代吉博美、佐々木良子、脇 壽子、重松竹邦

◇無鑑査会員 大森洋臣、安江翠泉、矢沢輝乙、松井竹香、

斎藤桂夏、池田可葉、星野優子、山野辺観月、井口陽世、稲垣楽水、

藤原 香、岩本光南、谷村秀格、石井窓月、平山憲龍、山崎美紀子、

斉藤浩子、西原美琇、佐藤鈴風、島田妙子、杉原美翠、新田彩陽、

牧野彩葉、三宅圭子、赤尾香石 磯部紅月 長尾翠香 藤岡望雲、

溝渕育代、横倉紀子、日野紅雪、松尾碧楓

◇正会員 岩間弘子、小野里裕子、大滝 縁、大柳加奈子、高橋柳泉、

中川佳風、森岡美香、菅 輝子、高島霽龍、中川和也、鈴木千代美、

望月裕華、中川雅夫、沖田寿江、下村玲子、杉山由美子、中務競子、

長谷川聖華、灘野由美、久谷敦子、元木勝恵、aki、坂井幸子、
田中芳佳、藤若兼利、水津あや子、山扶美枝、榎岡柴風、
矢研田聡子、浮田光浄、佐藤仁美、筒井将隆、林悦子、岡田水鏡、
河田光代、北川悦子

平成 22 年度奎星会事務局担当

代表部：大楽華雪、堀吉光

総務部：田村空谷、豊田法子、國友和子、鈴木邦子、新納大順

代表会計部：中嶋董園、天野碧邨

情報システム部：天野碧邨、新納大順

展覧会部：中原志軒、丸尾鎌使、森禾甕、天野碧邨、小野恵子、

高北颯、山後墨仙、田岡楚香、中野浦子、成田誠一 会計・武田綾苑

書教育部：齋藤義雄、荒井星冠、安藤園美、駒井光明、谷酒恵秋、

西川高洞

研究部：相原雨雪、堀吉光、天野碧邨、下垣内裕子、松本昂星、山田翠香 会計・
天満雨丘

出版部：山本大廣、本川須美子、志村文浩、竹澤順子、谷澤晶華、友葭良一、横山千
恵美

特別対策部：相原雨雪、鎌田恵山、岡本正志、浦田篁苑、佐々木龍雲、天満雨丘、中
西浩暘、堀吉光、吉田青雲

記念事業実行委員会 顧問：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯

参与：越水春汀、小森秀雲、小黑五稜 実行委員長：大楽華雪

副実行委員長：中原茅秋 事務局長：田村空谷

実行委員：貝原司研、玉村霽山、中原志軒、三野透穹、山本大廣、相原雨雪、赤池艸
裕、外林道子、中西浩暘、原雲涯、東原吐雲、

堀吉光、丸尾鎌使、吉田青雲

企画委員会 中西浩暘、外林道子、相原雨雪、石井抱旦、川邊艸笛、中原志軒、堀吉
光 奎星会事務局事務局長：堀吉光

次長：新納大順

27～5/5 第 6 回青青社書展—書をたのしむ— 北海道 札幌資料館ミニギャラリー
竹下青蘭、他

5 月

6～29 増田茅山遺墨・圓珠展 「書の華 禪堂に満つ」 小田原

華岳山福泉寺

19～23 第 36 回茅花展特別企画 「偽文字とあそぶ」 神奈川 茅ヶ崎市民文化会
館 石井抱旦、他

20～23 第 47 回新生書現代総合書展 広島 広島県民文化センター 貝原司研、他

21～23 41歳の春だから 井上琢也書作展 長崎・南島原市 ありえコレジヨホール・Aコープありえ店内お茶の山口園奥

23 奎星会予算委員会開催 東京・港区 ホテルはあといん乃木坂

6月

1～13 「動的線条」 友葭良一展 京都・左京区 ギャラリー一揺

9 毎日書道会第65回理事会開催 東京・千代田区 如水会館

20～30 ギターの響—桃太郎展、千葉・野田市 ギャラリー一道物語

22～27 第18回国際架橋書会選抜展 革新！伝統！実験！と 東京・中央区 東京鳩居堂画廊」 奎星会関係：穴吹放牛

24 奎星会5月常任理事会 東京・港区 ホテルはあといん乃木坂

第1号議案 第60回記念奎星展に関する件

第2号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第3号議案 予算委員会に関する件

24 奎星会6月理事会 東京・港区 ホテルはあといん乃木坂

第1号議案 平成21年度収支決算報告の件

1. 代表会計部

2. 奎星会一般会計

3. 奎星展会計

4. 会計監査報告

第2号議案 第60回記念奎星展に関する件

第3号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第4号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第5号議案 毎日書道会・第62回毎日書道展に関する件

第6号議案 第11回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

報告：全書連・事務局各部よりの件、他

25～27 第39回書の古典と現代 青奎展—併催・石橋青紅喜寿記念書作展—青森 青森市民美術館 石橋青紅、他

26～7/24 第15回うちげえのアートおおや 兵庫 ふるさと交流の家いろり 奎星会関係：近藤研秀

26～27 第54回若草天真書道展—古典から前衛— 兵庫 兵庫県民アートギャラリー— 左右津安輝子、他

29～7/4 第5回7・COLORS展—書を謳うPartⅡ— 兵庫・神戸市 ギャラリーミウラ

30～7/4 第52回墨華書道展 香川 高松市美術館 東原吐雲、他

7月

2～4 第14回凡友会書作展 新潟 新発田市民ギャラリー

山口溪舟、他

7~8/3 第62回毎日書道展東京展 特別展示 「生誕110年記念 松井如流一書・学一如の生涯」 東京・港区 国立新美術館 前期Ⅰ期 7月7日~12日 前期Ⅱ期 7月14日~19日 後期Ⅰ期 7月21日~26日 後期Ⅱ期 7月28日~8月1日
12 第62回毎日書道展奎星会関係受賞者祝賀会 東京・千代田区 グランドプリンスホテル赤坂

12~17 第24回毎日書道中国へ書の研修視察団 豊峯會書
東京・千代田区 アートサロン毎日」 奎星会関係：菅野清峯、井上鳳園、糸井 綾

第62回毎日書道展受賞者（奎星会関係）

◇会員賞 木下彰司〈漢字部〉、谷野成子〈前衛書部〉、植松桂春〈前衛書部〉

◇毎日賞

一漢字部Ⅰ類一内田順子、日野紅雪、山本紫燧

一漢字部Ⅱ類一細羽香雨、北川陽子

一前衛書部一温井和海、川端由紀子、甲山京子、富依綾子、島田妙子、西村粹香、真鍋草香、佐野昌苑

◇秀作賞

一漢字部Ⅰ類一山下翠園、今岡香風、大原玉漣、鈴木清華、徳丸華川

一漢字部Ⅱ類一中谷明海 池田孝治、増田奈々子、佐々葉睦子、

今村秀範、桜田深雨、磯部紅月、石田景雲 一前衛書部一矢澤輝乙、

二見秋桜、石黒幸栄、杉浦光慶、竹村美園、森本由佳、川瀬風子、小阪節子、村山京子、水原千里、小田厚美、坂井幸子、中山瑞園、尾形玉苑、谷川美仙、徳永好苑、宮崎愛子、山道虹舟

◇佳作賞

一漢字部Ⅰ類一大塩星雨、高橋亜弥、松田香月、宮沢嶺彩、本 玲舟、忽那玲香、石橋壯心、岡田水鏡、戸田溪洞、森 悠翠、渡邊玉朱

一漢字部Ⅱ類一石井章子、清水桂泉、代田梅鳳、二宮 盛、

二瓶竹聖、別田華楊、吉田翠紅、長谷川千依乃、山根幸子、岡田紫紅、濱田葉雪、古川心翠、岡崎華鳳、田村香雨

一前衛書部一桜庭青泉、田村奈津子、千葉香蓉、千田信江、大野晶子、

及川小華、永井美奈子、北田朋子、志村香竹、高橋彰子、高橋美穂子、

田中一瑤、都谷森信子、今井春鈴、古山和風、上口由紀子、

田辺真寿実、山田尚子、渡辺碧匡、宮村、弦、森 白陽、木田博子、

草刈里子、中務競子、藤川智彦、村山茂子、大石道子、小林安耶、

島田和妙、杉本美翠、竹久清蘭、竹内小夜、中津春月、藤岡望雲、

岩谷桂雪、右田恵水

◇U23 新鋭賞—前衛書部—中川和也

◇U23 奨励賞—漢字部—宮田寿心 —前衛書部—大石 幸

14~19 第27回菱湖會書展：新潟 新潟市豊栄博物館 小黒五稜、他

15~19 第48回燧洋會書展：愛媛 今治市河野美術館 友近吾邑、他

22~25 第29回大東文化大学鹿児島県人書道展 鹿児島 鹿児島県歴史資料センター黎明館 奎星会関係：蒔平桃太郎

22~25 第16回象展 愛媛 愛媛県美術館南館 鎌田恵山、他

23~25 平成22年度奎星会夏期書道研究大会（岡山） 岡山・倉敷市 鷺羽ハイランドホテル

7月23日（金） ◇居延漢簡 講師：田村空谷、玉村霽山 助講師：赤池艸裕、丸尾鎌使 ◇古泉文 講師：岸本太郎、小黒五稜、

中原志軒 助講師：原 雲涯 ◇漢字創作（自由）

7月24日（土） ◇建中告身帖（顔真） 講師：大楽華雪、中原茅秋

助講師：相原雨雪、吉田青雲 ◇前衛書（創作） 講師：菅野清峯、山本大廣 助講師：中西浩暘、東原吐雲

7月25日（日） ◇枯樹賦（遂良） 講師：稲村雲洞、貝原司研

助講師：吉田青雲、堀 吉光

24 第45回奎星会おびひろ夏季錬成会 北海道・帯広市 音更町集団研修施設

29~8/3 遊墨展—墨を基調にした多彩な表現— 埼玉・越谷市 ギャラリーK 奎星会関係：蒔平桃太郎

8月

3~7 第36回日・韓美術交流会展 東京・新宿区 駐日韓国大使館韓国文化院・ギャラリーM1 奎星会関係：蒔平桃太郎

4~8 第62回毎日書道展関西展 京都 第1会場／京都市美術館本館 第2会場／京都市美術館別館 第3会場／日図デザイン博物館

6~8 全日本書道連盟主催 第36回夏期書道大学講座 東京・港区 赤坂ツインタワー東館3F 奎星会関係：◇文物鑑賞 講師：玉村霽山

11~15 第62回毎日書道展四国展 愛媛 愛媛県美術館南館

22~26 第62回毎日書道展北陸展 富山 富山県民会館

24~29 第62回毎日書道展中国展 広島 広島県立美術館県民ギャラリー

24~29 第34回書壇巨匠展MINI作品 東京・中央区 東京銀座画廊・美術館 奎星会関係：稲村雲洞、大楽華雪

26~31 第55回北海道奎星書道展 北海道・函館市 「テーオー小笠原」 木村蒼人、他

27~29 第46回飛龍書道展—現代書の総合展— 長崎・諫早市 諫早文化会館 出口恵山、他

9月

4～12 第4回平成の書星 激書人翠峰の世界 広島・広島市 クレドパセーラ9Fカ
ルチャブレイス

5 奎星会9月常任理事会開催 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

第1号議案 第60回記念奎星展に関する件

第2号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第3号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 毎日書道会、毎日書道展に関する件

第6号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第7号議案 事務局各部よりの件

報告：全書連、宇野雪村賞、毎日展祝賀会、他

9 全日本書道連盟臨時総会開催 東京・千代田区 如水会館

1. 公益社団法人への認定申請について

1. 定款変更について

1. その他

9～12 第34回玄倉社展 神奈川 平塚市中央公民館市民ギャラリー 中原茅秋、他

16～19 琴風会展一読めない書と読める書と一 静岡 藤枝市文化センター 櫻井
琴風、他

18～19 第61回五風書展一書の心を探求する一 島根・浜田市 石中央文化ホール 喜
代吉鐵牛、他

23～26 愛前會創立20周年記念選抜展～希望と和をつなぐ書三人展～ 兵庫 兵庫
県民会館 前田敦子、他

24～26 富山奎星書作展 知命+7 富山 砺波市美術館
石井 駿、他

10月

2～11/14 比田井天来門流展一佐久市新市5周年記念特別展

長野 佐久市立天来記念館 奎星会関係：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯、大楽華雪

5～10 第45回墨象会展 岡山 岡山県天神文化プラザ

佐藤周郷、他

10～13 第10回記念墨翠會書道展 広島 府中市上下歴史文化資料館、山田翠香、
他

12～20 7SEVEN展 東京・新宿区 セッションハウス・ガーデン 奎星会関係：薙平
桃太郎

14～19 第9回国際書法交流奈良大展 奈良 奈良県文化会館 奎星会関係：相原雨

雪、稲村雲洞、小黒五稜、貝原司研、
岸本太郎、越水春汀、菅野清峯、外林道子、大楽華雪、田村空谷、中西浩暘、中原志
軒、中原茅秋、堀 吉光、山本大廣、吉田青雲

15～17 第 64 回飛雲展—現代書の総合展— 兵庫 兵庫県立美術館王子分館・原田
の森ギャラリー 藤原一三、他

15～21 2010 年 菁槌社書展 東京・渋谷区 ギャラリー6

玉村霽山、他

18～21 第 18 回玄書人會展 新潟 新潟県民会館 3F ギャラリーA 小黒五稜、他

23～24 第 33 回書と華 富山・南砺市 福野文化創造センター

松本燐之、他

27～31 第 25 回東京都障害者総合美術展—美のなかにふれあいがある— 東京・豊
島区 東京芸術劇場 書部門審査員：堀 吉光

31～11/10 第 11 回 「宇野雪村賞」 全国書道展 兵庫・新温泉町 浜坂先人記念
館 以命亭ホール

「一般の部」

宇野雪村賞・文部科学大臣賞 野村千恵子

奎星賞 宮村 弦、村山京子、島田和妙

兵庫県教育長賞 堀内 肇、佐藤荷舟、葛野富子

新温泉町長賞 志村香竹、平山憲龍、山扶美枝

新温泉町教育長賞 岸川京子、青野妙子、林 直美

新温泉町議会議長賞 坂井柳泉、田中由紀子、簡 康恵

奎星会会長賞 石田敬子、土生田猛、山本好永

「学生の部」

奎星賞 和多光仁、小畑瑞貴、森下沙和

新温泉町長賞 茂田 翔、末永彩香

新温泉町教育長賞 阿部愛理 北野あゆみ、橋本佳奈、藪内大介、空田奈緒

11 月

5～7 第 15 回梅花書展 神奈川 小田原市民会館 山口昌村、他

9～14 第 36 回墨盈会書作展—熱き思いを現代書に— 広島・福山市 ふくやま書道
美術館市民ギャラリー 相原雨雪、他

9～14 第 39 回北海道書道連盟展 北海道・札幌市 ギャラリー大通美術館、大丸藤
井セントラル 奎星会関係：長沼透石、竹下青蘭

12～14 森岐山古希展・光楓展 長崎 佐世保市博物館、島瀬美術センター 森 岐
山、他

14 奎星会 11 月常任理事会開催 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

第 1 号議案 第 60 回記念奎星展に関する件

第2号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第3号議案 奎星会企画委員会に関する件

第4号議案 毎日書道会・毎日書道展に関する件

第5号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第6号議案 事務局各部よりの件

22 毎日書道会役員作家による 「干支（卯歳） 文字切手」 発売 奎星会関係：
稲村雲洞

25～30 第46回奎星会おびひろ書展 北海道 帯広市民ギャラリー 八重柏冬雷、
他

12月

3～5 第4回壘土舎展—新進作家が書の美を求めて集う— 大阪 大阪産業創造館
奎星会関係：川邊艸笛、谷川ゆかり

8～20 第23回国際架橋書展 東京・港区 国立新美術館 奎星会関係：穴吹放牛

9 毎日書道会理事会 東京・千代田区 如水会館

◇第63回毎日書道展役員（奎星会関係） 「各展実行委員長」 北陸展 山本大廣
九州展 井上星峰 「運営委員」—漢字部—相原雨雪

前衛書部 鎌田恵山 高郷石峰、丸尾鎌使

◇毎日書道会人事 「参与会員」 高郷石峰（前衛書部）

「審査会員」 —漢字部—木下彰司 —前衛書部—植松桂春、谷野成子

「会員」 —漢字部—岡田紫紅、尾形玉苑、徳丸華川、中谷明海、

濱田葉雪 —前衛書部—川瀬風子、北川陽子、小阪節子、西村粹香

「特別選考による審査会員」 —漢字部—西川高洞、森 禾甕、

山口昌村 —前衛書部—林 幽桂、八重柏冬雷

「特別選考による会員」 —漢字部—高橋亜弥、松田香月 —前衛書部—金原鷲峰

10～12 第22回にこにこ展 墨に寄せる思い… 千葉・野田市 ギャラリー—道物語
薙平桃太郎、他

11～1/8 西武 I・C・C 現代書グループ展 東京・中央区 銀座プロムナードギャラ
リー 岸本太郎、他

11～12 書作グループ 「會」 現代書展 広島・呉市 大和ミュージアム市民ギャ
ラリー 福島佐苑、他

14～19 第22回—華会展 —書の総合展— 広島・福山市 ふくやま美術館ギャ
ラリーホール 大楽華雪、他

17～19 第40回記念玄同社展 東京・中央区 銀座洋協ホール 稲村雲洞、他

18～19 特別企画 奎星会おびひろ冬期特別錬成会 北海道・帯広市 音更町集団研
修施設

1月

3~16 2011 えとの現代書展 「うさぎ」展 福井・福井市 ハーモニーホールふくい 山本大廣、他

5~10 第43回玄穹書道会展—インテリアの書— 広島・福山市 ふくやま美術館ギャラリー 伊豆田雪岳、他

5~10 —今いきづく墨の華—2011年「現代の書新春展」 和光ホール 30人展 東京・中央区 和光本館6階 奎星会関係：稲村雲洞、

岸本太郎、菅野清峯、大楽華雪、中原茅秋

セントラル会場 100人展—60歳以下の作家による— 東京・中央区 「東京セントラル美術館」 奎星会関係：江草和彦、原田遊山、

堀 吉光（漢字部） 小野恵子、北谷翠峰、喜代吉鐵牛、佐伯孝子、

丸尾鎌使（前衛書部）

6~11 身近に楽しめる書のコレクション 2010 毎日新春チャリティー書展 東京・中央区 松坂屋別館カトレヤサロン

奎星会関係：相原雨雪、石井 駿、石井抱旦、伊豆田雪岳、稲村雲洞、

井上星峰、梅木春華、浦田篁苑、小野恵子、鎌田恵山、岸本太郎、

越水春汀、佐々木龍雲、榛葉壽鶴、菅野清峯、鈴木邦子、大楽華雪、

大六泉嶽、高郷石峰、玉村霽山、田村空谷、千葉半匡、中西浩暘、

中原志軒、中原茅秋、西田徹心、原 雲涯、堀 吉光、丸尾鎌使、

山田翠香

6 奎星会1月常任理事会開催 東京・中央区 八重洲富士屋ホテル

第1号議案 奎星会理事会、総会に関する件

第2号議案 奎星会創立記念事業に関する件、「宇野雪村の美」記念式典

第3号議案 第60回記念奎星展に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第6号議案 毎日書道会、毎日書道展に関する件

第7号議案 事務局各部よりの件、その他

報告：全書連、現代の書新春展、毎日新春チャリティー書展、現代女流書 100人展、他

8~10 池田孝治書作展 兵庫・神戸市 「原田の森ギャラリー」

92011年新春ウルトラ書きぞめ会 広島・広島市 基町クレドふれあい広場 北谷翠峰、栗原桜水、田原春夕

12~16 書壇受賞に輝く作家展 東京・中央区 東京セントラル美術館 奎星会関係：木下彰司、谷野成子、高川ツヤ子、高 北颯、

呉田志帆、松本昂星、国竹雨杏、高橋勝紅

14~16 書勢会会員展一書のころー 福井 福井県立美術館 林 一昭、他

15~30 第8回書と非書の際 京都・舞鶴市 まいづる知恵蔵

奎星会関係：友葭良一、山本大廣

21~23 第58回福井奎星展 福井県立美術館 千葉半厓、

山本大廣、他

26~ 第35回書界社展 愛媛・愛媛県美術館南館 吉田青雲、他

27~2/1 全十勝書道作品展 北海道 帯広市民ギャラリー

八重柏冬雷、他

2月

1~7 第42回現代女流書100人展 併催 「現代女流新進作家展」 東京・中央区

日本橋高島屋

奎星会関係：100人展 浦田篁苑、外林道子（漢字部） 上田幸加、小林信恵、佐伯孝子、榛葉壽鶴、福島佐苑、平野翠甫、森原恵華

（前衛書部） 新進作家展 谷野成子（前衛書部）

2~3 第63回毎日書道展運営委員会 東京・千代田区 如水会館 第63回毎日書道展主要役員

奎星会関係：会員賞選考委員 理事 大楽華雪、中原茅秋 〈前衛書部〉鎌田恵山、高郷石峰、丸尾鎌使 運営小委員：丸尾鎌使（前衛書部）

本年度審査員：〈漢字部Ⅰ類〉吉田青雲 〈漢字部Ⅱ類〉小黒五稜、島田啓敬、福島佐

苑 〈前衛書部〉石井 駿、上田幸加、金竹秋苑、喜代吉鐵牛、近藤幸成、竹下青蘭、

田村空谷、千葉半厓、原田心龍、

東原吐雲、藤原一三、丸尾鎌使

前衛書部審査副部長：東原吐雲

漢字部審査委員：〈漢字部Ⅰ類〉藤岡抱玉、佐藤奎玉、森田華舟 〈漢字部Ⅱ類〉岡本正志、小田原正龍、森 岐山、堀 吉光、岡本正志、笠原康伸

前衛書部審査委員：鎌田恵山、石井抱旦、榛葉壽鶴、天満雨丘、

野坂武秀、前田敦子、三石真仙

陳列部部長補佐：丸尾鎌使

総務部副部長：中原志軒

陳列部副部長：石井抱旦

4~13 第8回書と非書の際 京都・京都市 ART FORUM 奎星会関係：友葭良一、山本大廣

11~3/31 豊田法子書展 千葉・取手市 田中酒造店2F やねうら画廊

11~12 墨艸'11展 大阪 高槻市現代劇場 川邊艸笛、他

15~20 '11毎日現代書北陸代表作家展 福井 福井県立美術館

17～23 第 18 回神奈川県代表書家展 併催 「新進作家展」 神奈川・横浜市 ゴールデンギャラリー、ギャラリー守玄齋 奎星会関係：石井抱旦、玉村霽山、中原茅秋、小野恵子（新進作家展）

18～21 第 5 回書人秋田会 仲間と展 併催 「稲村雲洞先生臨書展」 秋田市 アトリオン 加藤了楓、他

27 書けた！描けた！できた！ーこの喜び笑顔を感じたいー 東京・新宿区 YKB マイクガーデン 講師：堀 吉光

28～20 11 年毎日書道展新会員作家展 東京・千代田区 アートサロン毎日
3 月

2 奎星展特別選考委員会 東京・台東区 産業貿易センター台東館

3 全日本書道連盟平成 22 年度通常総会開催 東京・千代田区 如水会館

1. 平成 23 年度事業計画案ならびに収支予算案について

2. 役員人事について

3. その他

3 奎星会 3 月理事会 東京・台東区 ホテルパークサイド不忍

第 1 号議案 総会議案に関する件

1. 平成 22 年度会務報告承認の件

2. 平成 21 年度決算・会計監査報告承認の件

3. 平成 23 年度事業計画について

4. 平成 23 年度会費決定について

5. 平成 24 年度議長団選出ならびに平成 23 年度新役員選出の件

第 2 号議案 奎星会会員推挙に関する件

第 3 号議案 第 60 回記念奎星展に関する件

第 4 号議案 奎星会創立記念事業に関する件 「宇野雪村の美」記念式典

第 5 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 7 号議案 第 12 回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

第 8 号議案 第 63 回毎日書道展、毎日書道会に関する件

第 9 号議案 事務局各部よりの件、他

報告：全書連、現代女流書 100 人展、他

7～12 第 60 回記念奎星展 東京・台東区 上野の森美術館

〈役員の一部〉

東京・中央区 セントラル美術館

〈公募の一部〉

3/2 搬入 3 整理 4～5 鑑審査・整理 6～7 陳列 7～8 開会

11 総会・授賞式・祝賀会 12～13 閉会 ◇第 60 回記念奎星展受賞者：

〈役員の一部〉

上田桑鳩記念賞 田鹿碩峰
宇野雪村記念賞 横田典子
同人特別賞 廣田 修、菅谷澄水、那須雨情、瀬尾良乃、
河野隆志、谷澤晶華、松永馨山、碓氷敏江
高橋竹村記念賞 真鍋智浩
天野翠琴記念賞 松田香月
清田岱石記念賞 菅原 茂
弦巻松蔭記念賞 恩田蒼雲
上松杜暘記念賞 迫 雪心
中原一耀記念賞 塩田桜華
無鑑査特別賞 佐々木光子、桃太郎、岩藤万里恵、竹村美園、
橋本安希子、川口絮風、上岡啓翠、真鍋草香、岩谷桂雪、片山千能生

〈公募の部〉

毎日新聞社賞A部 中井梓翠
毎日新聞社賞B部 友近吾鳳
毎日新聞社賞C部 井澤静岳
奎星賞A部 高橋彰子、松本丹芳、舟岡圭昭、灘野由美、大石道子、中宗澄香、林 直
美、湯上紅蓮、井原進一、中原景雲
奎星賞B部 常重一志、森岡美香、廣狩礼花、丹木恵香、奥村秀麗、織田香里
奎星賞C部 岡田昌子
特選A部 木村昌代、坂井紀子、青木紀子、長島 舞、健名文一、
藪崎佳堂、佐野成風、宮村 弦、池田綾香、長島毬果、園田ちづる、
藤川智彦、増田奈々子、都野守和美、春名直子、中本由利子、
由田有香里、槇岡柴風、丹木恵香、高橋光恵、浅海ひとみ、佐藤光邦、
石井美峯、大平祥子、高木溪雪、林 悦子、海老原碩風
特選B部 大森杏霞、及川小華、遠藤綾苑、原山胡芳、和田白浪、渡邊香織、出口朱
恍、山田南風、水上栄子、高島霽龍、山本真理子、村山京子、中村心泉、森本きく子、
菅能紅香、森 美汀、発知青藍
特選C部 吉田翠紅、城田布子、上田真裕、石川美穂子、藤原早苗、
加地美智子
準特選A部 大橋麻弥、小室聡美、西山晃代、濱田舟漣、高橋美恵子、川幡梨、南部
千佳、中山紀凌、西島永恵、志村文浩、石田純子、鈴木光波、井澤奈々美、大石愛花、
大石恵子、神山和子、鈴木紀美代、
佐藤環水、寺田和雪、倉木有佳子、福井栄華、小林 希、曾根幸博、宮崎洋子、厚井
幸子、水原典子、岡本知子、榎本千恵、竹内小夜、谷本福染、浮田光淨、佐藤仁美、
植田みどり、横山里美、泉 雅子、野村百合、岡崎華鳳、北川悦子

準特選B部 櫛田由香、加藤了楓、山下翠圃、岸本 暁、平山登美子、大谷勢津子、植草牧子、近藤深祥、石坂幸子、天野鏡子、西野竹影、菅 輝子、高澤利江、井上秋子、勝正紫蘭、亀田瑠花、杵鞭蓬春、

笠井翠月、平沢咲果、高木伸葉、石黒幸栄、中嶋京子、西岡三千男、木村美游

特選C部 小川清篁、野地實人、竹内華抄、窪田信子、中川和也、小林 希、泉 雅子、岡 香里

褒賞A部 田中裕子、工藤香蘭、福士沙希、川口澄子、松尾昌美、

今井春鈴、山岸鹿聲、岩本光風、小松弘明、飯見真由、植村晶子、

中山瑞園、坂井幸子、吉田和代、川上真理子、田中芳佳、水津あや子、佐藤由身子、渡邊里彩、佐藤由紀代、片山瑠美、園田春汀

褒賞B部 酒井清華、加藤由加里、水谷節子、田中紀代子、渡辺潮園、

飯野千恵子、河野和子、渡辺春林、青木桂山、伊藤美姫、藤若兼利、

迫田康子、草場丘遙

褒賞C部 松崎恵子、賀川秋泉、永丘浩一、佐伯豊山、諸富如水

11 奎星会総会・第60回記念奎星展授賞式・記念祝賀会 東京・千代田区 グラ ندプリンスホテル赤坂

◇奎星会総会

議事

第1号議案 平成22年度会務報告承認の件

第2号議案 平成21年度各部収支決算報告・監査報告承認の件
・代表会計部・一般会計（奎星会事務局）・奎星展会計・監査報告承認の件

第3号議案 平成23年度事業計画承認の件

第4号議案 平成23年度会費決定の件

第5号議案 平成24年度議長団選出ならびに平成23年度新役員選任の件

その他 新役員挨拶、他

◇平成23年度奎星会役員

最高顧問：稲村雲洞、岸本太郎

名誉会長：菅野清峯

会長：大楽華雪

副会長：小黒五稜、貝原司研、玉村霽山、田村空谷、中原茅秋

名誉顧問：越水春汀、小森秀雲、濱田素山、守時大融

顧問：出口恵山、福田石峰

相談役：井上星峰、榎本 深、丸尾玉蘭、森 須園、山崎灘青

参与：梅木春華、山藤耕子、榛葉壽鶴、高郷石峰、武田綾苑、

豊田法子、千葉半匡、長沼透石、平野翠甫、藤原一三、牧野光翠、
道方芳堂、三野透穹、森原恵華

理事長：堀 吉光

副理事長：相原雨雪、外林道子、中原志軒、山本大廣

常任理事：赤池艸裕、石井 駿、石井抱旦、近藤幸成、佐々木龍雲、鈴木邦子、中西
浩暘、東原吐雲、丸尾鎌使、吉田青雲

理事：天野碧邨、岡本正志、鎌田恵山、大六泉嶽、竹下青蘭、
中嶋董園

評議員：小野恵子、浦田篁苑、中野浦子、成田誠一

監事：石井抱旦、鈴木邦子

議長団：西田徹心、西村九十、松下琴舟（平成 24 年度）

11 14：46 授賞式最中、東日本大震災発生の為、記念祝賀会は中止。

19～21 第 29 回朴翠社書道展 広島市 ぎやらりい NEW くわもと 北谷翠峰、他

19～23 第 3 回成臼舎書展 香川 香川県文化会館 東原吐雲、他

23～29 中村瑤光と仲間たちの書作品展 兵庫 神戸市教育会館（ひつじの館ギャラ
リー） 中村瑤光、他

24～29 第 17 回象展－住み処に生きる－ 愛媛・松山市 ギャラリーリーブ・アート
鎌田恵山、他

2011 年（平成 23 年度）

4 月

1～4 第 13 回ベナール美術展－2011 大作で競う－ 福井 福井県立美術館 奎星会
関係：千葉半匡、山本大廣

11～16 堀内 肇個展－26 のカタチ abc の新しい文字たち－
東京・港区 PInpoInt Gallery

22～5/5 原雲涯個展 書のすがた－線の交響－UngaI 長崎市 K T N ギャラリー

28～5/1 第 24 回圓珠書展 神奈川・小田原市 飛鳥画廊
関野空翠、他

30 奎星会 4 月常任理事会 東京・千代田区 プラザ八重洲北口

[議案事項]

第 1 号議案 奎星会新正会員・推挙会員・昇格会員に関する件

第 2 号議案 平成 23 年度奎星会事務局担当承認に関する件

第 3 号議案 奎星会 5 月常任理事会・6 月理事会に関する件

第 4 号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第 5 号議案 第 60 回記念・第 61 回奎星展に関する件

第 6 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 7 号議案 毎日書道展作品研究会に関する件

第 8 号議案 奎星会予算委員会に関する件

第 9 号議案 毎日書道会・第 63 回毎日書道展に関する件

第 10 号議案 第 12 回 「宇野雪村賞」 全国書道展に関する件

報告：稲村雲洞米壽記念展・全書連・事務局各部よりの件・他

平成 23 年度奎星会会員昇格・新正会員推挙者：

◇特別同人会員 田村空谷、豊田法子、梅村郁華、高川ツヤ子

◇同人会員 佐々木光子、作田清英、千葉香蓉、義森翠琴、國友和子、
清水桂泉、古山和風、松田香月、竹村美園、小川椛蘇、石川静穂、佃 清峰、真鍋智
浩、上岡啓翠、川上大雪、迫 雪心、塩田桜華、
中村碧水、平江重徳

◇無鑑査会員 田中裕子、青木紀子、大澤乃李、大野悦子、木村佐枝子、

桑名江里子、高橋佳子、常重一志、檜崎京子、石井丹青、新海三千子、

遠藤綾苑、高橋彰子、濱田舟漣、原山胡芳、杵鞭蓬春、菅井慶城、

星 蕪舟、山田南風、水上栄子、井澤奈々美、佐野成風、鈴木光波、

宮村 弦、藪崎佳堂、石田雅子、村山京子、曾根幸博、田中藤子、

中田瑠園、中山瑞園、宮崎洋子、山根幸子、出井悦子、中本由利子、

花谷径苑、石井美峯、大平祥子、木村美游、竹内小夜、藤澤溪紅、

井原進一、菅能紅香、佐野昌苑、中原景雲

◇正会員 大高絵里、小川清篁、熊谷裕光、櫛田由里、野地實人、

長島 舞、出口朱悦、和田白浪、川幡梨燐、井上秋子、勝正紫蘭、

近藤深祥、高澤利江、西野竹影、中山紀凌、西島永恵、池田綾香、

園田ちづる、佐藤環水、寺田和雪、山本真理子、廣狩礼花、城由布子、小林 希、中

嶋京子、辻野裕子、津野守和美、中宗澄香、渡辺和夫、林 直美、丹木恵香、浅海ひ

とみ、佐藤光邦、高橋光恵、佐藤由身子、湯上紅蓮、由田由香里、西岡三千男、奥村

秀麗、織田香里、岡田昌子、植田みどり、野村百合、横山里美、友近吾鳳、発知青藍

平成 23 年度奎星会事務局担当

代表部：大楽華雪、堀 吉光

総務部：堀 吉光、外林道子、

國友和子、鈴木邦子、新納大順 代表会計部：浦田篁苑、天野碧邨

情報システム部：天野碧邨、田岡楚香、新納大順

展覧会部：中原志軒、成田誠一、森 禾甕、天野碧邨、小野恵子、

高 北颯、山後墨仙、田岡楚香、中野浦子、丸尾鎌使

会計・金竹秋苑

書教育部：齋藤義雄、荒井星冠、安藤園美、駒井光明、谷酒恵秋、

西川高洞

研究部：相原雨雪、吉田青雲、天野碧邨、國竹雨杏、下垣内裕子、

松本昂星、三宅華邦、山田翠香、会計・天満雨丘

出版部 山本大廣、本川須美子、志村文浩、竹澤順子、谷澤晶華、

友葭良一、横山千恵美・会計

特別対策部：相原雨雪、鎌田恵山、岡本正志、浦田篁苑、佐々木龍雲、

天満雨丘、東原吐雲、吉田青雲・会計

記念事業実行委員会顧問：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯

参与：越水春汀、小森秀雲、小黑五稜

実行委員長：大楽華雪

副実行委員長：中原茅秋

事務局長：田村空谷

実行委員：貝原司研、玉村霽山、堀 吉光、相原雨雪、外林道子、

中原志軒、山本大廣、赤池艸裕、石井 駿、石井抱旦、近藤幸成、

佐々木龍雲、鈴木邦子、中西浩暘、原 雲涯、東原吐雲、丸尾鎌使、吉田青雲

企画委員会：中西浩暘、外林道子、相原雨雪、石井抱旦、川邊艸笛、

吉田青雲

奎星会事務局事務局長：堀 吉光

副事務局長：新納大順、丸尾鎌使、高 北颯

5月

4~8 第37回茅花展 神奈川 茅ヶ崎市民文化会館 石井抱旦、他

12 全日本書道連盟通常総会開催 東京・千代田区 如水会館 *事業報告・会計決算・役員改選が行われた。

10~15 安藤光遺作展 安藤光の世界一書は生命の躍動である一 岡山・倉敷市 倉敷市立美術館

19~22 第48回新生書 現代総合書展 広島 広島県民文化センター 貝原司研、他

25~28 第1回三余書展 神奈川 厚木市文化会館、石井鳳村、他

28~6/5 現代書展一墨のけはい一 福井・鯖江市 鯖江まなべの館 奎星会関係：山本大廣、他

6月

4~15 とりびー2011 取手市美術作家展一 茨城・取手市 とりでアートギャラリー きらり 奎星会関係：豊田法子

5 岸本太郎先生臨 「赤齋唐崎先生碑銘」を広島県竹原市、磯宮八幡神社へ奉納し式典を開催。

6~12 書七彩 東京・中央区 銀座ギャラリー向日葵 奎星会関係：鈴木邦子

9 第67回毎日書道会理事会評議委員会 東京・千代田区 如水会館

・平成22年度事業報告、収支決算報告・平成23年度予算の一部変更（東日本大震災

にともなう)、人事、事業計画

※人事(新役員奎星会関係) 理事:田村空谷 総務:中原志軒 参事:玉村霽山 評議員:相原雨雪 堀 吉光・第7次毎日書道展改革委員会:前衛書部:田村空谷、中原志軒

9~7/3 香川県美術展覧会 香川 香川県立ミュージアム、香川県文化会館 奎星会関係:墨華書道会

21~26 第19回国際架橋書会選抜展 革新!と伝統!と実験!と 東京・中央区 鳩居堂画廊 奎星会関係:穴吹放牛

23 奎星会5月常任理事会 東京・港区 ホテルアイビス
「議案事項」

第1号議案 平成22年度収支決算報告の件

1. 代表会計部
2. 奎星会一般会計
3. 奎星展会計
4. 会計監査報告

第2号議案 奎星会企画展に関する件

第3号議案 毎日展作品研究会に関する件

23 奎星会6月理事会 東京・港区 ホテルアイビス
「議案事項」

第1号議案 平成22年度収支決算報告の件

1. 代表会計部
2. 奎星会一般会計
3. 奎星展会計
4. 会計監査報告

第2号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第3号議案 第60回記念・第61回奎星展に関する件

第4号議案 奎星会企画展(東京セントラル美術館)に関する件

第5号議案 奎星会企画委員会に関する件

第6号議案 毎日書道展作品研究会に関する件

第7号議案 毎日書道会・第63回毎日書道展に関する件

第8号議案 第12回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

報告:稲村雲洞米壽記念展、全書連、事務局各部よりの件

24~26 第13回凡書友会書作 新潟・新発田市 新発田市民ギャラリー 山口溪舟、他

24~26 第40回青奎展 一書の古典と現代一 青森 青森市民美術館 石橋青紅、他

25～7/3 Vol・16 うちげのアート おおや 兵庫・養父市 ふるさと交流の家いろり 奎星会関係：近藤研秀

7月

2 濱田宙子先生、半どんの会兵庫県芸術文化賞・及川記念賞を受賞。

4～17 第23回レモンの会展—油彩、水彩、墨、版画、アクリル— 千葉・柏市 柏市民ギャラリー 奎星会関係：薙平桃太郎

5～9 田岡楚香展—墨の風韻— 東京・中央区 ギャラリー檜B・C

6～31 第63回毎日書道展東京展・特別展示 「宇野雪村の美」 東京・港区 国立新美術館 前期Ⅰ・Ⅱ期（漢字、大字書、篆刻、刻字部門） 7月6日～11日・7月13日～18日 後期Ⅰ・Ⅱ期（かな、近代詩文書、前衛書部門） 7月20日～25日・7月27日～31日

8～18 第28回菱湖會書展 新潟・新潟市 新潟市北区郷土博物館 小黑五稜、他

9 2011大正大学書道カレッジ 第63回毎日書道展特別展示 「宇野雪村の美」 講演会：東京・港区 大正大学浜松町サテライト教室 講師：堀 吉光

10～14 第2回豊峯會書展 東京・千代田区 九段ギャラリー

奎星会関係：菅野清峯、井上鳳園、糸井 綾

11～16 「第25回中国への書の研修使節団」による大一丸俱樂部書展 東京・千代田区 アートサロン毎日 奎星会関係：丸尾鎌使、谷野成子

12 第63回毎日書道展授賞式・懇親会、奎星会関係懇親会 東京・ザ・プリンスパークタワー東京

13～20 20—次元を超えて 横浜赤レンガ倉庫 神奈川 横浜赤レンガ倉庫 奎星会関係：赤池艸裕、石井抱旦、鎌田恵山、川邊艸笛、喜代吉鐵牛、外林道子、友葭良

一、中西浩暘、原 雲涯、東原吐雲、宮村 弦、和田 彩

23～25 奎星会おびひろ 第46回夏季練成会 北海道 音更町集団研修施設

第63回毎日書道展奎星会受賞者：

◇会員賞 檜垣哲一〈漢字部〉 三宅華邦〈前衛書部〉

◇毎日賞—漢字部Ⅰ類—赤尾曲川、石田景雲 —漢字部Ⅱ類—

高橋知子、桜田深雨、中井梓翠 —前衛書部—川端勇大、篠原香厓、北岡瑞桐、水野博子、笠田邦園、島田妙子、片山石城、佐仲皋陽

◇U23 毎日賞—前衛書部—梅沢祐樹

◇秀作賞—漢字部Ⅰ類—大塩星雨、宮澤嶺彩、柏木泰子、十亀厚風、

川口雅笙、戸田溪洞、忽那玲香、奥島佳枝 —漢字部Ⅱ類—別田華楊、小田厚美、小田原西湖、中村心泉、加地美智子 —前衛書部—

山崎悠永、小宮真美、塩島秋葉、竹村美園、嶋 江笛、山根美幸、

石間ふく子、井上華峰、恵美純子、菅原美由紀、横段洋子、則兼篁華、宮崎宇佐子、北川悦子、篠崎稻華、安藤凌雲、吉本波光、新田彩陽

◇佳作賞－漢字部Ⅰ類－檜崎京子、齋藤桂夏、穂刈春路、渡邊玉朱、山岡翠紅、鈴木清華、原田芳玉、篠原堅城－漢字部Ⅱ類－久保田麻裕、清水桂泉、賀川秋泉、二宮 盛、山下翠圃、吉田翠紅、小紫素勝、

堀井秀紅、山崎扶美枝 河合雨峰、豊原美砂、細羽香雨、榎 泉苑、小寺昌代、神田亜貴江、宇都宮古徑、溝渕育代 藤戸春苑 一前衛書部－小野里裕子、桜庭青泉、本田英之、菅田和萌、青木京子、

石井神華、田中一揺、津谷森信子、堀部典子、佐野成風、鈴木春溪、安達天水、笠井翠月、竹内華抄、山田尚子、坪田幸子、中西亮子、

園部麗子、石川静穂、江見容子、田畑計実、福井栄華、深田楚楓、

眞神敏恵、中尾弘子、中田貞代、和田美芳、池田竹葉、寺田和雪、

渡邊里彩、戸田芭秀、西神光雲、藤岡望雲、湯上紅蓮、清家寛大、

高橋一義、松藤由美、塚本江秋

◇U23 奨励賞－漢字部Ⅰ類－山本珠己

8月

3～7 第63回毎日書道展関西展 京都・京都市 第1会場－京都市美術館本館 第2会場－京都市美術館別館 第3会場－日図デザイン博物館

3～7 第26回東京都障害者総合美術展 美のなかにふれあいがある 東京・豊島区西武池袋本店7階特設会場

10～14 第63回毎日書道展四国展 愛媛 愛媛県美術館南館

21～25 第63回毎日書道展北陸展 富山 富山県民会館

23～28 第63回毎日書道展東海展 愛知・名古屋市 第1会場－愛知県美術館ギャラリー 第2会場－名古屋市民ギャラリー栄

23～28 第63回毎日書道展中国展 広島 広島県立美術館県民ギャラリー

25～30 第56回北海道奎星書道展 北海道・函館市 テーオー小笠原 木村蒼人、他

26～28 第47回現代書の総合展 飛龍書道展 長崎・諫早市 諫早文化会館 出口恵山、他

9月

3 奎星会9月常任理事会 東京・中央区 プラザ八重洲北口

「議案事項」

第1号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第2号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第3号議案 毎日書道展作品研究会に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 第61回奎星展に関する件

第6号議案 毎日書道会・毎日書道展に関する件

第7号議案 事務局各部よりの件

報告：全書連、第12回宇野雪村賞全国書道展、奎星会毎日展懇親会、他

8～11 第35回玄倉社書展 神奈川・平塚市 平塚市中央公民館市民ギャラリー 中原茅秋、他

9～11 第12回十来（とらい）書道会展 広島 広島県民文化センター第2展示室 西村九十、他

15～18 第30回記念大東文化大学鹿児島県人書道展 鹿児島 鹿児島歴史資料センター黎明館 奎星会関係：薙平桃太郎

16～21 第63回毎日書道展東北仙台展 宮城・仙台市 せんだいメディアテーク

16～18 琴風会書展－読めない書と読める書－ 静岡 藤枝市文化センター 榛葉壽鶴、他

16～19 第19回玄書人会展 新潟 新潟県民会館 小黒五稜、他

17～19 第55回若草天真書道展一点と線・古典から前衛－ 兵庫・神戸市 兵庫県民アートギャラリー 左右津安輝子、他

21～25 第63回毎日書道展九州展 福岡 福岡市美術館

21～25 第63回毎日書道展北海道展 北海道 札幌市民ギャラリー 役員展 大丸藤井セントラルスカイホール

21～25 相原雨雪現代書展－書の新藝を求めて－ 広島・福山市 弥勒之里美術館

23～25 富山奎星書作展－知命+8－ 富山 砺波市美術館

石井 駿、他

10月

1 吉川壽一 JR福井駅前広場で4×3.5mの布に「絆」、「元気」を揮毫。

1～2 第62回五風書展－書の心を探求する－ 島根・浜田市

石央文化ホール 喜代吉鐵牛、他

1～16 「忘我の世界」 シロキの世界'ekstasI展 東京・文京区 ギャラリー・VIGLOWA 塩川素子

6～11 現代書展 東京・中央区 銀座昶ギャラリー 豊田法子、他

12～16 第63回毎日書道展東北山形展 山形 山形美術館

14～16 第65回記念現代書の総合展 飛雲展 兵庫・神戸市

原田の森ギャラリー 桑田耕石、他

15～11/12 西武I・C・C 現代書グループ展 東京・中央区 銀座プロムナードギャラリー 岸本太郎、他

23～26 第12回「宇野雪村賞」全国書道展 兵庫・新温泉町

浜坂先人記念館以命亭ホール

〈一般の部〉

宇野雪村賞・文部科学大臣賞 寺畑 瞳

奎星賞 片山恵草、本 玲舟、濱田舟漣

兵庫県教育長賞 梅本光充、林 直美、安達天水

新温泉町長賞 佐藤如園、今井扇水、岡本知子

新温泉町教育長賞 窪田久美子、大町齊邦、庄司桂子

新温泉町議会議長賞 川口澄子、近藤朝江、眞鍋昌子

奎星会会長賞 藤野雅草、竹澤順子、小川澄江

〈学生の部〉

奎星賞 角田采摘、小畑瑞貴、樋口早紀

新温泉町長賞 本城琴音、井上咲香、阿部亜香音

新温泉町教育長賞 川添玲以、中田愛理、天野結菜、福井麻美、

中谷美穂

25～30 第35回書壇巨匠展—MINI 作品— 東京・中央区 東京銀座画廊・美術館 奎
星会関係：稲村雲洞、大楽華雪

28～30 第16回梅花書展 神奈川 小田原市民会館 山口昌村、他

29～30 第34回書と華 富山・南砺市 福野文化創造センター 松本燁之、他

11月

2～8 第42回玄武書道展 東京・台東区 松坂屋上野店南館5階美術館画廊 奎星
会関係：稲村雲洞、貝原司研、平野翠甫、

友近吾邑

11～13 第5回壘土舎展—新進作家が書の美を求めて集う—

大阪 大阪産業会館創造館 奎星会関係：川邊艸笛、谷川ゆかり

12 奎星会11月常任理事会 東京・中央区 プラザ八重洲北口

[議案事項]

第1号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第2号議案 毎日書道展作品研究会に関する件

第3号議案 奎星会特別企画展に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 第61回奎星展に関する件

第6号議案 毎日書道会・毎日書道展に関する件

第7号議案 事務局各部よりの件

報告：全書連、第12回宇野雪村賞全国書道展、稲村雲洞米壽記念 「喜悦の時空展」、
大楽華雪の世界展、他

14 祝慶 牛丸好一先生、神戸市文化賞受賞

15～20 第3回大東文化大学OB同期会書展 東京・中央区

東京銀座画廊・美術館 奎星会関係：森 禾甕

16～20 第2回焼津書友会 悠粋書展、同時開催 「岸本聿鳳先生遺墨展」 静岡 焼津文化センター展示室 奎星会関係：駒井聿碩

19～20 奎星会・毎日書道展作品研究会 岡山・倉敷市 鷺羽ハイランドホテル 講師：「顧問」大楽華雪、中原茅秋、田村空谷 「漢字部」相原雨雪、赤池艸裕、堀 吉光、吉田青雲 「前衛書部」山本大廣、中原志軒、鎌田恵山、中西浩暘、東原吐雲

22～27 第37回墨盈会書作展－熱き思いを現代書に－ 広島・福山市 ふくやま書道美術館市民ギャラリー 相原雨雪、他

22～27 おかやま県民文化祭協賛 第46回墨象会展 岡山 岡山県天神山文化プラザ第1展示室 佐藤周郷、他

23～27 武波一夫古希展－花を書く－ 富山 砺波市美術館

23～27 第53回墨華書道展 香川 高松市美術館 東原吐雲、他

24～29 第47回奎星会おびひろ書展 北海道 帯広市民ギャラリー 八重柏冬雷、他

28 祝慶 貝原司研先生、県地域文化功労者表彰受賞

29～12/4 米壽記念 稲村雲洞 「喜悦の時空展」 東京・中央区 東京セントラル美術館

12月

1～4 上羅芝山先生17回忌 研心会展 兵庫・神戸市 アートホール神戸 島田啓敬、他

2～4 第51回照心書展 神奈川 厚木市文化会館 石井抱旦、他

4～17 2011 書TEN－生きる－ 新潟 新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ 奎星会関係：坂本沙於里 薙平桃太郎

7～19 2011 The 24th 国際架橋書展 東京・港区 国立新美術館 奎星会関係：穴吹放牛

8 毎日書道会理事・評議員会 東京・千代田区 如水会館

◇第64回毎日書道展主要役員 奎星会関係：実行委員長

中原茅秋 総務部長 中原志軒

◇各展実行委員長 四国展 鎌田恵山

◇運営委員 漢字部 外林道子 前衛書部 上田幸加 近藤幸成、西田徹心

◇毎日書道会人事 名誉会員 井上星峰（漢字部） 参与会員

梅木春華、長沼透石（前衛書部） 審査会員 檜垣哲一（漢字部）、

三宅華芳（前衛書部） 会員（漢字部）、大原玉漣、桜田深雨、高橋知子、

別田華楊、細羽香雨（前衛書部）、片山石城、北岡瑞桐、桜庭青泉、

竹村美園、田中一揺、宮崎宇佐子、山根美幸、横段洋子

13~18 書の総合展 第12回一華会展 広島・福山市 ふくやま美術館 大楽華雪、
他

16~18 文化祭協賛 第37回晁伸会書展 岡山 倉敷市水島公民館 安藤凌雲、他
1月

2~3 書き初め2012 パフォーマンス書の展 北海道・帯広市
藤丸 帯広管内9高校書道部によるパフォーマンス、実行委員長：
八重柏冬雷。

4~15 えとの現代書「タツ」展 2012 龍的独白—イメージの変容—福井・鯖江市 「ま
なべの館」 山本大廣、他

連立個展 福井・鯖江市 まなべの館 奎星会関係：山本大廣、
友葭良一

4~8 丑歳生まれの書作家による 第28回雅涎会書展 東京・中央区 東京銀座画
廊・美術館 奎星会関係、中原志軒

5 奎星会1月常任理事会 東京・中央区 八重洲富士屋ホテル
〔議案事項〕

第1号議案 奎星会理事会、総会に関する件

第2号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第3号議案 奎星 書の流れ展に関する件

第4号議案 毎日書道展作品研究会に関する件

第5号議案 第61回奎星展に関する件

第6号議案 毎日書道会、毎日書道展に関する件

第7号議案 事務局各部よりの件、その他

5~10 —今いきづく墨の華—「現代の書 新春展」「和光ホール30人展」 東京・中
央区 和光本館6階 奎星会関係：稲村雲洞、
岸本太郎、菅野清峯、大楽華雪、田村空谷、中原茅秋

「セントラル会場100人展」—60歳以上の選抜作家による— 東京・中央区 東京セ
ントラル美術館 奎星会関係：相原雨雪、貝原司研、外林道子、堀 吉光（漢字部）、
中原志軒、山本大廣、吉川壽一（前衛書部）

5~10 東日本大震災復興支援 2011 毎日新春チャリティ書展

東京・中央区 銀座松坂屋別館・カトレヤサロン 奎星会関係：

相原雨雪、稲村雲洞、石井抱旦、石井 駿、伊豆田雪岳、井上星峰、上田幸加、榎本
深、小黒五稜、鎌田恵山、金竹秋苑、岸本太郎、

喜代吉鐵牛、越水春汀、菅野清峯、大楽華雪、田村空谷、竹下青蘭、

中原茅秋、中原志軒、堀 吉光、丸尾鎌使、山崎灘青、山本大廣、
吉田青雲

5～13 辰年干支切手揮毫作家展 東京・千代田区 アートサロン毎日 奎星会関係：
大楽華雪、中原茅秋

7 2012年 新春ウルトラ書きぞめ会 広島・広島市 基町クレドふれあい広場 北
谷翠峰、栗原桜水、田原春夕

10～22 第9回書と非書の際（きわ）展 京都・京都市 ART FORUM JARFO 奎星会
関係：山本大廣、友葭良一

14～29 第31回世田谷の書 一世田谷区内在住書家による一

東京・世田谷区 世田谷文学館 奎星会関係：稲村雲洞、中原志軒、丸尾鎌使

17～22 ー2012年の新春を飾るー第44回玄穹書道会 広島・福山市 ふくやま美術
館ギャラリー 伊豆田雪岳、他

20～22 第59回福井奎星展 福井県立美術館 千葉半匡、他

25～29 第36回書界社展 愛媛県美術館南館 吉田青雲、他

27～29 書勢会展 「WA」 福井県立美術館地下展示室

林 一昭、他

31～2/6 第43回現代女流書100人展 併催 「現代女流書新進作家展」 東京・中
央区 日本橋高島屋8階ホール 奎星会関係：◇100人展 〈漢字部〉安藤明美、外
林道子、武田綾苑 〈前衛書部〉

金竹秋苑、清川芭紅、鈴木邦子、平野翠甫、前田敦子、松本燐之、

三石真仙 ◇新進作家展〈前衛書部〉三宅華邦、林 幽桂

2月

6 第64回毎日書道展運営委員会 東京・千代田区 如水会館

第64回毎日書道展主要役員（奎星会関係）

会員賞選考委員：〈理事〉田村空谷、中原茅秋 〈漢字部〉相原雨雪

〈前衛書部〉上田幸加、近藤幸成、西田徹心

運営小委員：近藤幸成

本年度審査員：〈漢字部Ⅰ類〉藤岡抱玉 〈漢字部Ⅱ類〉赤池艸裕、江草和彦、原田遊
山 〈前衛書部〉天野碧邨、石井抱旦、梅村郁華、鎌田恵山、北谷翠峰、佐伯孝子、

佐々木龍雲、得能新太郎、原 雲涯、東原吐雲、山田翠香、山本大廣

本年度審査委員：〈漢字部Ⅰ類〉佐藤奎玉、檜垣哲一、

吉田青雲 〈漢字部Ⅱ類〉相原雨雪、木下彰司、桑田耕石、岡本正志、

笠原康伸 〈前衛書部〉植松桂春、岡本蛍光、竹下青蘭、谷野成子、

天満雨丘、本多敬子

総務部部長補：堀 吉光（漢字部）

総務部副部長：浦田篁苑（漢字部）

総務部副部長：金竹秋苑（前衛書部）

陳列部部長補：丸尾鎌使（前衛書部）

陳列部副部長：石井抱旦（前衛書部）

10～11 墨艸' 12 大阪 高槻市現代劇場文化ホール 川邊艸笛、他

16～21 第 19 回神奈川県代表書家展・新春作家展 神奈川・横浜市 ゴールデンギャラリー ギャラリー守玄齋 ギャラリーぴお

奎星会関係：中原茅秋、石井抱旦

3 月

1 全日本書道連盟第 2 回通常総会 東京・台東区 上野精養軒
議題

1. 平成 24 年度事業計画案並びに収支予算案について

2. その他

1～5/31 前衛書 鎌田恵山展 愛媛・松山市 RESTAURAT 門田

3～4/1 第 1 回ザ・セッション Art の俊英展—南砺市内で活躍している現代の作家たち— 富山 南砺市立福光美術館 奎星会関係：

石井 仁、温井和海、山根美幸

6～11 奎星会創立 70 周年記念 「奎星 書の流れ展」—創立から今への歩みⅡ— 東京・中央区 東京セントラル美術館

出品作家：「物故作家」上田桑鳩、宇野雪村、濱田素山、奥平野牛、穂坂梅村、増田茅山、櫻井琴風、坂井清風、田中一燈、富井朱扇、竹内風聲、杉下土龍、高嶋谿雲、宇高示穹、川邊清華、伊勢屋光華、佐藤敏幸、杉本白雪、田内龍暘、富田九鳴、森本樟暘、山路勝重、中村保枝、安藤峯光、笹野舟橋、河本楽水、木下朴雨、池内鶴翠、鬼無香雲、竹内蛾山、三野透穹、山野象東、山崎信子、野崎嶽南、野崎梅堂、西田阿江

新進作家：大森洋臣、山崎悠永、千田信江、成田誠一、高 北颯、

堀 吉光、丸尾鎌使、天野碧邨、小野恵子、石田敬子、田鹿碩峰、

森 禾甕、杵鞭蓬春、坂井清龍、高橋亜弥、山根美幸、竹澤順子、

友葭良一、遠藤泉女、榛葉羽翔、竹村美園、谷村秀格、川邊艸笛、

江草和彦、岡本正志、小若緋炎、佐伯孝子、島田啓敬、松岡鈴江、

山田真由子、笠田邦園、戸津川政世、岡本蛍光、北谷翠峰、

下垣内裕子、原田遊山、安藤佳子、大平祥子、岡崎貴代、河野隆志、酒井夕静、新居田玉濤、佐野昌苑、小川雅山

11 奎星会 3 月理事会 東京・中央区 八重洲富士屋ホテル

[議案事項]

第 1 号議案 臨時総会に関する件

1. 平成 23 年度会務報告の件

2. 平成 22 年度決算報告・会計監査報告承認の件

奎星会代表会計部、奎星会一般会計、奎星会展覧会部会計

3. 平成 24 年度事業計画について

4. 平成 24 年度会費決定について

5. 平成 25 年度議長団選出並びに平成 24 年度新役員選出について

第 2 号議案 奎星会会員推挙に関する件

第 3 号議案 「奎星 書の流れ展」に関する件

第 4 号議案 第 61 回奎星展に関する件

第 5 号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第 6 号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第 7 号議案 第 13 回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

第 8 号議案 第 64 回毎日書道展・毎日書道会に関する件

第 9 号議案 事務局各部よりの件

報告：全書連、現代女流 100 人展、大楽華雪の世界中国展、他

11 奎星会臨時総会 東京・中央区 八重洲富士屋ホテル 議長団：西田徹心、西村九十、松下琴舟 司会：外林道子

[議案事項]

第 1 号議案 平成 23 年度会務報告承認の件

第 2 号議案 平成 22 年度各部収支決算報告承認の件

1. 奎星会代表会計部

2. 奎星会一般会計

3. 奎星会展覧会部会計

4. 監査報告

第 3 号議案 平成 24 年度事業計画承認の件

第 4 号議案 平成 24 年度会費決定の件

第 5 号議案 平成 25 年度議長団選出並びに平成 24 年度新役員選出の件 その他 新旧役員挨拶・他

◇平成 24 年度奎星会役員：

最高顧問 稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯

名誉会長 大楽華雪

会長 中原茅秋

副会長 小黒五稜、貝原司研、外林道子、山本大廣

名誉顧問 越水春汀、小森秀雲、玉村霽山、田村空谷、出口恵山、
守時大融

顧問 井上星峰 相談役 梅木春華、榎本 深、高郷石峰、千葉半厓、
丸尾玉蘭、森 須園、山崎灘青

参与 山藤耕子、榛葉壽鶴、武田綾苑、豊田法子、中野浦子、

長沼透石、平野翠甫、藤原一三、牧野光翠、道方芳堂、森原恵華

理事長 堀 吉光、

副理事長 相原雨雪、大六泉嶽、中原志軒、吉田青雲
常任理事 赤池艸裕、石井 駿、石井抱旦、浦田篁苑、近藤幸成、佐々木龍雲、鈴木邦子、中西浩暘、東原吐雲、丸尾鎌使
理事 天野碧邨、上田幸加、岡本正志、鎌田恵山、竹下青蘭、森 禾甕

評議員 小野恵子、桑田耕石、中嶋董園、成田誠一

監事 中嶋董園、成田誠一

議長団 桑田耕石、友近吾邑、豊田法子（平成 25 年度）

18～20 第 30 回記念朴翠社書道展・記念企画 「朴翠社 6 人展」、「書道セッション 2012」 広島・広島市 基町クレド・パセーラ 9F カルチャートプレイス 北谷翠峰、他

「書道セッション 2012」 ～中原茅秋毎日書道会理事と共に北谷翠峰他が書道の未来を語るひととき～

20～25 第 28 回最高賞作家ミニ作品展 「夢とロマンの花ひらく」

東京・中央区 東京銀座画廊・美術館 奎星会関係：田鹿碩峰、檜垣哲一

20～4/1 ' 12 現代書作家展・しずおか一書の今を築く」 併催

「櫻井琴風の軌跡」、講演会「前衛書について」 講師：赤池艸裕 静岡 静岡県立美術館県民ギャラリー

21～26 藤澤重夫+坂本沙於里「器（磁器）と書画 「愚の如く」 ～出会いを求めて」 京都・京都市 うつわ屋めなみ」

23～4/1 書業 60 年 大楽華雪の世界 中国展 中国美術館（北京）中国大使館・慶雲堂に作品収集される。

27～31 第 38 回茅花展「美を追ってミクロからマクロへ」 神奈川 茅ヶ崎市美術館 石井抱旦、他

2012 年（平成 24 年度）

4 月

4～20 日中国交正常化 40 周年記念 日中代表書法展 東京・港区 東京中国文化センター 奎星会関係：稲村雲洞

6～8 墨艸会による?!展 Part4 大阪 高槻市生涯学習センター

1 階展示ホール 川邊艸笛、他

7 奎星会 4 月常任理事会 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

[議事]

第 1 号議案 奎星会新正会員・推挙会員・昇格会員に関する件

第 2 号議案 平成 24 年度奎星会事務局担当承認に関する件

第 3 号議案 奎星会 5 月常任理事会・6 月理事会に関する件

第4号議案 第61回奎星展に関する件

第5号議案 奎星書の流れ展に関する件

第6号議案 奎星会企画委員会に関する件

第7号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第8号議案 奎星会予算委員会に関する件

第9号議案 毎日書道会・第64回毎日書道展に関する件

第10号議案 第13回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

報告：全書連・大楽華雪の世界中国展・事務局各部よりの件・他

平成24年度奎星会会員昇格・新正会員推挙者：

◇特別同人会員 中島青霄、西田徹心、平野翠甫、山口昌村、
浅田登仙、浜田清苑、今田鈴子、崎間 鼎、貝原司研、森原恵華、
石川義象

◇同人会員 桜庭青泉、高橋知子、桜田深雨、横段洋子、尾形玉苑、
宮崎宇佐子、徳丸華川

◇無鑑査会員 笠井翠月、塩島秋葉、石間ふく子、中井梓翠、
石田景雲、北川悦子

◇正会員 田村奈津子、長家直子、古月真奈美、小林華逢、
佐藤美川子、服部艸香、小松弘明、大石 幸、森川幸弘、赤堀恵美、
登利和子

平成24年度奎星会事務局担当

代表部：中原茅秋、堀 吉光

総務部：堀 吉光、鈴木邦子、國友和子、新納大順

代表会計部：浦田篁苑、天野碧邨

情報システム部：天野碧邨、

田岡楚香、高橋彰子、新納大順

展覧会部 中原志軒、成田誠一、

森 禾甕、天野碧邨、小野恵子、高 北颯、山後墨仙、田岡楚香、
中野浦子、丸尾鎌使 ・会計 金竹秋苑

書教育部：齋藤義雄、

荒井星冠、安藤園美、駒井光明、谷酒恵秋、西川高洞

研究部：相原雨雪、吉田青雲、天野碧邨、鎌田恵山、友近吾邑、
藤岡抱玉、松本昂星、三宅華邦、山田翠香 ・会計 天満雨丘

出版部：山本大廣、長村敬子、志村文浩、竹澤順子、谷澤晶華、
友葭良一、横山千恵美・会計

特別対策部：相原雨雪、鎌田恵山、岡本正志、浦田篁苑、佐々木龍雲、
天満雨丘、東原吐雲、吉田青雲・会計

「企画委員会」 中西浩暘、外林道子、相原雨雪、石井抱旦、
高 北颯、東原吐雲、吉田青雲

奎星会事務局 事務局長：堀 吉光 副事務局長：新納大順、
高 北颯

8 奎星会おびひろ 平成 24 年度 「総会」「毎日展研修会」 開催

北海道 帯広柏葉高等学校 八重柏冬雷、他

11～15 第 10 回華心書道展 香川 善通寺市美術館 梅木春華、他

13～15 第 7 回かながわ書道まつり 神奈川・横浜市 みなとみらいランドマークプ
ラザ 中原茅秋、田村空谷、石井抱旦、他

29～5/13 京都に佇む花の寺善光寺別院得浄明院 吉川壽一出会いを愛でる京都展
京都・京都市東山区 善光寺別院得浄明院

5 月

10～13 第 49 回新生書現代総合書展 広島 広島県民文化センター地下第 1・2・3 展
示室 貝原司研、他

23～27 第 64 回毎日書道展 公募・U23 鑑別 東京・港区 国立新美術館

24 公益社団法人全日本書道連盟 平成 24 年度総会開催

1. 平成 23 年度事業報告

2. 平成 23 年度収支決算報告

3. 監査報告

4. 役員人事について

25～27 さわらび・みな穂合同書作展 師の古希によせて 富山 砺波市美術館 2 階
市民ギャラリー 石井克代、他

6 月

8 毎日書道会評議員・理事会開催 東京・千代田区 如水会館 平成 23 年度事業・
収支決算報告、事業計画、人事 奎星会関係人事：田村空谷（常任顧問）、中原志軒（理
事）

8 相原雨雪先生第 25 回毎日書道顕彰受賞

12～24 一書と歩んだ 50 年― 中島青霄個展 北海道・函館市 ギャラリー文林館

19～24 革新と伝統と実験！と 第 20 回国際架橋書会選抜展

東京・中央区 東京鳩居堂

22～24 第 41 回青奎展―書の古典と現代― 青森 青森市民美術館展示館 3 階 石
橋青紅、他

22～24 第 16 回凡書友会展 新潟 新発田市民ギャラリー

24 特別企画 奎星会おびひろ漢字学習会 北海道・帯広市 音更町集団研修施設
講師：長沼透石

28 奎星会 5 月常任理事会開催 東京・港区 ホテルアイビス 4 階 アイビスホール

[議事]

第1号議案 奎星会総会に関する件

第2号議案 平成23年度収支決算報告の件

1. 代表会計部
2. 奎星会一般会計
3. 創立70周年記念事業・宇野雪村の美会計
4. 会計監査報告

28 奎星会6月理事会開催 東京・港区 ホテルアイビス4階アイビスホール

[議事]

第1号議案 奎星会総会に関する件

第2号議案 平成23年度収支決算報告の件

1. 代表会計部
2. 奎星会一般会計
3. 創立70周年記念事業・宇野雪村の美会計
4. 会計監査報告

第3号議案 第61回奎星展に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第6号議案 毎日書道会・毎日書道展に関する件

第7号議案 第13回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

報告：全書連・大楽華雪の世界中国展・事務局各部よりの件

29～7/4 墨のアート 白子谿雪 躍動する黒と白 東京・新宿区

アユミギャラリー

7月

4～8 創立60周年記念第50回燧洋会書展 愛媛 今治市河野美術館 友近吾邑、他

11～16 第29回菱湖會書展 新潟 新潟市北区郷土博物館

小黒五稜、他

11～8/5 第64回毎日書道展東京展 東京・港区 国立新美術館・台東区 東京都美術館

前期展Ⅰ期（かな、近代詩文書、前衛書） 7月11日～16日

前期展Ⅱ期（かな、近代詩文書、前衛書） 7月18日～23日

後期展Ⅰ期（漢字、大字書、篆刻、刻字） 7月25日～30日

後期展Ⅱ期（漢字、大字書、篆刻、刻字） 8月1日～5日

東京都美術館（通期） 7月16日～23日

11～8/5 第64回毎日書道展奎星会受賞者

◇会員賞 戸津川政世〈漢字部〉 高 北颯 前澤秋紅〈前衛書部〉 ◇毎日賞 一

漢字部Ⅰ類—田村静鶴、山岡翠紅、渡邊玉朱 —漢字部Ⅱ類—岡田昌子、竹内華抄、森根紫穂 —前衛書部—池田可葉、

井原進一、大平祥子、大前恵理子、大町齊邦、片山好美、草場丘遙、新田彩陽

◇秀作賞 —漢字部Ⅰ類—石橋壯心、奥島玉琇、川口雅笙、新山菁彩、宮沢嶺彩、矢野玉雪 —漢字部Ⅱ類—小田原西湖、菅原美由紀、

二宮 盛、笛木澄紅、山下真波、四辻尚子 —前衛書部—石井神華、磯部紅月、植松俊樹、大石愛花、尾村智子、貝澤洋子、賀川秋泉、

川上真理子、北原真理、小泉一二三、小林利之、阪井幸子、島本郁子、志村文浩、下山真由美、菅田和萌、田中裕子、筒井 忍

◇佳作賞 —漢字部Ⅰ類—五百木玉影、岡田玉鈴、越智翠溪、

小野俊幸、齋藤桂夏、日野紅雪、穂刈春蒨、星野香彩、三浦翠風

—漢字部Ⅱ類—綾野栄子、池田孝浩、石井丹青、石田 均、井上鳳園、

榎 泉苑、岡崎貴代、岡田風翔、佐野昌苑、清水桂泉、中本由利子、

藤沢竹山、藤戸春苑、榎岡紫風、矢澤輝乙、山崎芙美子、吉田翠紅

—前衛書部—大井雨葉、井上華峰、井上政行、岩本光風、小川椽蘇、笠井翠月、川端由紀子、神田亜貴子、北川悦子、香坂照葉、小西子象、小林華逢、小宮真美、齊藤浩子、篠原香厓、島田妙子、庄司桂子、

高橋彰子、滝浪光川、但馬正子、丹木恵香、楠 直子、中尾弘子、

中川佳風、中原景雲、中村眞了、古月真奈美、福家登代子、藤栩政子、藤倉優希、真鍋草香、宮原心法、宮村 弦、森 寿美、山田美鈴、

山野清泉、和田美芳、和田好恵

◇U23 新鋭賞 —前衛書部—三上朋子

◇U23 奨励賞 —漢字部Ⅰ類—宮田寿心 —漢字部Ⅱ類—米谷理沙

—前衛書部—森永吉穂

13～26 第3回豊峯會書展 東京・千代田区 九段ギャラリー

17～23 26回中国へ書の研修視察団 楽竹の會書展 東京・千代田区 アートサロン
毎日 奎星会関係：大楽華雪、島田妙子、

水野博子

21～29 金子卓義を偲んで一期一会（すみよい）展 東京・中央区 ロイヤルサロン
奎星会関係：玉村霽山、堀 吉光、吉川壽一

27～29 平成24年度奎星会夏期書道研究大会岡山 岡山・倉敷市 鷺羽ハイランド
ホテル

講師：稲村雲洞、菅野清峯、大楽華雪、中原茅秋、小黒五稜、

貝原司研、山本大廣、堀 吉光、相原雨雪、大六泉嶽、中原志軒、

吉田青雲

助講師：赤池艸碯 石井 駿、石井抱旦、浦田篁苑、近藤幸成、
佐々木龍雲、中西浩暘、東原吐雲、丸尾鎌使、講座内容

7月27日（金） 「爨龍顔碑」 講師：小黑五稜、堀 吉光、相原雨雪、
赤池艸碯、東原吐雲 「上田桑鳩を語る」 講師：稲村雲洞、
菅野清峯、大楽華雪、中原茅秋

7月28日（土） 「喪乱帖」 講師：吉田青雲、大六泉嶽、石井 駿、
丸尾鎌使 前衛書創作（第13回宇野雪村賞全国書道展）
講師：山本大廣、中原志軒、石井抱旦、近藤幸成

7月29日（日） 「韓仁銘」 講師：貝原司研、浦田篁苑、佐々木龍雲、
中西浩暘

8月

1～5 第18回象 SHOU 展 テーマ 「昇」 愛媛・松山市 愛媛県立美術館南館1階
鎌田恵山、他

3～5 知命+9 富山奎星書作展 富山 砺波市美術館 2階市民ギャラリー 石井
駿、他

3～5 公益社団法人 全日本書道連盟 第38回夏期書道大学講座開催 東京・豊島
区 サンシャインシティコンファレンスルーム

8～12 ～美のなかにふれあいがある～ 第27回東京都障害者総合美術展 東京・豊
島区 西武池袋本店7階催事場特設会場

8～12 第64回毎日書道展関西展 京都・京都市 京都市美術館本館（第1会場）・
日図デザイン博物館（第2会場）

15～19 第64回毎日書道展四国展 愛媛 愛媛県美術館南館

19～23 第64回毎日書道展北陸展 富山 富山県民会館

21～26 第64回毎日書道展東海展 愛知・名古屋市 愛知県美術館ギャラリー（第1
会場）・名古屋市民ギャラリー栄（第2会場）

23～28 第57回北海道奎星書道展 北海道・函館市 テーオー小笠原6階イベント
ホール 木村蒼人、他

23～29 蕙平桃太郎の書 母の歌 鹿児島・曾於市 しゃら交流芸術館

24～26 第48回現代書の総合展 飛龍書道展 長崎 諫早文化会館 出口恵山、他

28～9/2 第64回毎日書道展中国展 広島 広島県立美術館県民ギャラリー

28～9/2 第6回一書を謳う Part IIIー 7・COLORS 展 兵庫・神戸市 ギャラリーミ
ウラ 青木 央、小畑筑津、加奈森由里、

佐久間美保、高橋知子、立石麗子、羽田照代、和田 彩

9月

1 奎星会9月常任理事会開催 東京・中央区 「貸会議室・プラザ八重洲北口」
[議事]

第1号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第2号議案 第61回奎星展に関する件

第3号議案 奎星会企画委員会に関する件

第4号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第5号議案 毎日書道会・毎日書道展に関する件

第6号議案 事務局各部よりの件

報告：全書連、第13回宇野雪村賞全国書道展・奎星会毎日書道展祝賀会・他

6～9 第36回玄倉社書展 神奈川 平塚市中央公民館市民ギャラリー 中原茅秋、
他

8～12 第2回メイプルメイツ展覧会 東京・品川区 ○美術館

奎星会関係：堀 吉光（書道講座担当）

12～17 松尾昌美 墨生圖展 神奈川・鎌倉市 GALLERYB」

13～19 横浜赤レンガ倉庫 40—The Sho あしたを書く— 神奈川・横浜赤レンガ
倉庫 奎星会関係：赤池艸裕、石井抱旦、遠藤泉女、鎌田恵山、川邊艸笛、北谷翠峰、

喜代吉鐵牛、近藤幸成、佐伯孝子、榛葉羽翔、外林道子、田岡楚香、高橋彰子、高橋

美穂子、竹下青蘭、戸津川政世、友蔭良一、中西浩暘、原 雲涯、真鍋智広、宮村 弦、
桃太郎、八重柏冬雷、和田 彩

14～17 第20回記念玄書人会展 新潟 新潟県民会館3階ギャラリーA 小黒五稜、
他

14～19 第64回毎日書道展東北仙台展 宮城・仙台市 せんだいメディアテーク

18～28 ー今日の墨表現ー第34回墨絵展2012 東京・中央区

好文画廊 奎星会関係：田岡楚香

20～23 大東文化大学鹿児島県人書道展 第31回大東書展 鹿児島・鹿児島市 鹿
児島県歴史資料センター黎明館 奎星会関係：蒔平桃太郎

26～30 第64回毎日書道展北海道展 北海道 札幌市民ギャラリー・大丸藤井セン
トラルスカイホール（役員展）

28～30 第52回照心書展 神奈川 厚木市文化会館 石井抱旦、他

10月

4～8 第64回毎日書道展東北山形展 山形 山形美術館

7～8 第63回五風会書展 島根・浜田市 「石央文化ホール」

喜代吉鐵牛、他

16～21 第50回岡山市芸術祭参加 第47回墨象会展 岡山 「岡山県天神山文化プ
ラザ」

20～21 石井克代の書 ふる里展 兵庫・小野市 「小野市民会館コミュニティホー

ル」

21～11/7 第13回 「宇野雪村賞」 全国書道展 兵庫・新温泉町 「第Ⅰ期 浜坂多目的集会施設」(10月21日～10月24日) 「第Ⅱ期 浜坂先人記念館以命亭ホール」(10月27日～11月7日)

〈一般の部〉

宇野雪村賞・文部科学大臣賞 小西子象

奎星賞 尾村智子、中本由利子、佐藤如園

兵庫県教育長賞 石川昭代、奥崎真弓、岸 直美

新温泉町長賞 宅清雪、鈴木彩秋、上田 守

新温泉町教育長賞 河波和子、村上美香、戸津川貴子

新温泉町議会議長賞 妹尾和賀子、平間瓊璃、藤井慶子

奎星会会長賞 萩原 緑、今井春鈴、林 高大

特選 石崎青光、石井章子、立間直子、川口澄子、濱田舟蓮、

二宮 盛、小野照子、安達天水、内山草笛、得能久華、竹澤順子、

石黒幸栄、鈴木光波、笛木澄紅、北山敦子、福井栄華、奥井美佐子、

寺本香波、酒井紀子、清水恵子、瀬田佳世子、水野博子、片山好美、沖汐豊美、奥村

青嶋、松岡鈴江、渡辺和夫、井上咲香、森 志織、

林 直美、谷川美貴、植松俊樹

〈学生の部〉

奎星賞 二正寺春菜、柴田 楓、奥 花恋

新温泉町長賞 チャンシャオウェイ 神田さとみ、森永柚子

新温泉町教育長賞 松井紗理奈、松田俊佑、今西恵凜、小坂菜月、小国晴菜

特選 片岡勇也、東城祐樹、小尾基紀、樋田惟麻里、山西彩華、

山西 烈、山根千佳、絹谷莉奈子、石井文苗、中口実優、安東莉奈子、山本夏実、澁

谷花梨、岸田拓哉、中川陽加、多田朱里、橋本大貴、

藤原千晶、小笹古都、折田彩香、定金洵子、樋口早紀、安永美月、

秋岡祐佳子、荒田真由、世登穂乃香、箕畑玲美、森下沙和、

左田野幹生、古志未希、中山明音、橋本夢有、武市大和、朝妻友里恵、

阿部亜香音、保利香奈子、梶川聖佳、本村宗太郎

25～31 2012年 菁藁社書展 東京・渋谷区 ギャラリー6

玉村霽山、他

25 奎星会10月常任理事会開催 東京・台東区 ホテルパークサイド2階 不忍

[議事]

第1号議案 奎星会総会に関する件

第2号議案 平成25年度奎星会会費に関する件

第3号議案 第61回奎星展に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

25 奎星会理事会開催 東京・台東区 ホテルパークサイド2階 不忍

[議事]

第1号議案 奎星会総会に関する件

1. 平成24年度会務報告承認の件、並に平成25年度事業計画について

2. 平成23年度決算報告・会計監査報告承認の件

3. 奎星会規約改正について

4. 平成25年度会費決定について

5. 平成26年度議長団選出並びに平成25年度新役員選出について

第2号議案 平成25年度会費に関する件

第3号議案 第61回奎星展に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第6号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第7号議案 第13回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

第8号議案 第64回毎日書道展、毎日書道会に関する件

第9号議案 事務局各部よりの件

報告：全書連・大楽華雪の世界日本展・他

26～28 第16回梅花書展 神奈川 小田原市民会館 山口昌村、他

27～28 第35回書と華 併催・響きあうなかま 富山・南砺市 福野文化創造センタ

一 松本燁之

30～11/4 MINI作品 第36回書壇巨匠展 東京・中央区 東京銀座画廊美術館

奎星会関係：稲村雲洞

30～11/6 第61回奎星展 東京・台東区 東京都美術館

10月24日/搬入 25日/整理 26～27日/監査・審査 30日/開会

11月3日/総会・授賞式・懇親会 6日/閉会

「入賞者」

一 役員の一部

上田桑鳩記念賞 田岡楚香

宇野雪村記念賞 清水恵子

同人特別賞 谷酒恵秋、村田幸子、阿部華陽、崎間 鼎、

中尾瑤香、小池恵舟

高橋竹村記念賞 神田亜貴江

天野翠琴記念賞 諏訪問春苑

清田岱石記念賞 山崎悠永

弦巻松蔭記念賞 小柳長流
上松杜暘記念賞 笠田邦園
中原一耀記念賞 八木玉汀
無鑑査特別賞 坂井柳泉、別田華楊、涌田 忍、秋山久美子、
松葉 淳、岡崎貴代、宮本敏夫、酒井聖舟
一公募の部一 毎日新聞社賞A部 藤倉優希
毎日新聞社賞B部 発知青藍
毎日新聞社賞C部 加藤了楓
毎日新聞社賞D部 寺田和雪
奎星賞A部 松本丹芳、尾村智子、灘野由美、林 直美、高木溪雪、諸富如水、吉松
瑤月、土井汀扇
奎星賞B部 畠中一美、玉村廣子、山下恭代、長島毬果、田村公恵、岡田昌子
奎星賞D部 越智粹鳳、沼田理心
特選A部 佐々木真理、小林華逢、早川光穂、松尾昌美、川幡梨燐、柴田丹鳳、田中
美恵子、仲手川幸江、森田桂子、今井春鈴、寺嶋香澄、石黒幸栄、植村晶子、池田弘
子、寺畑 瞳、久谷敦子、廣狩礼花、
増田奈々子、阪井幸子、榎岡紫風、福家登代子、池田光男、草場丘遙
特選B部 小島伯舟、香坂照葉、三上瑞峯、村越千寿穂、犬井雨葉、
永橋香峰、長谷川祥子、池田綾香、小松弘明、伊藤美姫、近藤富士枝、
泉 雅子、宇都宮古徑、白井加織、山谷星光、岡田玉鈴、緒方小帆
特選C部 野地實人、佐藤美川子、中川和也
特選D部 大谷勢津子、井上秋子、高橋美恵子、三木奈美、藤川純代、
玉井恵心、木村優妃
準特選A部 岩間弘子、江崎青花、小野里裕子、小室聡美、
佐々木義徳、高橋柳泉、坂巻裕一、下村和音、八ッ田佳子、
横田眞理子、飯野千恵子、大木八重、志村香竹、高橋清堂、
廣瀬幸子、北島 彩、坂中郁華、南部千佳、住田紅苑、新本琴未、
園部麗子、中村真子、小林 希、都野森和美、中尾弘子、森山明日華、
山崎芙美枝、岡本和子、中宗澄香、水原典子、森 志織、泉 雅子、
海老原碩風
準特選B部 加藤由加里、天野鏡子、菅 輝子、鈴木彩秋、
二瓶竹聖、宮崎嘉耀、渡邊香織、大崎千華、小林紫園、服部艸香、
山本幽香 渡辺春林、舟岡圭昭、石井圭花、高橋霽龍、大石愛花、
冨井綾子、永丘浩一、岡崎華鳳、織田香里、藤原早苗、横山里美、
森 美汀
準特選C部 小林 希、米谷理沙、村岡美季、香川孝子、木原杏翠

準特選D部 窪田久美子、小島伯舟、岸名真知子、
園田ちづる、浅海裕華、高橋光恵、石川弾九、川口雅笙、池松華泉、
褒賞A部 足立葉子、大橋麻弥、桑原美樹、内田明子、田中真紀、
雪竹静子、井村明日香、渡辺亮子、田中美智子、中原章等、中西加奈子、
東山清華、藤川智彦、松谷祥華、大石道子、川上真理子、高塚春苑、
井上咲香、土居雪嶺、
褒賞B部 岩間弘子、堀口佳與香、水谷節鴻、近江理音、野地實人、
佐藤翠風、進藤瑞月、亀田榴花、平沢咲香、土屋睦泉、大石 幸、
浮田光浄、漆原義典
褒賞C部 奥谷 恵 城 由布子
褒賞D部 堤 公宏、西田美沙野、木村睦子、清水桜幻、岡本洗舟

11月

1~6 長沼透石傘寿記念小品展 北海道・帯広市 勝毎サロン・藤丸サロン

1~4 第6回翠城会書展 静岡 静岡市民ギャラリー 藤原岳城、他

3 奎星会総会開催 東京・台東区 上野精養軒3階 さくら

[議事]

第1号議案 平成24年度会務報告の件、平成25年度事業計画の件

第2号議案 平成23年度各部（代表会計部・一般会計） 収支決算報告監査報告承認の件

第3号議案 奎星会規約改正の件

第4号議案 平成25年度会費決定の件

第5号議案 平成25年度新役員選出ならびに議長団選出の件

その他 新役員挨拶・他

◇平成25年度奎星会役員：

最高顧問：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯

名誉会長：大楽華雪

会長：中原茅秋

副会長：小黑五稜、貝原司研、外林道子、山本大廣

名誉顧問：越水春汀、小森秀雲、玉村霽山、田村空谷、出口恵山

顧問：井上星峰、丸尾玉蘭、森 須園

相談役：梅木春華、榎本 深、山藤耕子、高郷石峰、千葉半匡、
道方芳堂、山崎灘青

参与：榛葉壽鶴、武田綾苑、豊田法子、中野浦子、長沼透石、

平野翠甫、藤原一三、牧野光翠、森原恵華

理事長：堀 吉光

副理事長：相原雨雪、大六泉嶽、中原志軒、吉田青雲

常任理事：赤池艸裕、石井 駿、石井抱旦、浦田篁苑、近藤幸成、佐々木龍雲、鈴木邦子、中西浩暘、東原吐雲、丸尾鎌使

理事：天野碧邨、上田幸加、岡本蛍光、岡本正志、小野恵子、

鎌田恵山、桑田耕石、竹下青蘭、成田誠一、森 禾甕

監事：小野恵子、山口昌村

議長団：武田綾苑、原 雲涯、前田敦子（平成 26 年度）

3 奎星展授賞式・懇親会 東京・台東区 「上野精養軒 3 階 さくら」

4 小黒五稜先生書のパフォーマンス 「空」を揮毫 新潟・新潟市 北区郷土博物館

5～11 一日中国交正常化 40 周年記念－ 書業 60 年大楽華雪の世界日本展 東京・中央区 東京セントラル美術館

8～14 第 43 回玄武書道展 大阪・大阪市 近鉄百貨店上本町店 奎星会関係：稲村雲洞、貝原司研、平野翠甫、友近吾邑

20～25 熱き思いを現代書に… 第 38 回墨盈會書作展 広島・広島市 ふくやま書道美術館市民ギャラリー 相原雨雪、他

21 毎日書道会役員作家による 干支（巳歳） 文字切手 揮毫

奎星会関係：貝原司研

21～25 第 54 回墨華書道展 香川 高松市美術館 東原吐雲、他

22～24 新進作家が書の美を求めて 第 6 回壘土舎展 大阪 大阪産業創造館 川邊艸笛、他

22～27 第 42 回玄同社展 東京・新宿区 ヒルトピアアートスクエア 稲村雲洞、他

23～12/2 神奈川書家 30 人展 第 25 回記念神奈川の書すべてを魅せる 100 人 神奈川・横浜市 そごう美術館 奎星会関係：石井抱旦、田村空谷、中原茅秋、平野翠甫

29～12/4 創立 50 周年記念 第 48 回奎星会おびひろ書展 北海道 帯広市民ギャラリー A 室 八重柏冬雷、他

12 月

4～9 第 64 回毎日書道展九州展 福岡 福岡市美術館

4～9 書の総合展 第 24 回一華会展 広島・福山市 ふくやま美術館企画展示室 大楽華雪、他

8～16 第 10 回国際書法交流 クアラルンプール大展 マレーシア・クアラルンプール 奎星会関係：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯、

大楽華雪、田村空谷、中原志軒、中原茅秋

12～24 革新！と伝統！と実験！と 国際架橋書展 東京・港区 国立新美術館

14 毎日書道会理事・評議員会 東京・千代田区 如水会館

◇第 65 回毎日書道展主要役員：「奎星会関係」

◇各展実行委員長 中国展：貝原司研 四国展：藤岡抱玉

◇運営委員 漢字部 貝原司研 前衛書部 石井 駿、東原吐雲、
平野翠甫

◇毎日書道会人事 名誉会員 田村空谷（前衛書部）

参与会員 道方芳堂（漢字部） 藤原一三（前衛書部）

審査会員 戸津川政世（漢字部） 高 北颯 前澤秋紅（前衛書部）

会員（漢字部） 清水桂泉、菅田和萌、宮澤嶺彩（前衛書部）、

貝澤洋子、北原真理、佐野昌苑、篠原香匡、島田妙子、菅原美由紀

会友（漢字部） 池田玉梓、今村秀範、菊池瑤蘭、小島伯舟、戸田溪洞、

中村心泉、吉本玉洲（前衛書部） 石川静穂、沖田天山、木村佐枝子、

合田泰山、西原美琇、鈴木光波 瀧澤照美、谷村秀格、田村奈津子、安田秋子

15～16 書作グループ「會」 現代書展 広島・呉市 大和ミュージアム4階市民ギ
ャラリー 福島佐苑、他

18～23 2012一翔一書TEN 神奈川・横浜市 アートフォーラムあざみ野1階展示室
奎星会関係：坂本紗於里、桃太郎

20～23 一読める書と読めない書と一琴風會展 静岡 藤枝文化センター1階ホール
棒葉寿鶴、他

1月

4～16 「TOKYO 書 2013～公募団体の今」展 同時開催 「現代書のあゆみ」展 東
京・台東区 東京都美術館

奎星会関係：佐伯孝子、友葭良一（現代書のあゆみ展）奎星会関係：上田桑鳩、宇
野雪村

5～13 一今いきづく墨の華一「現代の書 新春展」 和光ホール31人展 東京・中
央区 和光本館6階 奎星会関係：稲村雲洞、

岸本太郎、菅野清峯、大楽華雪、田村空谷、中原志軒、中原茅秋

ギャラリートーク（6日一菅野清峯） 「セントラル会場100人展」一60歳以下の選
抜作家による一 東京・中央区 東京セントラル美術館 奎星会関係：岡本正志、江
草和彦（漢字部） 天野碧邨、佐伯孝子、

丸尾鎌使（前衛書部）

5 北谷翠峰・栗原桜水・田原春夕各氏は2013年新春ウルトラ書きぞめ会に於いて「寿
萬年」を揮毫 広島市 基町クレドふれあい広場

5 奎星会1月常任理事会開催 東京・中央区 八重洲富士屋ホテル3階高松

[議事]

第1号議案 第61回奎星展に関する件

第2号議案 奎星会ホームページに関する件

第3号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第4号議案 毎日書道会・毎日書道展に関する件

第5号議案 事務局各部よりの件

報告：宇野雪村賞全国書道展・現代の書新春展・現代女流書100人展・他

8～13 第20回硯友展 香川 高松市美術館 小森秀雲、他

8～13 丑歳生まれの書作家による 第29回雅涎会書展 東京・中央区 東京銀座画廊美術館 奎星会関係：中原志軒

16～20 一回帰から昇華へー第45回記念玄穹書道会展 広島

ふくやま美術館ギャラリー 伊豆田雪岳、他

17～22 現代の書道芸術が一堂に集う 第28回毎日現代書関西代表作家展 大阪・大阪市 近鉄百貨店阿倍野店9階近鉄アート館

17～20 創立60周年記念 福井奎星展 福井県立美術館（第1会場）、まなべの館（第2会場） 千葉半匡、山本大廣、他

22～3/3 中国交正常化40周年特別展「書聖 王羲之」 東京・台東区 東京国立博物館 平成館

23～27 第37回書界社展 愛媛・松山市 愛媛県立美術館 吉田青雲、他

25～27 「セプテット」（七重奏） 書勢会会員展 福井県立美術館 林 一昭、他

29～2/3 一書の甲子園ー第21回国際高校生選抜書展 大阪 大阪市立美術館

2月

2～3 墨艸 '13展 大阪 高槻市現代劇場文化ホール2階

川邊艸笛、他

4～5 第65回記念毎日書道展運営委員会開催 東京・千代田区 如水会館

運営委員：〈漢字部〉貝原司研 〈前衛書部〉石井 駿、東原吐雲、平野翠甫

会員賞選考委員：〈理事〉中原茅秋、中原志軒 〈漢字部〉堀 吉光 〈前衛書部〉石井 駿、東原吐雲、平野翠甫

運営小委員：平野翠甫

前衛書部審査副部長：中西浩暘

本年度審査員：〈漢字部Ⅰ類〉友近吾邑 〈漢字部Ⅱ類〉相原雨雪、岡本正志、堀 吉

光 〈前衛書部〉植松桂春、小野恵子、清川芭紅、喜代吉鐵牛、小林信恵、榛葉壽鶴、

鈴木邦子、大六泉嶽、高郷石峰、

豊田法子、中西浩暘、松本燁之、森原恵華、八重柏冬雷

本年度審査委員： 〈漢字部Ⅰ類〉佐藤奎玉、森田華舟、藤岡抱玉、吉田青雲 〈漢字部Ⅱ類〉安藤明美、小田原正龍、木下彰司

〈前衛書部〉鎌田恵山、天野碧邨、金竹秋苑、近藤幸成、谷野成子、

天満雨丘、前田敦子 ー総務部ー漢字部Ⅱ類副部長：浦田篁苑

ー陳列部ー前衛書部副部長：天野碧邨

6~14 第44回現代女流書100人展 併催 「現代女流書新進作家展」 東京・中央区 日本橋高島屋8階ホール

奎星会関係：◇100人展〈漢字部〉佐藤奎玉、外林道子、藤岡抱玉 〈前衛書部〉

石井克代、岡本蛍光、竹下青蘭、豊田法子、中野浦子、平野翠甫、

山田翠香 ◇新進作家展〈漢字部〉戸津川政世 〈前衛書部〉

前澤秋紅

6~19 ムルパ創立15周年記念 「墨想」 日本精鋭5人展 韓国・ソウル市 ムルパ空間ギャラリー 奎星会関係：石井抱旦、友葭良一、山本大廣 招待出品

9~13 '13 毎日現代書北陸代表作家展 福井県立美術館

千葉半匡、他

13~19 20周年記念 神奈川県代表書家展 併催 「次代を担う新進作家展」 神奈川県・横浜市 ぴおシティ3・6階 中原茅秋、

石井抱旦、他

3月

2~3 奎星会おびひろ「夏季錬成会」 北海道・帯広市 音更町集団研修施設

4~30 2013 毎日書道展新会員作家展 東京・千代田区 アートサロン毎日

中・日現代書画名人展並びに日本書と非書展 7~10 京都市文化会館(下記に巡回)

4/2~5 中国大使館付属文化センター(東京) 7/29~8/3 中国北京國粹美術館(北京) 山本 廣、上木淳吉、

友葭良一、石井抱旦

12~16 豊島区障害者美術展「ときめき想造展」 東京・豊島区 東京芸術劇場 審査員 堀 吉光

14 公益社団法人 全日本書道連盟 第149回理事会開催 東京・台東区 上野精養軒

15~17 第23回にこにこ展 千葉・野田市 ギャラリー一道物語

薙平桃太郎、他

16~17 第56回天真書道展 兵庫 兵庫県民アートギャラリー2階 左右津安輝子、他

19~24 第29回最高賞作家ミニ作品展 東京・中央区 東京銀座画廊美術館8階 奎星会関係：穴吹放牛、清水恵子

22~24 第31回朴翠社書道展 広島 ぎやらりいNEWくわもと5階 北谷翠峰、他

27~31 第11回墨翠會書道展 広島・府中市 さかえろう

山田翠香、他

2013年(平成25年度)

4月

3/26~4/3 第65回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展静岡展

静岡県立美術館

4～9 日米美術交流展 work on paper 2013 ・金沢展 石川県立美術館広坂別館
山本廣展（特別展示） 山本 廣、友葎良一、
石井抱旦、志村文浩（下記に巡回）・東京展 6/20～30 タチカワブラインド銀座 ス
ペース Atte

6～14 第65回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展神奈川展 神奈川 横浜そごう美
術館

7 奎星会4月拡大常任理事会 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

[議事]

第1号議案 奎星会ホームページに関する件

第2号議案 奎星会新正会員・推挙会員・昇格会員に関する件

第3号議案 平成25年度奎星会事務局担当に関する件

第4号議案 奎星会5月常任理事会・6月理事会に関する件

第5号議案 奎星会企画委員会に関する件

第6号議案 第62回奎星展に関する件

第7号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第8号議案 平成24年度決算・25年度予算委員会に関する件

第9号議案 （一財）毎日書道会・第65回毎日書道展に関する件

第10号議案 第14回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

報告：(公社)全日本書道連盟・事務局各部よりの件・他

平成25年度奎星会会員昇格・新正会員推挙者：

◇特別同人会員 千葉香苑、義森翠琴、荒川泰石、西川高洞、
清水桂泉、田中一瑤、古山和風、菅谷澄水、西藤紫峰、吉村清雲、
松下琴舟

◇同人会員 菅田和萌、桃太郎、宮澤嶺彩、別田華楊、貝澤洋子、松葉 淳、八木玉
汀、酒井聖舟

◇無鑑査会員 加藤由加里、加藤了楓、賀川秋泉、進藤瑞月、大木八重、石黒幸栄、
中西加奈子、藤川智彦、大前恵利子、池田弘子、灘野由美、森根紫穂、岡本智子、高
木溪雪、越智粹鳳、草場丘遙、諸富如水

◇正会員 江崎青花、大柳悠郷、木村照園、窪田久美子、桑原美樹、佐々木義徳、堤
公宏、富田洋子、堀口桂與香、水谷節鴻、内田明子、近江理音、橋 和弘、西田美沙、
浦野蒼峰、小泉 翠、早川光峰、

八ッ田佳子、横田眞理子、青木清鳳、飯野千恵子、楠瀬六香、
佐藤翠風、清水郁子、田中美恵子、廣瀬幸子、大崎千華、清水桜幻、井村明日香、北
島 彩、坂中郁華、寺嶋香澄、岸名真知子、川端由紀子、住田紅苑、田中美智子、玉
村廣子、新本琴未、長谷川祥子、藤倉優希、土屋睦水、植村晶子、奥谷 恵、尾村智

子、田村公恵、寺畑 瞳、

東山清華、三木奈美、村岡美季、松谷祥華、森山明日香、宗藤満枝、井上咲香、岡本
洸秋、近藤富士枝、津村秀荘、永丘浩一、森 志織、宇都宮古径、漆原義典、白井加
織、藤川純代、池田光男、石川弾久、岡田玉鈴、川口雅笙、玉井恵心、沼田理心、吉
松瑤月、本村優妃

◇平成 25 年度奎星会事務局担当

代表部：中原茅秋、堀 吉光

総務部：中原志軒、鈴木邦子、高 北颯、新納大順

奎星会代表会計：浦田篁苑、田岡楚香

展覧会部：天野碧邨、成田誠一、森 禾甕、安藤園美、浦田篁苑、小野恵子、駒井光
明、新納大順、前澤秋紅、丸尾鎌使

会計・金竹秋苑

書教育部：齋藤義雄、荒井星冠、荒川泰石、駒井光明、谷酒恵秋、西川高洞、研究部
吉田青雲、相原雨雪、天野碧邨、鎌田恵山、

天満雨丘、友近吾邑、東原吐雲、森田華舟 ・会計 藤岡抱玉

出版部：石井抱旦、田鹿碩峰、高橋彰子、田中一瑤、松本丹芳、

宮村 弦 ・会計 小椋紫仙

特別対策部：相原雨雪、鎌田恵山、岡本正志、浦田篁苑、佐々木龍雲、

東原吐雲、吉田青雲 ・会計 天満雨丘

企画委員会

中西浩暘、外林道子、相原雨雪、天野碧邨、高 北颯、東原吐雲、

丸尾鎌使、吉田青雲

奎星会事務局：事務局長 丸尾鎌使、天野碧邨（情報システム担当） 高 北颯（ホ
ームページ担当） ・会計 安藤園美

5 月

1～6 第 7 回書をたのしむ 青青社書展 北海道 札幌市資料館ミニギャラリー1・2
室 竹下青蘭、他

16～19 第 50 回記念 新生書現代総合書展 広島県民文化センター 貝原司研、他

17～19 第 65 回記念 毎日書道展 毎日現代書巡回展豊岡展 兵庫 城崎大会議館
大ホール

24～26 第 65 回記念 毎日書道展 公募・会友鑑別

28～6/22 013 えとの現代書 「癸巳（ミズノト）」展 脱皮する書

福井 鯖江市まなべの館 山本大廣、他

28～6/2 第 31 回 修美社書といけばなの出会い展 東京・中央区 東京セントラル
美術館 奎星会関係：稲村雲洞 中村瑤光と仲間たちの書作品展 兵庫 「兵庫県民
アートギャラリー 中村瑤光

6月

1～8/31 友近吾邑書作展 愛媛・松山市 レストラン門田

6 (公社)全日本書道連盟 理事会・総会開催 東京・台東区

上野精養軒

[総会内容]

・平成 24 年度事業・収支決算報告・助成金給付事業・展覧会後援事業・助け合い募金・日中国交正常化 40 周年記念日中代表作家展・書写書道教育への要望・講演会：小学校における書写の指標

7～11 27 周年障害者のカルチャースクール「(公財)日本チャリティ協会主催」生徒作品展 「遊～夢」 東京・新宿区 エコギャラリー新宿 奎星会関係：堀 吉光

8～27 2013 煌く日本の現代書巨匠展 プラハ、キンスキー宮殿 スターブル新展示ホール 稲村雲洞、山本大廣、中原志軒、千葉半匡、丸尾鎌使

14～16 第 42 回書と古典と現代 青奎展 青森市民美術展示館 石橋青紅・他

14 (一財)毎日書道会 平成 25 年定時理事会・評議委員会開催 東京・千代田区如水会館 「人事・奎星会関係」 評議員

山本大廣

27 奎星会 5 月常任理事会開催 東京・港区 ホテルアイビス・4 階アイビスホール

[議事]

第 1 号議案 平成 24 年度収支決算報告の件

1. 奎星会会計
2. 奎星会一般会計
3. 奎星展会計
4. 会計監査報告

第 2 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 3 号議案 第 62 回奎星展に関する件

第 4 号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

27 奎星会 6 月理事会開催 東京・港区 ホテルアイビス・4 階アイビスホール

[議事]

第 1 号議案 平成 24 年度収支決算報告の件

1. 奎星会会計
2. 奎星会一般会計
3. 奎星展会計
4. 会計監査報告

第 2 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 3 号議案 第 62 回奎星展に関する件

第 4 号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第5号議案 (一財) 毎日書道会・第65回毎日書道展に関する件

第6号議案 第14回 「宇野雪村賞」 全国書道展に関する件

第7号議案 奎星会ホームページに関する件

第8号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

報告：(公社) 全日本書道連盟・事務局各部よりの件

22～29 出口恵山 卒寿記念個展(パリ)

7月

5～7 第17回凡書友会展 新潟 新発田市民ギャラリー

高橋華洲・他

9～15 ーSHO Is Itー横浜赤レンガ倉庫 2013 神奈川・横浜

赤レンガ倉庫 奎星会関係：安藤一鬼、石井抱旦、神山和子、

川邊艸笛、喜代吉鐵牛、喜代吉博子、近藤幸成、佐伯孝子、外林道子、

友葭良一、中尾弘子、中西浩暘、中原章等、原 雲涯、堀内 肇、

八重柏冬雷、和田 彩

10～21 第30回菱湖会書展 新潟 新潟市北区郷土博物館

小黑五稜、他

10～8/4 第65回記念 毎日書道展東京展 特別展示 「手島右卿の書芸術ーその世界」 東京・港区 国立新美術館 台東区 東京都美術館

前期展Ⅰ期(漢字、大字書、篆刻、刻字) 7月10日～15日

前期展Ⅱ期(漢字、大字書、篆刻、刻字) 7月17日～22日

後期展Ⅰ期(かな、近代詩文書、前衛書) 7月24日～29日

後期展Ⅱ期(かな、近代詩文書、前衛書) 7月31日～8月4日

東京都美術館(通期) 7月17日～23日

10 第65回記念毎日書道展 奎星会受賞者：

◇会員賞 新居田玉濤(漢字部)、神田知道 中尾瑤香(前衛書部)

◇毎日賞ー漢字部Ⅰ類ー友近吾鳳、日野紅雪、渡邊玉朱

ー漢字部Ⅱ類ー萩原 文、榎 泉苑、横山里美

ー前衛書部ー賀川秋泉、宮村 弦、石黒幸栄、小林美香、灘野由美、槇岡紫風、吉本波光、西神光雲、中原景雲

◇秀作賞ー漢字部Ⅰ類ー井上鳳園、大塩星雨、今岡香風、奥島玉琇、

川口雅笙、忽那玲香、矢野玉雪 ー漢字部Ⅱ類ー二宮 盛、

山根洋子、山崎扶美枝、高丸恵水、四辻尚子、神田亜貴江、

岡崎貴代 ー前衛書部ー山崎悠永、青木紀子、石井神華、

筏岡麗子、温井和海、川端由紀子、三木奈美 藤本浩絵、土方孝子、

梅本光充、柏原喜舟、中谷真澄、小田厚美、池田竹葉、斉藤浩子、

岡田風翔、溝渕育代、谷川美仙、片山瑠美、古賀秀華、西田暁山
◇佳作賞—漢字部Ⅰ類—小宮真美、星野香彩、渡辺春紅、
崎谷弘艸、岡田玉鈴、越智翠溪、河端玲子、木場翠香、仲神玉楼、村上朝陽 —漢字
部Ⅱ類—浦野蒼峰、代田梅鳳、宮崎嘉耀、
恩田蒼雲、竹内華抄、長谷川祥子、吉田翠紅、池田美智子
河村恭子、林 淑香、深田俊克、大平祥子、岡崎華鳳、岡田昌子、
富崎翠玉、田村香雨、柳原溪泉 —前衛書部—石崎青光、
古月真奈美、河井英子、井口陽世、武川恵美、坂井由利子、
高橋彰子、広瀬花堂、小塚雲翠、諸井光雲、浦田光有、清水桜幻、中川荷舟、小林茂
子、山崎光園、稲垣樂水、志村文浩、田辺真寿実、山田美鈴、田畑多佳子、川口絮風、
増田知子、湖山美月、田原綵子、登利和子、甲山京子、和田好恵、笠田邦園、曾根幸
博、中尾弘子、大町齊邦、小林安耶、湯上紅蓮、則兼篁華、山野清泉、松本朱華、岩
谷桂雪、岩本恵光、宮坂豊泉
◇U23 毎日賞—前衛書部—小野山遥華
◇U23 奨励賞—漢字部Ⅰ類—山本珠己 —漢字部Ⅱ類—仲田知亜紀
15～20 —世界の命と共に—北岡瑞桐 筆と戯れ半世紀展 東京・千代田区 アート
サロン毎日・一ツ橋画廊
20～21 奎星会おびひろ 第48回夏季錬成会開催 北海道・帯広
「音更町集団研修施設」
26～28 平成25年度奎星会夏期書道研究大会 愛媛・松山市 「ホテル奥道後」
◇7月26日(金)・臨書研究 「石鼓文」 講師：堀 吉光、相原雨雪、
浦田篁苑・臨書研究 「樂毅論(王羲之)」 講師：小黒五稜、
大六泉嶽、石井 駿 中西浩暘 特別講演 講師：菅野清峯、
大樂華雪
◇7月27日(土)・臨書研究 「文皇哀冊(遂良)」 講師：貝原司研、吉田青雲、佐々
木龍雲、東原吐雲・前衛書創作(第14回宇野雪村賞全国書道展) 講師：山本大廣、
中原志軒、石井抱旦
◇7月28日(日)・古典臨書研究 「草書千字文(懷素千金帖)」
講師：中原茅秋、赤池艸裕、丸尾鎌使
8月
2～7 第65回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展群馬展 群馬 高崎シティギャラ
リー
2 (公社)全日本書道連盟 第39回夏期書道大学講座 東京・豊島区 サンシャイ
ンシティコンファレンスルーム・ワールドインポートマートビル5階
7～11 第28回—美のなかにふれあいがある—東京都障害者総合美術展 東京・豊島
区 西武池袋本店7階催事場特設会場 奎星会関係：審査員 堀 吉光

7~11 第 65 回記念 毎日書道展関西展 京都市美術館本館（第 1 会場） 日図デザイン博物館（第 2 会場）

14~18 第 65 回記念 毎日書道展四国展 愛媛・松山市 愛媛県美術館

14~18 一古代から未来へ時空を超えて一江草幽研展・幽研社書展 兵庫・神戸市原田の森ギャラリー 江草幽研、他

20~25 第 65 回記念 毎日書道展中国展 広島県立美術館県民ギャラリー

22~27 第 58 回北海道奎星書道展 北海道・函館市 テーオー小笠原 木村蒼人、他

25~29 第 65 回記念 毎日書道展北陸展 富山県民会館

27~9/1 第 8 回小さな展覧会 書〈en〉 東京・中央区 銀座画廊美術館 石井抱旦、堀 吉光（賛助出品）

28~9/1 第 51 回燧洋會書展 愛媛・今治市 河野美術館 2 階 友近吾邑、他

30~9/1 第 49 回現代書の総合展 飛龍書道展 長崎 諫早文化会館 出口恵山、他

31 奎星会 9 月常任理事会開催 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

[議事]

第 1 号議案 奎星会理事会に関する件

第 2 号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第 3 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 4 号議案 第 62 回奎星展に関する件

第 5 号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第 6 号議案 （一財）毎日書道会・毎日書道展に関する件

第 7 号議案 毎日書道展作品研究会に関する件

第 8 号議案 事務局各部よりの件

報告：（公社）全日本書道連盟・第 14 回 「宇野雪村賞」 全国書道展

毎日書道展奎星会祝賀会・他

9 月

5~8 第 37 回玄倉社書展 神奈川・平塚市 中央公民館市民ギャラリー 中原茅秋、他

5~9 墨盈会代表小品書展 広島・福山市 割烹・大吉

相原雨雪、他

6~8 第 13 回 十來書道会展 広島県民文化センター地下第 2 展示室 西村九十、他

12 （公社）全日本書道連盟 第 152 回理事会開催 東京・台東区 上野精養軒

[議題]

1. 書写書道教育に関する要望書提出について

2. 役員構成機関（役割分担）
の報告理事・監事選出方法について
 3. 平成 25 年度夏期書道大学講座の報告
 4. 日中代表書法家展（中国展） について
 5. （公社）全日本書道連盟代表団の訪中について
 6. 平成 25 年度書道講演会について
 7. 平成 25 年度助けあい募金について
 8. 助成申請について
 9. 会員の新規入会について
 10. 高野山開創 1200 年記念献書事業について
 11. その他
 - 13～18 第 65 回記念 毎日書道展東北仙台展 宮城・仙台市 せんだいメディアテーク
 - 13～15 第 53 回表現に限りない可能性を 照心書展 神奈川
厚木市文化会館 石井抱旦、他
 - 14 書とジャズのセッション 和・JAZZ 兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール
牛丸好一、他
 - 19～23 第 4 回 成臼舎書展 香川・高松市 香川県文化会館
東原吐雲、他
 - 21～29 第 65 回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展青森展 青森県立美術館
 - 24～10/6 ' 13 書展 交錯する眼差しの方へⅡ 北海道・札幌市 コンチネンタルギャラリー 奎星会関係：竹下青蘭
 - 25～29 第 65 回記念 毎日書道展北海道展 北海道 札幌市民ギャラリー・大丸藤井セントラルスカイホール（役員展）
 - 26～29 第 21 回玄書人会展 新潟県民会館ギャラリーA 小黒五稜、他
 - 28～29 第 64 回書の心を探求する 五風書展 島根・浜田市 石中央文化ホール 喜代吉鐵牛、他
- 10 月
- 2～6 第 65 回記念 毎日書道展東北山形展 山形美術館
 - 5～6 第 36 回書と華 富山・南砺市 福野文化創造センターアートスペース・データースペース 奎星会関係：松本燐之、他
 - 5～11/13 上田桑鳩・金子鷗亭・桑原翠邦 現代書一北に輝く 3 巨星 北海道・函館市 北海道立函館美術館
 - 8～13 第 65 回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展長崎展 長崎・長崎県美術館
 - 8～26 パリの街に書を飾ろう！ 大丸俱樂部書展 フランス・パリ 1 区サントレ

ノ通り Think & More 奎星会関係：丸尾鎌使、
谷野成子、富依綾子

11～13 第2回（昭和52年度）大東文化大学同期生書展 東京・中央区 アート
フォーラムギンザイズム 奎星会関係：下垣内裕子、
下原夢洞

15～20 創立50周年記念 墨象会展 岡山市 天神山文化プラザ第1展示室 白神
順風、他

15～20 書の神髓を究める 笹野舟橋遺墨展 岡山市 天神山文化プラザ第1展示室

18～11/10 一瞬（とき）を刻む・Lineー 山本廣展 In Milano

イタリア・ミラノ ギャラリーノービリ

18～20 第67回現代書の総合展 飛雲展 兵庫・神戸市 原田の森ギャラリー 桑
田耕石、他

21～11/7 第13回「宇野雪村賞」 全国書道展 兵庫・新温泉町 「第Ⅰ期 浜坂
多目的集会施設」（10月21日～10月24日） 第Ⅱ期 浜坂先人記念館以命亭ホール
（10月27日～11月7日）

〈一般の部〉

宇野雪村賞・文部科学大臣賞 恵美純子

奎星賞 塩島秋葉、水原千里、平江重徳

兵庫県教育長賞 清水育代、藤川智彦、山谷星光

新温泉町長賞 佐藤如園、安田絹子、山内由美子

新温泉町教育長賞 佐々木真紀、片山恵草、増田知子

新温泉町議会議長賞 渡辺亜紀、高尾ゆかり、中尾弘子

奎星会会長賞 西村紀水、茂田 翔、高郷久郎

特選 石戸谷青悠、高谷美雪、早川光穂、森岡美香、濱田舟漣、

堀内 肇、五十嵐紀美、齋藤桂夏、渡辺紅楓、中西遥舟、竹澤順子、大川巨舟、村上
美香、玉川紀代、阿部秀子、上田 守、乾 由美、

石川かおる、仲村亜紀、関本久美子、吉岐翠苑、久谷敦子、

東條三紀子、原田珠江、井関まき子、藤井慶子、北平仁美、渡邊里彩、片山千能生、
十亀厚風

〈学生の部〉

奎星賞 日下部麻衣、広川千晴、斎藤麻子

新温泉町長賞 吉田すみれ、宮崎彰子、五十嵐由惟

新温泉町教育長賞 磯島優未、田村則子、吉原千尋、森 美由紀、

井上 葵

特選 東城佑樹、佐藤佑香、宮下千波、伊藤明香、杉井香織、

森永舞衣、岡田茉佑子、大塚明穂、野地彩花、中浜祐美、藤木理帆、木津 翼、槌本

英、重松宏海、梶川聖佳、野上 萌、小橋 楓、
加藤佑奈、木口屋美樹、古澤瑠奈、石原菜々子、仲 裕子、片川義貴、
毛利友希乃、野崎千夏、坂上果穂、澁谷花梨、八尾有咲、藤井登子、竹川達也、長谷
樹、北原帆乃佳、九鬼陽光、三宅陸斗、渡辺裕佳、
山本悠一郎、森崎由渚、中村真結子、河井優希
23～1/13 現代日本の書 「代表作家パリ展 SH02」開催 フランス・パリ 国立ギメ
東洋美術館

奎星会関係：中原茅秋、山本大廣、堀 吉光、相原雨雪、中原志軒、
浦田篁苑、鈴木邦子、中西浩暘、丸尾鎌使、吉田青雲

25～27 第 18 回 梅花書展 神奈川 小田原市民会館 山口昌村、他

28 奎星会 10 月常任理事会開催 東京・台東区 ホテルパークサイド 2 階不忍
[議事]

第 1 号議案 平成 26 年度奎星会会費に関する件

第 2 号議案 第 62 回奎星展に関する件

第 3 号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第 4 号議案 奎星会会員特別選考に関する件

第 5 号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

28 奎星会 10 月理事会開催 東京・台東区 ホテルパークサイド 2 階不忍
[議事]

第 1 号議案 奎星会総会議案に関する件

1. 平成 25 年度会務報告承認の件並びに平成 26 年度事業計画について

2. 平成 24 年度決算報告・会計監査報告承認の件

3. 平成 26 年度会費決定について

4. 平成 26 年度新役員の選出並びに議長団選出について

第 2 号議案 平成 26 年度会費に関する件

第 3 号議案 第 62 回奎星展に関する件

第 4 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 5 号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第 6 号議案 奎星会会員特別選考に関する件

第 7 号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

第 8 号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第 9 号議案 第 14 回「宇野雪村賞」、全国書道展に関する件

第 10 号議案 第 65 回毎日書道展、(一財) 毎日書道会に関する件

第 11 号議案 事務局各部よりの件、他

報告：(公社) 全日本書道連盟、パリ展、広島岡山地区合同研究会

29～11/3 第 37 回MINI 作品 書壇巨匠展 東京・中央区 東京銀座画廊・美術

館 奎星会関係：稲村雲洞、大楽華雪

30～11/5 第44回玄武書道展 東京・台東区 松坂屋上野店

奎星会関係：稲村雲洞、貝原司研、平野翠甫、友近吾邑

30～11/6 第62回奎星展 東京・台東区 東京都美術館 10月24日/搬入 25日/
整理 26～27日/特別賞選考・監査・審査 29日/陳列 30日/開会 11月2日/総
会・授賞式・懇親会 6日/閉会

〈入賞者〉

－役員の一部－

上田桑鳩記念賞 浅田登仙

宇野雪村記念賞 栗原桜水

同人特別賞 脇 壽子、古小高遥泉、小椋紫仙、濱田宙子

高橋竹村記念賞 岸本泰子

天野翠琴記念賞 石井窓月

清田岱石記念賞 井上鳳園

弦巻松蔭記念賞 遠藤泉女

上松杜暘記念賞 堀 蘆山

中原一耀記念賞 河井英子

無鑑査特別賞 山根美幸、山田真由子、磯部紅月、日野紅雪、
小堀香陽、横倉紀子

－公募の一部－

毎日新聞社賞A部 尾村智子

毎日新聞社賞B部 井筒理栄子

毎日新聞社賞C部 畠中一美

毎日新聞社賞D部 高丸恵水

奎星賞A部 渡辺淳子、高橋清堂、寺畑 瞳、槇岡紫風、舟木恵香、林 直美、山谷
星光、泉 雅子、湯上紅蓮

奎星賞B部 奥村紫陽、簡 康恵、発知青藍、蔭山美紅

奎星賞C部 米谷理沙

奎星賞D部 金田美穂、近藤富士枝

特選A部 上迫 正、加藤理恵、熊谷裕光、小林華逢、川幡梨燐、
八ッ田佳子、菊池さつき、今井春鈴、山崎光園、得能九華、舟岡圭昭、
岩本光雄、山崎千鶴子、久谷敦子、小林 希、廣狩礼花、片山好美、
山崎扶美枝、渡邊里彩、佐藤光邦、井上咲香、岡田風翔

特選B部 渡邊香織、菅 輝子、田中美恵子、渡辺春林、富田一象、嶋田 治、小林
美香、井澤静嶽、田村公恵、稲角由美子、白井加織

特選C部 野地實人、香坂照葉、森木きく子、藤原早苗、岡本大樹、宇都宮古径

特選D部 関山華香、園部ちづる、福万俊江、榎岡紫風、丹木恵香、佐藤光邦

準特選A部 小室聡美、岩間弘子、佐々木真紀、足立葉子、

小野里裕子、大高絵里、大柳悠郷、長家直子、古月真奈美、佐治花衣、

外山瓊璃、剣持翔伍、横田真理子、飯野千恵子、渡邊竹龍、香坂照葉、

今井扇水、絹谷恵津、太田八華、久恵紀梢、西村紀水、山下佳芳、

山田圭華、野村澄石、林伽奈栄、簡 康恵、濱湊政行、中宗澄香、

土居雪嶺、高橋光恵、佐藤由紀代

準特選B部 山下水園、藤田霄坦、越智由紅、遠藤玲泉、永橋香峰、

平沢咲果、安達天水、服部艸香、大崎千華、保坂千光、藤倉優希、

池田美智子、西川俊夫、野村百合、織田香里、漆原義典

準特選C部 大谷勢津子、金子琇圭、平澤秋波、伊藤美姫、

岡田昌子、林 香雲、岡崎華鳳、緒方小帆

準特選D部 小島伯舟、寺田和雪、井上秋子、杉井虹峰、新本琴未、

竹下京仙、重岡登喜子、沼田理心、石川弾久

褒賞A部 前崎秀子、小泉 翠、斎藤白瑤、長谷弘華、坂中郁華、

山岸鹿聲、園部麗子、奥谷 恵 中尾弘子、田中芳佳

褒賞B部 奥 美加、高木伸葉、中原章等、森須 睦、島 石心、

岡田玉鈴

褒賞C部 楠瀬六香、横山里美

褒賞D部 清水郁子、川口雅笙

11月

1～3 「希望と和をつなぐ書」愛前會書展 兵庫・神戸市 兵庫県民会館アートギャラリー 前田敦子、他

1 (一財)毎日書道会役員作家による 「干支(午歳)文字切手」 発売 奎星会関係：長沼透石

2 平成25年度 奎星会総会開催 東京・台東区 上野精養軒3階さくら 司会 鈴木邦子 議長団 武田綾苑、原 雲涯、前田敦子

会長挨拶 中原茅秋

[議事]

第1号議案 平成25年度会務報告の件、平成26年度事業計画の件

第2号議案 平成24年度各部収支決算報告・監査報告承認の件

1. 代表会計部

2. 一般会計

3. 会計監査報告

第3号議案 平成26年度会費決定の件

第5号議案 平成26年度新役員選出の件

その他 新旧役員挨拶・他

◇平成 26 年度奎星会役員：

最高顧問：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯、大楽華雪

名誉会長：中原茅秋

会長：貝原司研

副会長：相原雨雪、外林道子、中原志軒、山本大廣、吉田青雲

名誉顧問：小黑五稜、越水春汀、小森秀雲、田村空谷、出口恵山

顧問：井上星峰、丸尾玉蘭、森 須園

相談役：梅木春華、榎本 深、山藤耕子、高郷石峰、千葉半匡、

長沼透石、藤原一三、道方芳堂、山崎灘青

参与：桑田耕石、榛葉壽鶴、武田綾苑、豊田法子、中野浦子、

平野翠甫 牧野光翠、森原恵華

理事長：堀 吉光

副理事長：大六泉嶽、中西浩暘、東原吐雲

常任理事：赤池艸裕、天野碧邨、石井 駿、石井抱旦、浦田篁苑、

佐々木龍雲、鈴木邦子、西村九十、原 雲涯、丸尾鎌使

理事：上田幸加、江草和彦、岡本正志、小野恵子、鎌田恵山、

金竹秋苑、竹下青蘭、成田誠一、藤岡抱玉

監事：中野浦子

議長団：平野翠甫、藤原一三、森原恵華（平成 27 年度）

2 第 62 回奎星展授賞式・懇親会 東京・台東区 上野精養軒 3 階さくら

3～5 墨友会書道展 福井・福井市 谷口文栄堂 3 階・ギャラリーたにぐち 谷澤昌
華 他

11～12/6 花たちの文字・II 山本大廣展 福井・鯖江市 北陸銀行鯖江支店・北銀
アートギャラリー

12～17 第 65 回記念 毎日書道展東海展 愛知・名古屋市 愛知県美術館ギャラリ
ー（第 1 会場） ・名古屋市民ギャラリー（第 2 会場）

15～20 都城 to TOKYO 6 人 6 様展 東京・中央区 有楽町朝日ホール 奎星会関
係：平桃太郎

16～18 第 7 回新進作家が書の美を求めて集う 壘土舎展 大阪市中央区 大阪産業
会館創造館 奎星会関係：川邊艸笛、
谷川ゆかり、和田 彩

20～25 第 20 回記念 「武蔵を書く」 伊豆田雪岳傘寿陋行書展 広島 福山天満
屋

21～26 第 65 回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展帯広展 北海道 帯広市民ギャ
ラリー

22～24 60 耳順 富山奎星書作展 富山 砺波市美術館

石井 駿、他

26～12/1 2013「巳歳の会」書展 東京・中央区 東京銀座画廊・美術館 「奎星会
関係」 越水春汀、菅野清峯、清川芭紅

藤岡抱玉、丸尾鎌使

28～12/4 野村雪陽書作展 千葉市民ギャラリー・いなげ

12 月

2～8 一遊絲逍遙一獨・抱旦・展 東京・中央区 東京銀座ギャラリー志門 石井抱
旦

3～6 第 65 回記念 毎日書道展九州展 福岡市美術館

5～11 一墨象の現時代一書の予兆 東京 東京都美術館ギャラリーB 宮村 弦

10～15 第 25 回記念 書の総合展 一華会展 広島 ふくやま美術館企画展示 大
楽華雪、他

13 (一財) 毎日書道会理事会開催 東京・千代田区 如水会館

◇第 66 回毎日書道展主要役員：奎星会関係

審査部長：中原志軒

各展実行委員長：四国展 東原吐雲 運営委員：漢字部 吉田青雲

前衛書部 天野碧邨、喜代吉鐵牛、佐伯孝子

◇(一財) 毎日書道会役員人事：参与会員(漢字部) 小黒五稜

部門移籍 赤池艸裕(漢字部審査会員→前衛書部審査会員)

審査会員(漢字部) 新居田玉濤 (前衛書部) 神田知道、中尾瑤香、

川邊艸笛

会員(漢字部) 岡崎貴代、賀川秋泉、忽那玲香、萩原 文、渡邊玉朱、大塩星雨 (前
衛書部) 大町齊邦、川端由紀子、増田知子、宮村 弦、山崎悠永、浅野墨泉、笠田邦
園、富崎翠玉、長家豊丘

会友(漢字部) 遠藤綾苑、小国志香、越智翠溪、近藤窓風、佐々木綾子、佐々木晋山、
十亀厚風、土居玉晨、中井梓翠、中野翠鳳、林 香雲、藤田霄坦、松本桂玉、溝渕育
代、森 美汀、森須 睦、山下翠圃、

友近吾鳳 (前衛書部) 池田可葉、井手恭苑、稲垣楽水、井原進一、浦田光有、片山
好美、上迫 正、水津あや子、住田紅苑、高木溪雪、

田中真紀、中尾弘子、宮坂豊泉、山下恭代、吉田和代

19～22 一読める書と読めない書と一琴風会展 静岡 藤枝文化センター1 階ホール
榛葉壽鶴、他

1 月

2～13 松下琴舟と社中の小品展 きまま展 Part IV 愛媛・松山市 ギャラリータナ

カ 松下琴舟、他

4~16 TOKYO 書 2014 東京・台東区 東京都美術館 奎星会関係：河野 隆、田岡楚香

5 奎星会 1 月常任理事会開催 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

[議事]

第 1 号議案 奎星会事務局担当に関する件

第 2 号議案 奎星会新会員・推挙会員・昇格会員に関する件

第 3 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 4 号議案 第 62 回奎星展に関する件

第 5 号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

第 6 号議案 (一財) 毎日書道会・毎日書道展に関する件

第 7 号議案 事務局各部よりの件・その他

報告：現代の書新春展・毎日チャリティー書展・TOKYO 書 2014・他

平成 26 年度奎星会会員昇格・新正会員推挙者：

◇特別同人会員 佐々木光子、飯島来陽、山本大廣、津幡大洋

◇同人会員 高橋亜弥、高橋華洲、高橋翠雲、脇 桂華、山根美幸、村松極水、片山恵草、宮村 弦、寺道芳舟、岸本泰子、濱田葉雪、

深田俊克、岡崎貴代、大内 誠、小堀香陽、堀 蘆山、濱元加陽

◇無鑑査会員 木村照園、佐々木真紀、大谷勢津子、畠中一美、

川口澄子、志村香竹、高橋清堂、渡邊香織、村上茅穂、久津間勝徑、池田竹聲、渡辺春林、舟岡圭昭、川崎由紀子、小塚雲翠、長島毬果、

大石愛花、伊藤美姫、尾村智子、深田楚楓、小林美香、久谷敦子、山崎千鶴子、春名直子、川上真理子、坂井幸子、中尾弘子、

丹木恵香、林 直美、槇岡紫風、湯上紅蓮、発知青藍

◇正会員 加藤理恵、佐治花衣、外山瑠璃、奥村紫陽、剣持翔伍、金田美穂、菊池さつき、関山華香、田中美恵子、越智由紅、杉井紅峰、平澤秋波、渡邊竹龍、粉川紅苑、

藤尾榮子、森脇房恵、保坂千光、得能久華、富田一象、絹谷恵津、山下佳芳、野村澄石、林伽奈栄、岩本光雄、簡 康恵、片山好美、濱湊政行、池田美智子、森須 睦、

河村恭子、中谷真澄、小林久子、高丸恵水、福万俊江、重岡登喜子、竹下京仙、島 石心、清水雲遊、末包恵理、蔭山美紅、川口雅笙、

宮坂豊泉

◇平成 26 年度奎星会事務局担当：

代表部：貝原司研、堀 吉光

総務部：中原志軒、鈴木邦子、高 北颯

奎星会代表会計：浦田篁苑、田岡楚香 棟方昇三郎（顧問税理士）

展覧会部：天野碧邨、成田誠一、森 禾甕、安藤園美、小野恵子、

高 北颯、駒井光明、田岡楚香、前澤秋紅 会計・金竹秋苑
書教育部：齋藤義雄、荒井星冠、荒川泰石、駒井光明、谷酒恵秋、西川高洞
研究部：吉田青雲、鎌田恵山、友近吾邑、新居田玉濤、檜垣哲一、東原吐雲、森田華舟 会計・藤岡抱玉
出版部：石井抱旦、田鹿碩峰、高橋彰子、田中一瑤、松本丹芳、宮村 弦 会計・小椋紫仙
特別対策部：相原雨雪、鎌田恵山、岡本正志、浦田篁苑、佐々木龍雲、東原吐雲、吉田青雲 会計・
天満雨丘
企画委員会：中西浩暘、東原吐雲、天野碧邨、安藤園美、石井抱旦、田岡楚香、丸尾鎌使
奎星会事務局・事務局長：丸尾鎌使、天野碧邨（情報システム担当）
高 北颯（ホームページ担当） 会計・安藤園美
5～13 2014—今いきづく墨の華—「現代の書 新春展」和光ホール 31 人展 東京・中央区 銀座和光本館 6 階 奎星会関係：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯、大楽華雪、田村空谷（最高顧問・常任顧問・顧問） 中原志軒、中原茅秋（理事）
「セントラル会場 100 人展」—60 歳以下の作家による— 東京・中央区 東京セントラル美術館・席上揮毫：丸尾鎌使（1 月 11 日）・作品解説：中西浩暘（1 月 13 日） 奎星会関係：（漢字部）相原雨雪、貝原司研、外林道子、藤岡抱玉、堀 吉光（前衛書部）中西浩暘、平野翠甫、丸尾鎌使、山本大廣、吉川壽一
6～11 墨盈会干支展 広島・福山市 NHKギャラリーふくやま 相原雨雪、他
7～13 第 46 回—甲午の新春を飾る—玄穹書道会展 広島・福山市 ふくやま美術館ギャラリー 伊豆田雪岳、他
7～22 第 33 回 世田谷区内在住書家による世田谷の書展 東京・世田谷区 世田谷文学館 1 階文学サロン 奎星会関係：稲村雲洞、丸尾鎌使
7～12 第 55 回記念 墨華書道展 香川 高松市美術館 東原吐雲、他
7～12 第 30 回丑歳生まれの書作家による 雅涎会書展 東京・中央区 東京銀座画廊・美術館 奎星会関係：中原志軒
9～12 第 43 回玄同社展 東京・新宿区 ヒルトピアアートスクエア 稲村雲洞、他
11～2/1 外林道子 體と臓 東京・中央区 東京画廊 B T A P
12～13 墨艸 ' 14 展 大阪 高槻市現代劇場文化ホール 2 階 川邊艸笛、他
12～19 轟轟と走る…線のストローク 2014 えとの現代書 [甲午] 展 福井・鯖江市 まなべの館 山本大廣、他
14～24 午歳干支切手揮毫作家展 東京・千代田区 アートサロン毎日 奎星会関係：長沼透石

16～21 泉会展—古希ミニ個展— 東京・中央区 竹川画廊

中村碧水、他

17～31 宮村 弦 ' 14 静岡・藤枝市 エマガallery

17～19 書勢会展 「セプテット」(七重奏) 福井 福井県立美術館ギャラリー 林
一昭、他

18～26 第 65 回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展春日井展

愛知・春日井市 文化フォーラム春日井

22～26 第 38 回書界社展 愛媛県美術館南館

吉田青雲、他

24～26 第 61 回福井奎星展 福井県立美術館

千葉半匡、山本大広、他

28～2/2 12 年に一度の…。うま歳生まれの書家による 第 4 回バレイ書会展 東京・
中央区 東京銀座画廊・美術館 林 幽桂、

天野碧邨、小川雅山、合田春江、佐伯孝子

29～2/2 第 65 回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展高松展 愛媛 高松市美術館
2 月

3～4 第 66 回毎日書道展運営委員会開催 東京・千代田区 如水会館

会員賞選考委員：〈理事〉中原茅秋、中原志軒 〈前衛書部〉天野碧邨、喜代吉鐵牛、

佐伯孝子 運営小委員：天野碧邨〈前衛書部〉

本年度審査員：〈漢字部Ⅰ類〉吉田青雲 〈漢字部Ⅱ類〉笠原康伸、

桑田耕石 〈前衛書部〉石井克代、金竹秋苑、近藤幸成、佐々木龍雲、竹下青蘭、天
満雨丘、原田心龍、東原吐雲、本多敬子、前田敦子、丸尾鎌使、山本大廣

本年度審査委員：〈漢字部Ⅰ類〉佐藤奎玉、檜垣哲一、成田誠一、

浦田篁苑 〈漢字部Ⅱ類〉相原雨雪、岡本正志、原田遊山、戸津川政世 〈前衛書部〉
鎌田恵山、北谷翠峰、榛葉壽鶴、中尾瑤香、中西浩暘、三宅華邦、原 雲涯 一総務
部一

前衛書部副部長：前澤秋紅 一審査部一

漢字部副部長：吉田青雲

前衛書部副部長：東原吐雲 一陳列部一

前衛書部副部長：天野碧邨

9～11 第 1 回奎星会若手育成研修会開催 京都・京都市 京の宿・洛兆

講師：中原茅秋、堀 吉光、相原雨雪、

中原志軒、吉田青雲

スタッフ：天野碧邨(助講師) 天満雨丘 一参加者一「北海道」

山崎悠永 「東北・関東」高 北颯、田鹿碩峰 「東海」榛葉羽翔

「北陸」竹内華抄、竹澤順子、山根美幸 「近畿」池田孝治、
川邊艸笛、北岡瑞桐、菅原美由紀、谷川ゆかり、橋本安希子、
水野博子、和田 彩 「中国」国竹雨杏、栗原桜水、小林安耶、
喜代吉博美、田原春夕、戸津川政世、深田俊克、松本昂星、森原鴻楊、
脇 壽子 「四国」岡崎貴代、河野隆志、塩田桜華、重松竹邦、
谷川美仙 「九州」井上琢也

一講座内容—2月9日(日) 前衛書 講師：中原茅秋、中原志軒、
条幅臨書(泰山刻石) 講師：相原雨雪 堀 吉光 講義 「奎星会の歴史・桑鳩・
雪村の理念」・「鑑賞会」・「天来の系譜」

講師：堀 吉光

一自由研究—2月10日(月) 尺牘 講師：中原茅秋、堀 吉光
条幅臨書(木簡・竹簡) 講師：相原雨雪、中原志軒 講義 「昭和～平成の書・書
壇の動向」 講師：中原茅秋 条幅臨書(温泉銘) 講師：中原志軒、吉田青雲

一自由研究—2月11日(火) 漢字創作(小字数・多字数)

講師：相原雨雪、吉田青雲 パネルディスカッション(奎星会に望むこと)

20～4/1 松本燁之展 一線との対話— 富山 北陸銀行本店中央通ショーウィンド
ウ

3月

1～16 みな穂 書の散歩道 富山 福光美術館1階市民ギャラリー 石井克代、他
11～16 豊島区障害者美術展 「ときめき想造展」 東京 豊島区民センター1階総
合展示場 審査員 堀 吉光

11～16 第39回墨盈會書作展 一熱い思いを現代書に…— 広島・福山市 ふくや
ま書道美術館 相原雨雪、他

12～16 第19回—現代書と古典臨書と—象展テーマ いしづえ礎 愛媛 愛媛県美
術館南館1階 鎌田恵山、他

12～16 梅木春華書作展—為るがまま今を生きる—パリ・モンパルナス展報告個展
香川 善通寺市美術館

18～23 第30回最高賞作家ミニ作品展 東京・中央区 東京銀座画廊・美術館8階
奎星会関係：栗原桜水

18～23 第65回記念毎日書道展 毎日現代書巡回展岡山展 岡山県天神山文化プラ
ザ

21～23 第22回朴翠社書道展 広島 ぎやらりいNEWくわもと5階 北谷翠峰、
他

26～30 第11回華心書道展 香川 善通寺市美術館 梅木春華、他

2014年4月(平成26年度)

4月

3~6 第14回ベナール美術展 福井 福井県立美術館 第1展示室 出品者 山本大廣、千葉半匡、玄 千恵子

3~8 第21回中国への研究視察団 憧峯の會 神奈川・そごう横浜展(出品者) 大野暢子、松岡春聲

5 奎星会企画委員会 東京 貸会議室・プラザ八重洲北口

6 奎星会4月常任理事会 東京 貸会議室・プラザ八重洲北口

[議事]

第1号議案 奎星会5月常任理事会・6月理事会に関する件

第2号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

第3号議案 奎星会企画委員会に関する件

第4号議案 第63回奎星展に関する件

第5号議案 奎星夏期書道研究大会に関する件

第6号議案 平成25年度決算・26年度予算委員会に関する件

第7号議案 (一財)毎日書道会・第66回毎日書道展に関する件

報告:

6 平成26年度総会・毎日展のための研修会 北海道・帯広 柏葉高等学校 奎星会 おびひろ 八重柏冬雷、他

12~20 障害者のカルチャースクール 遊~夢 第28期生徒作品展 東京・クリエイションギャラリー日本橋箱崎(書道担当)堀 吉光

16~20 第52回燧洋會書展 愛媛 今治市河野美術館 友近吾邑、他

16~20 書…古代文字の変相 PART II 千葉半匡展 福井県立美術館(ギャラリートーク・19日)

5月

8~12 第45回現代女流書100人展 同時開催・現代女流書新進作家展 東京・日本橋高島屋8階ホール 出品者:浦田篁苑、

外林道子、福島佐苑(漢字部) 上田幸加、小野恵子、小林信恵、

佐伯孝子、榛葉壽鶴、平野翠甫、森原恵華(前衛書部)

新進作家展出品者:中尾瑤香(前衛書部)

15 (公社)全日本書道連盟 第154回理事会 東京・上野精養軒

[議事]

1. 書写・書道教育推進協議会 活動報告と協力依頼(署名・募金)

2. 中国 「文化交流貢献賞」受賞の報告

3. 平成25年度事業報告並びに財務諸表の報告

4. 平成26年度総会の進行について

5. 平成26年度書写書道教育講演会について

6. 平成26年度夏期書道大学講座について

7. 高野山開創 1200 年記念事業について

8. その他

15～18 水越茅村先生生誕 100 年 逝去 30 年 記念第 40 回茅花展 神奈川 茅ヶ崎
市民文化会館 石井抱旦、他

15～18 第 51 回新生書 現代総合書展 広島県民文化センター 地下第 1・2・3 展
示室 貝原司研、他

22 第 66 回毎日書道展審査員総会 東京・六本木 国立新美術館 3 階 講堂

23～25 第 66 回毎日書道展 公募・会友公募鑑別 東京・六本木 国立新美術館

25 奎星会予算委員会 東京 TKP 品川カンファレンスセンター 貝原司研、堀 吉
光、浦田篁苑、田岡楚香、相原雨雪、天満雨丘、
天野碧邨、金竹秋苑、吉田青雲、藤岡抱玉、石井抱旦、小椋紫仙、
安藤園美

6 月

5 (公社) 全日本書道連盟 総会・講演会 東京 上野精養軒

[議題]

・平成 25 年度事業報告ならびに収支計算報告・その他・講演会 「小学校における書
道体験」

8 第 3 回 大時代錯誤展 東京・渋谷レストランカフェ ラスチカス奎星会関係：
桃太郎

10～15 狼涙忌 七人の現代書家展 兵庫 アトリエ西宮

奎星会関係：牛丸好一、友葭良一、本多利雄、山本大廣

12～14 第 57 回若草天真書道展 一点と線 古典から前衛一 神戸 兵庫県民ア
ートギャラリー2F 左右津安輝子、他

20～22 第 43 回書の古典と現代 青奎展 青森市民美術展示館 2 階 石橋青紅、田
中紫蘭、他

24～29 第 7 回 7・COLORS 展一書を謳う part IV一 兵庫 神戸ギャラリーミウラ
(出品者) 青木 央、高橋知子、和田 彩、他

26 奎星会 5 月常任理事会 東京 TKP 品川カンファレンスセンター

[議事]

第 1 号議案 平成 25 年度収支決算報告の件

1. 奎星会会計

2. 奎星会一般会計

3. 奎星展会計

4. 会計監査報告

第 2 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 3 号議案 第 63 回奎星展に関する件

第4号議案 奎星夏期書道研究大会に関する件

第5号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

26 奎星会5月常任理事会 東京 TKP品川カンファレンスセンター

[議事]

第1号議案 平成25年度収支決算報告の件

1. 奎星会会計

2. 奎星会一般会計

3. 奎星展会計

4. 会計監査報告

第2号議案 奎星会企画委員会に関する件

第3号議案 第63回奎星展に関する件

第4号議案 奎星夏期書道研究大会に関する件

第5号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第6号議案 (一財)毎日書道会・第66回毎日書道展に関する件

第7号議案 第15回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

報告：全書連・事務局各部より

7月

9～13 第37回愛媛女流書家連盟展 愛媛・愛媛県美術館南館 藤岡抱玉、他

9～8/3 第66回毎日書道展 東京・六本木 国立新美術館 上野 東京都美術館

前期展Ⅰ期(かな・近代詩文書・前衛書) 7月9日(水)～7月14日(月)

前期展Ⅱ期(かな・近代詩文書・前衛書) 7月16日(水)～7月21日(月)

後期展Ⅰ期(漢字・大字書・篆刻・刻字) 7月23日(水)～7月28日(月)後期展

Ⅱ期(漢字・大字書・篆刻・刻字) 7月30日(水)～8月3日(日)

東京都美術館 (通期)7月16日(水)～7月23日(水)

9～8/3 第66回 毎日書道展 奎星会受賞者

◇会員賞 濱田宙子〈漢字部〉、河野隆志〈前衛書部〉

◇毎日賞一漢字部Ⅰ類一川口雅笙、矢部麗月、吉本玉洲 一漢字部Ⅱ類一赤尾香石、

池田孝治、竹久清蘭 一前衛書部一奥崎真弓、

小野里裕子、佐藤由身子、嶋 江笛、志村文浩、中尾弘子、溝渕育代、

諸富如水

◇秀作賞 一漢字部Ⅰ類一井上鳳園、今岡香風、奥島玉琇、河端玲子、

高木伸葉、友近吾鳳、矢野玉雪 一漢字部Ⅱ類一磯部紅月、高丸恵水、

深田俊克、宮崎嘉耀、山碓扶美枝 一前衛書部一壺岐翠苑、

井関まき子、犬井雨葉、川端勇大、木原杏翠、木村佐枝子、塩島秋葉、

榛葉羽翔、妹尾和賀子、関本久美子、田畑多佳子、丹羽名甫、

堀江竹翠、松藤由美、宮本敏夫、諸井光雪、山田真由子、湯上紅蓮

◇佳作賞 一漢字部Ⅰ類一池田幸子、岡田青苑、鎌倉志存、島津泰心、
進藤隆泉、高須賀玉華、永井雄峰、仲神玉楼、永橋香峰、発知青藍、
松本桂玉、渡辺春虹 一漢字部Ⅱ類一岡田風翔、岡田昌子、奥谷 恵、
加藤由加里、亀山彩華、田村香雨、濱元加陽、藤井路子、古川心翠、
山下真波、吉田翠紅、和田白浪 一前衛書部一 青木紀子、赤堀恵美、
池田安澄、池田竹聲、篠崎稻華、井上秋子、今井嘉陽、今井春鈴、岩間弘子、遠藤泉
女、太田祥月、大平祥子、大森洋臣、沖田寿江、

小田厚美、川上真理子、川口絮風、健名文一、小林華逢、齊藤浩子、
坂井幸子、坂巻裕一、佐藤光邦、下村和音、清家寛大、田辺真寿実、
塚本江秋、常藤由紀子、戸田芭秀、西神光雲、温井和海、藤川智彦、
富士原百扇、宮原心法、森岡美香、山野清泉、横田雅丘、四辻尚苑

◇U23 新鋭賞 中川和也〈前衛書部〉

◇U23 奨励賞 山本珠己〈漢字Ⅰ類〉 小林 希〈前衛書部〉

9~8/3 第 66 回毎日書道展 企画展示 毎日書道・海外展のあゆみ 毎日書道・海
外展のあゆみ 一世界 37 都市での国際交流の軌跡一 併催 2013 パリ展 「SH02」
帰国展示 東京・六本木 国立新美術館 奎星会関係：相原雨雪、鈴木邦子、中西浩
暘、中原志軒、

堀 吉光、吉田青雲 一前期展一浦田篁苑、中原茅秋、丸尾鎌使、山本大廣 一後期
展一

11~21 第 31 回菱湖会書展、新潟・北区郷土博物館 小黑五稜、他

20 第 66 回 毎日書道展奎星会祝賀会 東京・港区 ザ・プリンスパークタワー東
京・コンベンションホール E

15~20 中国への書の研修視察団 第 5 回豊峯會書展 東京・銀座 大黒屋ギャラリ
一 奎星会出品者：菅野清峯、糸井 綾、
井上鳳園

22~26 第 28 回中国への書の研修視察団 第 1 回泰志之會 東京 アートサロン毎
日 奎星会出品者：石黒幸栄、渡邊玉朱

22~8/3 Ten-ten 2014 IN SAPPORO 書 Imagined 北海道
札幌コンチネンタルギャラリー（札幌国際芸術祭 2014 連携事業）
（出品者）#1 赤池艸裕、笠田邦園、鎌田恵山、川邊艸笛、

喜代吉鐵牛、榛葉壽鶴、外林道子、竹下青蘭、田中一瑤、原 雲涯、

東原吐雲、宮村 弦、八重柏冬雷 #2 石井抱旦、江草幽研、
遠藤泉女、佐伯孝子、塩崎 学、田岡楚香、高橋彰子、谷川ゆかり、友葭良一、中西
浩暘、中村紫泉、山本大廣、和田 彩

25~27 平成 26 年度 奎星会夏期書道研究大会 愛媛・奥道後壺湯の守

(日程及び講師団) 顧問: 稲村雲洞、菅野清峯、中原茅秋

7月25日(金) 漢字創作 講師: 貝原司研、堀 吉光、相原雨雪、
吉田青雲 臨書 薦季直表 講師: 中西浩暘、赤池艸裕、西村九十、
原 雲涯

7月26日(土) 臨書 「温泉銘」 講師: 中原志軒、東原吐雲、
石井抱旦、佐々木龍雲 前衛書 講師: 山本大廣、大六泉嶽、
丸尾鎌使

7月27日(日) 臨書 「王羲之尺牘」 講師: 貝原司研、天野碧邨、
浦田篁苑

都道府県別参加人数 北海道(1) 東京(6) 神奈川(11) 新潟(3) 富山(1)
福井(3) 静岡(5) 大阪(1) 兵庫(18) 島根(8) 岡山(2) 広島(25)
香川(22) 愛媛(65) 福岡(1) 熊本(1) 長崎(6) 合計...178名

30~8/3 第29回美のなかにふれあいがある 東京都障害者総合美術展 東京 西武
池袋本店7F 催事場特設会場 (審査員) 堀 吉光

8月

1~3 全日本書道連盟 第40回夏期書道大学講座 東京・池袋

サンシャインシティコンファレンスルーム 「ワールドインポートマートビル 5F」
講師: 中原茅秋 助講師: 天野碧邨、堀 吉光

6~10 第66回毎日書道展 関西展 京都 京都市美術館(第1会場) 日図デザイ
ン博物館(第2会場)

9~10 第49回奎星会おびひろ 夏期錬成会 北海道 音更町集団研修施設(帯広)
八重柏冬雷、他

13~17 第66回毎日書道展 四国展 愛媛 愛媛県美術館(松山)

13~17 第66回毎日書道展 北陸展 富山 富山県水墨美術館他

13~17 第2回幽研社書展 一四季を奏でる 一併催 江草幽研・

伊賀龍三郎二人展 兵庫・原田の森ギャラリー一東館1階・2階展示室 (神戸) 江
草幽研、他

20~24 煌彩会選抜前衛書展 一30の象(カタチ)一 兵庫 原田の森ギャラリー一
東館 佐伯孝子、他

21~26 第59回北海道奎星書道展 北海道・函館 テーオー小笠原6F イベントホー
ル 北海道奎星会員

26~31 第66回毎日書道展 東海展 愛知県美術ギャラリー(第1会場) 名古屋
市民ギャラリー栄(第2会場)

26~31 第66回毎日書道展 中国展 広島県立美術館県民ギャラリー

27~9/1 Friendship Exhibition 5人展 東京 渋谷積雲画廊 松本燁之

29~31 現代書の総合展 創立50周年記念 飛龍書道展 長崎 諫早文化会館 出

口恵山、原 雲涯、他

9月

4~28 特別展 上田桑鳩展 兵庫 三木市立堀光美術館 上田桑鳩 特別講演会
牛丸好一

6 奎星会役員選出委員会 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

7 奎星会4月常任理事会 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口

[議事]

第1号議案 奎星会10月理事会に関する件

第2号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第3号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第4号議案 奎星会企画委員会に関する件

第5号議案 第63回奎星展に関する件

第6号議案 奎星夏期書道研究大会に関する件

第7号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

第8号議案 (一財)毎日書道会・第66回毎日書道展に関する件

報告 全書蓮・第15回宇野雪村賞・毎日書道展奎星会祝賀会・事務局各部よりの件

5~7 現代書に魅せられ古希を迎える 石黒信明展 富山 射水市小杉文化ホール
ラポール

6~10 第4回メイプルメイツ展覧会 東京・品川区 0美術館

出品者:堀 吉光

10~20 第36回墨絵展 2014 「今日の墨表現」 東京・中央区 好文画廊 奎星
会関係:田岡楚香

12~17 第66回毎日書道展 東北仙台展 宮城 せんだいメディアテーク

13~23 第3回大一丸倶楽部書展 仙台展 「東北に元気な笑顔を一」 宮城・仙台
書ギャラリー親かめ子かめ

奎星会関係:丸尾鎌使、谷野成子、富依綾子

18~21 第38回玄倉社書展 神奈川 平塚市中央公民館市民ギャラリー 中原茅秋、
他

20~23 第22回玄書人会展 新潟 新潟県民会館3FギャラリーA 小黒五稜、他

23~28 第56回墨華書道展 香川 高松市美術館 小森秀雲、

東原吐雲、他

25~11/16 友葭良一展 [動的線条] series 福井・ギャラリーM 村井メガネ本
店2F

30~10/5 第21回硯友展 〈特別陳列〉 鄭道昭原拓 16巻(42種) 香川・高松
市美術館 小森秀雲、他

10月

1～5 第66回毎日書道展 北海道展 北海道 札幌市民ギャラリー

1～5 第66回毎日書道展 東北山形展 山形 山形美術館

3～5 第54回照心書展 ー創造の世界があるー 神奈川 厚木市文化会館 石井抱
旦、他

4～5 第65回五風書展 ー書の心を探求するー 島根・石中央文化ホール 森 須園、
喜代吉鐵牛、佐々木龍雲、他

7～13 牛丸好一書作展 「四神・四季・鳳・風」 京都・喜聞堂 余花庵

14～20 14 国際著名書芸家招待展 韓国・慶尚北道醴泉艸丁書芸研究院 堀 吉光、
他

14～19 第49回墨象会展 岡山・岡山県天神山文化プラザ第1展示室 白神順風、
他

17～19 飛雲会創立75周年記念 第68回飛雲展 併催 第1回飛雲学生書展 兵
庫・原田の森ギャラリー 菅野清峰、桑田耕石
飛雲会同人、準同人、他

25 奎星会 10 月常任理事会 東京 TKP 上野ビジネスセンター2F カンファレンス
2D 午後2時～3時

[議事]

第1号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第2号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第3号議案 奎星会事務局担当に関する件

第4号議案 第63回奎星展に関する件

第5号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

奎星会 10 月理事会 東京 TKP 上野ビジネスセンター2F カンファレンスホール 2A
午後3時～5時30分

[議事]

第1号議案 奎星会総会に関する件

1. 平成26年度会務報告承認の件並びに平成27年度事業計画について

2. 平成25年度決算報告・会計監査報告承認の件

3. 平成27年度会費決定について

4. 平成27年度新役員の選出並びに平成28年度議長団選出について

第2号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第3号議案 平成27年度会費に関する件

第4号議案 奎星会事務局担当に関する件

第5号議案 第63回奎星展に関する件

第6号議案 奎星会企画委員会に関する件

第7号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第8号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

第9号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第10号議案 第15回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

第11号議案 第66回毎日書道展・(一財)毎日書道会に関する件

第12号議案 事務局各部よりの件、他

報告：全書連・静岡出前講習会・現代女流書展・会員推挙 第66回毎日書道展奎星会
祝賀会、他

28～11/2 第38回MINI作品 書壇巨匠展 東京 銀座美術画廊

出品者：稲村雲洞、大楽華雪

30～11/4 第50回奎星会おびひろ書展 北海道 帯広市民ギャラリーA1/A2 八重
柏冬雷、他

30～11/6 第63回奎星展 特別陳列 「第15回宇野雪村賞展」 全国書道展 特別
賞受賞作品 東京・上野 東京都美術館

10月25日 搬入・整理 10月26日 役員作品審査・公募作品鑑査/審査 10月27
日 事務整理 10月29日 陳列 10月30日 開会

11月1日 総会・授賞式・懇親会 11月2日 佐々木龍雲と原雲涯によるギャラリ
ートーク&席上揮毫(午前11時～) 11月6日 閉会

入賞者：

〈役員の部〉

上田桑鳩記念賞 竹澤順子

宇野雪村記念賞 荒川泰石

同人特別賞 岩波小湖、岸本翼幸、下垣内裕子、塩田桜華、

大内 誠

高橋竹村記念賞 金原鷺峰

天野翠琴記念賞 藤原白鷺

清田岱石記念賞 岩本光南

弦巻松蔭記念賞 岡本陽子

上松杜暘記念賞 小阪節子

中原一耀記念賞 石井美峯

無鑑査特別賞 石戸谷青悠、井上和江、横山芳琴、竹内華抄、

菅原美由紀、大楽悠雪、斉藤浩子、井原進一

〈公募の部〉

毎日新聞社賞 A部・白石弥生 B部・富士原百扇 C部・白井加織 D部・簡 康恵

[奎星賞A部] 大橋麻弥、横田真理子、仲手川幸沙、廣瀬一花、

田中美智子、大石幸徑、寺畑 瞳、常藤由紀子、吉松瑶月

奎星賞B部 金子圭琇、山田圭華、高丸恵水、岡田昌子、蔭山美紅

奎星賞C部 永丘浩一

奎星賞D部 山田美鈴

特選A部 大高絵里、高橋柳泉、古月真奈美、前橋秀子、中原一樹、
堀内 肇 露木 陽、村川紅雲、森田圭瑠、今井春鈴、岸名真知子、窪田信子、山下
恭代、上木淳吉、植村晶子、富依綾子、廣狩礼花、増田奈々子、都野守和美、田中櫻
丘、駕屋溪泉、片山瑠美

特選B部 飯尾瑞松、越智由紅、勝正紫蘭、菅 輝子、村越千寿穂、
和田白浪、奥谷 恵、簡 康恵、迫田康子、竹下京仙、渡 綾子、
漆原義典、井川華翠、岡田玉鈴

特選C部 田村奈津子、園部麗子、城 由布子、緒方小帆

特選D部 木原杏翠、佐藤由身子、石川弾久、玉井恵心、野上葵仙

準特選A部 岩間弘子、加藤理恵、上迫 正、北田 歩、桑原美樹、
小室聡美、佐々木義徳、高橋真奈美、剣持翔伍、内田紫水、
角屋魁周、小泉 翠、関山華香、鳥沢晴康、長島 舞、今井扇水、
川辺素香、北島 彩、渡辺碧鳳、神山和子、中西亮子、五十嵐百合、高見山光、田野
島孝江、戸津川貴子、中田貞代、井上咲香、太田紅嶺、佐藤光邦、高橋光恵、佐藤由
紀代、島尾西峯

準特選B部 奥村紫陽、近江理音、山下翠圃、犬井雨葉、大崎千華、永橋香峰、服部
艸香、保坂千光、富田一象、豊田香澄、中西遥舟、長谷川祥子、福万俊江、坊河内寿
恵、加地美智子、佐藤仁美、

末包恵理、鈴木法華、森 美汀

準特選C部 堤 公宏、小島伯舟、稲角由美子、石谷美智代、
泉 雅子、土井汀扇

準特選D部 小野照子、森岡美香、岩村珠希、森永吉穂、
園田ちずる、麻岡実知子、筒井将隆、川口雅笙

褒賞A部 山根千佳、神津紫苑、土屋睦泉、中村真子、喜代鏡子、田中芳佳、村上 香、
逸見洋子、竹久清蘭、藤川純代、塚本江秋

褒賞B部 小杉風華、杉下華円、高島霽龍、山崎扶美枝、岡本大樹

褒賞C部 笠谷純子、香坂照葉、江上景紅

褒賞D部 大友いづみ、林伽奈栄、松原美枝

特別賞E部 鈴木達也、田中智子

11月

1 平成26年度 奎星会総会 東京 上野精養軒「桜の間」 午前11時～12時 開
会、会長挨拶

[議事]

第1号議案 平成26年度会務報告承認の件並びに平成27年度事業計画について

第2号議案 平成25年度各部収支決算報告・監査報告承認の件

代表会計 事務局会計 展覧会部会計 会計監査報告

第3号議案 平成27年度会費決定について

第4号議案 平成27年度新役員選出の件

その他 新旧役員挨拶

閉会

2～H27.2/1 書壇院ギャラリー第95回展（企画展示） 貫名菘翁展 東京・虎の門

書壇院ギャラリー ギャラリートーク：赤池艸裕

平成27年1月11日午前11時～

5～9 BRUSH ART SHOW '14 第8回公募 書のアート展 愛知県美術館ギャラリー

内部審査員：大楽華雪

7～9 第19回梅花書展 神奈川 小田原市民会館 山口昌村、他

8～10 第8回壘土舎展 新進作家が書の美を求めて集う 大阪 大阪産業創造館〈3Fマーケットプラザ〉 川邊艸笛、谷川ゆかり

12～19 第15回「宇野雪村賞」全国書道展記念展 兵庫 浜坂先人記念館以命亭ホール

歴代審査員寄贈作品及び第1回～第14回宇野雪村賞受賞作品を展示

歴代審査員展出品者 稲村雲洞、岸本太郎、大楽華雪、菅野清峯、

中原茅秋、小黑五稜、田村空谷、貝原司研、堀 吉光、中原志軒

第15回 「宇野雪村賞」 全国書道展入賞作品展

〔第一期〕 11月16日のみ 兵庫・浜坂多目的集会施設 2階ホール

〔第二期〕 11月22日～26日 兵庫・浜坂先人記念館以命亭ホール

受賞者・一般の部：

宇野雪村賞・文部科学大臣賞 村上美香

奎星賞 佐野成風、片山好美、佐藤如園

兵庫県教育長賞 中尾弘子、西村紀水、香坂照葉

新温泉町長賞 上木淳吉、笛木澄紅、小野照子

新温泉町教育長賞 犬井雨葉、藤井慶子、増田奈々子

新温泉町議会議長賞 長嶋毬果、壺岐翠苑、玉村廣子

奎星会会長賞 山谷星光、奥谷 恵、増田知子

特選 大高絵里、堀内 肇、富田美穂子、萩原 緑、塩島秋葉、

鈴木彩秋、渡辺亜希、五十嵐紀美、渡辺春林、豊田香澄、椿 直子、岩村珠希、柳生

豊子、片山恵草、橋本安希子、前田昭子、奥崎真弓、鍵政美恵、恵美純子、妹尾和賀

子、上田 守、島本郁子、松岡美幸、平田小百合、長谷川千依乃、古賀野恵水、藤原

鳴鳳、十亀厚風、

平江重徳

受賞者 学生の部：

奎星賞 浜脇駿奈、中村友香、加藤百香

新温泉町長賞 前中知夏、迫田桃華、吉馴彩弥香

新温泉町教育長賞 高橋龍生、拜野智香、東 采紋、坂井萌愛、
西島悠夏

特選 東城佑樹、浅川和人、神田紗季、深野かおり、水本 輝、
曾根優里、長田敦樹、丸岡裕加、山本菜摘、宮本愛美、高橋奈緒子、田村彩音、羽瀧
舞衣、村上彩乃、池内知也、大角伸光、松田祐人、田路春乃、本間崇之、嶋崎沙椰、
中村帆澄、藤井 基、高谷有紀、

河野芳光、宗行理奈、宮浦実里、安東梨紗子、久保田由美、中山彩夏、片山穂乃香、
山田明香、佐田野倫、高木菜帆、藤木理帆 藤井麻由、畝本千優梨、吉見直輝、渡辺
梨奈、吉本佳世、野澤 拓、西山明里

13～16 第40回記念 熱き思いを現代書に… 墨盈會書作展

広島・ふくやま書道美術館 市民ギャラリー 相原雨雪、他

作品解説 11月13日(木) 午前11時～

席上揮毫 11月15日(土) 午前11時～

14～16 第1回漕友会書展 新潟 新発田市民ギャラリー

伊集院草香、犬井雨葉、遠藤玲泉、坂井柳泉、高橋華洲、永井素香

14～16 耳順+1 富山奎星書作展 富山 砺波市美術館 2F市民ギャラリー 石井
駿、他

22～24 第12回墨翠會書道展 広島 府中/日本の旬処 「さかえろう」 山田翠香、
他 賛助出品：大楽華雪

29～30 第37回書と華 富山 福野文化創造センター 松本燦之

12月

2～7 第66回毎日書道展 九州展 福岡市美術館

5～12 輝く日本の現代書 リヤド展 サウジアラビア 国立 ART AND SKILIS IN
STTUTE 奎星会出品者：中原志軒、堀 吉光、丸尾鎌使

11 (一財)毎日書道会理事会 東京 一ツ橋如水会館

第67回毎日書道展主要役員決定 奎星会関係：[運営委員] (前衛書部) 榛葉壽鶴、
原田心龍、山本大廣 [各展実行委員] 中国展実行委員長 西村九十 [規定によ
る会員への昇格] (漢字部)

井上鳳園、磯部紅月、奥島玉琇、川口雅笙、古川心翠、渡辺春紅

(前衛書部) 川端勇大、塩島秋葉、嶋 江笛 志村文浩、田辺真寿実

12～14 書作グループ 「會」 KAI 現代書展 学生選抜書展併設

広島 呉市立美術館 福島佐苑、他

12~26 朴翠社、六人書展、百福迎祥、干支展 広島 みやじま 「紅葉の賀」 ギャラリー 北谷翠峰、栗原桜水、田原春夕、堀近宏子、松岡春聲、西村粋香

16~21 第26回一華会展 [特別陳列] 龍門等小造像の原拓 [併設臨書展] 北魏諸碑を書く [併設展] 大楽華雪の小品 「書を楽しむ・野の花」 [併設展] 楽竹の会書展 広島 ふくやま美術館企画展示室 大楽華雪、他 作品・特陳解説 12月16日午前10時~ 席上揮毫 12月20日午前10時~

27~1/10 西武 I・C・C 現代書グループ展 東京 銀座プロムナード・ギャラリー 出品者：小宮真美、他

・東京画廊+BTAP II ミクロサロン2014 現代美術による商品展

奎星会関係出品者：外林道子

1月

4 2015年 新春ウルトラ書きぞめ会 広島・基町クレドふれあい広場 北谷翠峰、栗原桜水、田原春夕

4~16 TOKYO 書 2015 公募団体の今 東京・上野/都美術館 奎星会関係出品者：川邊艸笛、千葉幽篁 アーティストトーク、川邊艸笛、(1月12日午後2時50分~3時10分)

5 奎星会1月常任理事会 東京・中央区 貸会議室・プラザ八重洲北口 [議事]

第1号議案 奎星会新正会員・推挙会員・昇格会員に関する件

第2号議案 第63回・64回奎星展に関する件

第3号議案 奎星夏期書道研究大会に関する件

第4号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

第5号議案 (一財) 毎日書道会・第67回毎日書道展に関する件

第6号議案 事務局各部よりの件

報告：現代の書新春展・毎日チャリティー書展・毎日現代女流展 他

5~10 墨盈会迎春展・干支(未・羊)を書く 広島 NHK ギャラリーふくやま 相原兩雪、他

5~11 2015年-今いきづく墨の華-「現代の書 新春展」 東京 銀座 和光/セントラルミュージアム銀座 ◇和光展出品者：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯、中原志軒、堀吉光 ◇セントラルミュージアム銀座展出品者：天野碧邨、小野恵子、北谷翠峰、

佐伯孝子、成田誠一、丸尾鎌使、八重柏冬雷 ※席上揮毫 1/7 北谷翠峰 1/8 佐伯孝子

6~11 第31回丑歳生まれの書作家による 雅涎会書展 東京 銀座画廊美術館 奎星会関係出品者：中原志軒

6~12 第47回玄穹書道会展 テーマ 干支文字[未・羊]による人間表現 広島 ふくやま美術館ギャラリー 伊豆田雪岳、他

6~21 第34回世田谷の書展 東京 世田谷区文学館 奎星会関係出品者:稲村雲洞、丸尾鎌使

8~2/8 藤枝の前衛書家 櫻井琴風回顧展 静岡 藤枝市郷土博物館・文学館

8~11 第44回玄同社展 東京 新宿ヒルトピア アートスクエア 出品者:稲村雲洞、堀 吉光、天野碧邨、他

10~11 墨艸 '15展 大阪 高槻市現代劇場文化ホール 2F
川邊艸笛、他

13~18 書壇受賞に輝く作家展 東京 セントラルミュージアム銀座 奎星会関係出品者:栗原桜水、古小高遥泉、小椋紫仙、脇 壽子

13~23 未歳干支文字切手揮毫作家展 東京 アートサロン毎日
出品者:中原志軒

15~20 第30回記念 毎日現代書関西代表作家展 大阪 あべのハルカス近鉄本店ウイング館8階 「近鉄アート館」
奎星会関係:菅野清峯、中原志軒、堀 吉光、他

16~18 第62回福井奎星展 会員・公募展 福井県立美術館
千葉半匡、山本大広、他

16~21 泉会展 東京・銀座 竹川画廊 中村碧水、他

21~25 第39回書界展 愛媛 愛媛県立美術館南館 吉田青雲、藤岡抱玉他

23~25 書勢会展 福井 福井県立美術館 第2展示室・ギャラリー 本多敬子、林一昭、他

23~25 書の現代 本多利雄展 大震災を憶う 兵庫 県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー東館1, 2階

25~2/12 015 えとの現代書[ひつじ]展 羊をめぐる… 福井 鯖江市まなべの館 山本大廣、友蔭良一、竹澤順子、他

28~2/2 第46回現代女流書100人展 東京 日本橋高島屋8階ホール 奎星会関係出品者:〈漢字部〉外林道子、武田綾苑 〈前 衛書部〉平野翠甫、清川芭紅、鈴木邦子、谷野成子、林 幽桂、
前田敦子、松本燁之、三宅華邦 〈新進作家展〉濱田宙子

29~2/1 「読めない書と読める書と」 琴風会展 静岡 藤枝市文化センター 大小ホール 榛葉壽鶴、他

31~4/2 前田敦子書展 兵庫 神戸 タウンギャラリー

2月

2~3 第67回毎日書道展運営委員会 東京 一ツ橋 如水会館
会員賞選考委員:〈理事〉中原志軒、堀 吉光 〈漢字部〉岡本正志

〈前衛書部〉榛葉壽鶴、原田心龍、山本大廣

運営委員：榛葉壽鶴、原田心龍、山本大廣

運営小委員：山本大廣

本年度当番審査員：〈漢字Ⅰ類〉藤岡抱玉 〈漢字Ⅱ類〉貝原司研、島田啓敬、成田誠

一 〈前衛書部〉石井 駿、石井抱旦、鎌田恵山、北谷翠峰、喜代吉鐵牛、小林信恵、

大六泉嶽、谷野成子、中西浩暘、

原 雲涯、三宅華邦、八重柏冬雷

各展実行委員長：〈中国〉西村九十

総務部 総務部長補佐：丸尾鎌使

前衛書部副部長：金竹秋苑

審査部 前衛書部副部長：石井 駿

審査部委員：漢字部Ⅰ類：(5月)佐藤奎玉、新居田玉濤(6月)森田華舟、

吉田青雲 漢字部Ⅱ類：(通期)相原雨雪 (5月)江草幽研、木下彰司

(6月)岡本正志、戸津川政世 前衛書部：近藤幸成 (5月)小野恵子、

清川芭紅、竹下青蘭、林 幽桂、前田敦子、松本燐之 (6月)佐伯孝子、

榛葉壽鶴、鈴木邦子、天満雨丘、中尾瑤香、前澤秋虹

陳列部 前衛書部副部長：天野碧邨

14~15 奎星会静岡地区 毎日書道展出品作品(漢字・前衛)研究会 静岡 川根温
泉 講師：貝原司研、相原雨雪、山本大廣、

堀 吉光 [2月14日] 日程：講師揮毫・毎日展作品添削・作品制作

[2月15日] 日程 作品制作・作品批評会

14~15 北海道奎星春季錬成会 北海道 音更町集団研修施設 八重柏冬雷、他

18~23 第3階 とき 刻 アート10 富山 福野文化創造センター 松本燐之、他

19~25 第22回神奈川県代表作家展 神奈川・横浜 ギャラリー守玄齋 ゴールデ
ンギャラリー 石井抱旦、中原茅秋、他

20~22 第2回奎星会若手育成研修会 京都 京の宿「洛兆」

講師：貝原司研、相原雨雪、吉田青雲、堀 吉光、東原吐雲

助講師：天野碧邨

参加者：同人会員 高 北颯(東京)、田鹿碩峰(神奈川)、横山千恵美(福井)、戸津
川政世(島根)、松本昂星(岡山)、瀬尾良乃(広島)、

国竹雨杏(広島)、栗原桜水(広島)、脇 寿子(広島)、田原春夕(広島)、

深田俊克(広島)、森原鴻楊(広島)、塩田桜華(香川)、岡崎貴代(香川)、

重松竹邦(愛媛)、河野隆志(愛媛)、堀 廬山(長崎)

無監査会員：木村照園(北海道)、石井 仁(富山)、竹内華抄(福井)、

橋本安希子(京都)、久谷敦子(兵庫)、小林美香(兵庫)、

菅原美由紀（兵庫）、北岡瑞桐（兵庫）、中尾弘子（島根）、小林安耶（広島）、谷川美仙（愛媛）、荒木泰山（長崎）

「講座内容」 2月20日（金） 前衛書（理論と実技、課題作品持参） 臨書（楷書）・龍門石窟小品造像記

講義（奎星会の歴史・桑鳩・雪村の理念Ⅱ） 2月21日（土） 漢字創作（少字数～多字数、課題作品持参） 拓本鑑賞・解説（漢碑を中心・隸書拓本） 古典臨書（張遷碑）

条幅隸書創作 2月22日（日） 尺牘（巻紙、課題尺牘持参） パネルディスカッション（奎星会に望むこと）

28～3/4 第29期障害者のカルチャースクール作品展 「遊～夢」

東京 エコギャラリー「新宿」 堀 吉光

3月

2～15 第3回東日本大震災復興支援文化展 連

17～29 兵庫 姫路ギャラリー ルネッサンス・スクエア 北岡瑞桐、他

2～28 2015年毎日書道展新会員作家展 東京・千代田区 アートサロン毎日 井上鳳園、他

4～8 象展（ひらく） 20th Anniversary 愛媛県立美術館南館1階 鎌田恵山、他

11～16 第8回豊島区障害者美術展 「ときめき想造展」 東京 豊島区民センター1階総合展示場 審査員：堀 吉光

12 全日本書道連盟第156回理事会 東京 上野精養軒

[議事]

1. 書者・書道教育推進協議会 これまでの報告ならびに今後の活動予定について
2. 「仮名書道」ユネスコ無形文化財登録推進委員会（仮称）への協力について
3. 平成26年度書道講演会の報告（昨年11月）
4. 平成26年度助け合い募金の報告
5. 平成27年度収支予算案について
6. 任期満了に伴う役員改選（6/5平成27年度総会議決事項） 理事会案作成のための選考委員選出
7. 成27年度書写書道教育講演会について（6月開催予定）
8. 成27年度夏期書道大学講座について（8月開催予定）
9. 高野山開設1200年記念 献書事業について
10. その他
- 15 障害者のカルチャースクール公開交流会 東京・港区 東京都障害者福祉会館 講師：堀 吉光
- 20～22 第33回朴翠社書道展 広島 ぎやらりいNEWくわもと5F 賛助出品：福島佐苑 北谷翠峰、他

26～29 中村瑤光と仲間たちの書作品展 兵庫 兵庫県民アートギャラリー 兵庫県民会館／1階特別展示室

26～29 第9回かながわ書道まつり 神奈川・横浜 ランドマークプラザ 中原茅秋、田村空谷、石井抱旦、他

2015年（平成27年度）

4月

3/6～5/16 牛丸好一書作展 兵庫 兵庫県公館県政資料館
兵庫の文化展示室（展示室7）

1～12 桃太郎の仕事 大谷君、俺も二刀流 東京・日本橋 ちばぎんひまわりギャラリー 薙平桃太郎

5 奎星会おびひろ 平成27年度総会・毎日展研修会 北海道・帯広 柏葉高等学校
八重柏冬雷、他

5 奎星会企画委員会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口3F 出席者：中西浩暘、東原吐雲、天野碧邨、安藤園美、田岡楚香、丸尾鎌使（オブザーバー）、堀吉光

5 奎星会4月常任理事会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口3F

[議事]

第1号議案 奎星会5月常任理事会・6月理事会に関する件

第2号議案 奎星会特別役員会に関する件

第3号議案 奎星会企画委員会に関する件

第4号議案 第64回奎星展に関する件

第5号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第6号議案 奎星会若手育成研修会に関する件

第7号議案 平成26年度決算・27年度予算委員会に関する件

第8号議案 （一財）毎日書道会・第67回毎日書道展に関する件

[報告] 全書連・事務局各部よりの件

6 奎星会特別役員会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口3F 出席者：貝原司研、相原雨雪、外林道子、中原志軒、吉田青雲、山本大廣、堀吉光、中西浩暘

[議案]

1. 創立75周年記念事業に関する件、第65回記念奎星展について、祝賀会について、功労者表彰について、記念作品集・出版物について、記念事業協賛費について

2. 奎星会運営機構の再検討

3. 特別対策部について

16～2 八重柏冬雷 Sho art 獨り展 今の書 これからの書 北海道・帯広 勝毎サロン

5月

3～5 上田桑鳩展 兵庫 三田市方廣寺（愛称:桑鳩寺）

11～13 第67回毎日書道展 作品搬入 東京 毎日新聞社毎日ホール

14 全日本書道連盟第157回理事会 東京 上野精養軒

[議事]

1. 書写・書道教育協議会推進への協力
2. 日本書道ユネスコ登録推進協議会への協力について
3. 平成26年度助けあい募金の報告
4. 平成26年度事業報告ならびに財務諸表の報告
5. 会費規定（年会費額）の変更について
6. 任期満了に伴う役員（理事・監事）改選について
7. 平成27年度総会の進行について
8. 平成27年度夏期書道大学講座について
9. 助成申請について
10. 高野山開創1200年記念献書事業
11. その他（新役員委嘱と新入会について）

14～17 第52回新生書現代総合書展 広島 広島県民文化センター地下第1、2、3展示室 貝原司研、他

20～24 第41回茅花展特別企画「OH my! Clock」「集合するものたち」 神奈川 茅ヶ崎市民文化会館 石井抱旦、他

22～24 第67回毎日書道展鑑査 東京・六本木 国立新美術館

6月

2～7 企画5—白と黒展—狼、涙、忌 兵庫・西宮 アトリエ西宮 奎星会関係出品者：牛丸好一、友蔭良一、本多利雄、山本大廣

4 全日本書道連盟 平成27年度総会 東京 上野精養軒 桐の間

[議題]

・平成26年度事業報告並びに決算の承認・役員報酬並びに費用に関する規定の変更について・会費規定（年会費額）の変更について・任期満了に伴う役員（理事・監事）改選について・その他

[平成27年度書写書道教育講演会] 演題：「学習環境としての軟筆」 講師：東京学芸大学講師 細川太輔先生 東京学芸大学附属小金井小学校教諭 算理沙子先生

6～7/5 没後20年「弦巻松蔭展Ⅰ」—模索と創作の軌跡— 新潟・新発田 新潟市北区郷土博物館

12～14 第44回書の古典と現代 青奎展 青森市民美術展示館2階 石橋青紅、他

17～21 第53回燧洋會書展 愛媛 今治市河野美術館

友近吾邑、他

20～28 「絵画—継続する実践」展 石川 金沢市民芸術村

奎星会関係出品者：山本大廣、友葎良一、志村文浩

20～7/19 日米美術交流展 Works on Paper 2015 石川・金沢湯涌、創作の森、版画工房ギャラリー1・2

奎星会関係出品者：山本大廣、石井抱旦、友葎良一、志村文浩

25 奎星会 5月常任理事会 東京・赤坂 マロウドイン赤坂

[議事]

第1号議案 平成26年度収支決算報告の件 1. 奎星会会計

2. 奎星会事務局会計 3. 奎星展会計 4. 会計監査報告

第2号議案 奎星会特別役員会に関する件

第3号議案 奎星会企画委員会に関する件

第4号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

25 奎星会 6月理事会 東京・赤坂 マロウドイン赤坂

[議事]

第1号議案 平成26年度収支決算報告の件 1. 奎星会会計

2. 奎星会事務局会計 3. 奎星展会計 4. 会計監査報告

第2号議案 奎星会特別役員会に関する件

第3号議案 奎星会企画委員会に関する件

第4号議案 第64回奎星展に関する件

第5号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第6号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第7号議案 (一財) 毎日書道会・第67回毎日書道展に関する件

第8号議案 第16回 「宇野雪村賞」 全国書道展に関する件

[報告]

全書連・事務局各部よりの件

26～28 第67回毎日書道展 審査 東京・六本木 国立新美術館

7月

1 第67回毎日書道展会員賞選考日 東京・六本木 国立新美術館

8～12 第38回愛媛女流書家連盟展 愛媛・松山 愛媛県美術館南館1・2階 藤岡抱玉、他

8～8/2 第67回毎日書道展東京展 東京・六本木 国立新美術館

前期展Ⅰ期 (かな・近代詩・前衛) 7月8日(水)～7月13日(月)

前期展Ⅱ期 (かな・近代詩・前衛) 7月15日(水)～7月20日(月・祝)

後期展Ⅰ期 (漢字・大字・篆刻・刻字) 7月22日(水)～7月27日(月)

後期展Ⅱ期 (漢字・大字・篆刻・刻字) 7月29日(水)～8月2日(日)

東京(上野) ・東京都美術館 通期)・・・7/16(木)～7/23(木)

第 67 回毎日書道展受賞者

◇漢字部会員賞 松永馨山

◇前衛書部会員賞 友葭良一、松本昂星

◇漢字部毎日賞 一Ⅰ類一石橋壯心、澤井玉楊、矢野玉雪

一Ⅱ類一竹内小夜、濱元加陽、四辻尚苑

◇前衛書部毎日賞 池田可葉、井上由美子、大森洋臣、片山恵草、

佐藤光邦、中井梓翠、堀江竹翠、村吉青龍

◇漢字部秀作賞 一Ⅰ類一岡崎華鳳、河端玲子、木場翠香、齋藤桂夏、

友近吾鳳、仲神玉楼、山本清香 一Ⅱ類一秋長美帆、高丸恵水、

長尾翠香、中野未砂子、二宮 盛、宮原心法

◇前衛書部秀作賞 穴田尚子、飯野篁秋、石井神華、石黒幸栄、

尾崎和子、梶岡美和子、喜代吉鏡子、谷川美仙、椿 直子、土井汀扇、

中尾弘子、野村千恵子、林 高大、久谷敦子、真鍋草香、山下恭代、

山谷星光、横田雅岡

◇漢字部佳作賞 一Ⅰ類一石田景雲、鷓久森彩風、大崎千華、

岡田玉鈴、國貞静虹、高須賀玉華、高津恵舟、新山菁苑、日野紅雪、

渡辺春林、渡部玉萌 一Ⅱ類一壺岐翠苑、今村秀範、浦野蒼峰、

岡田昌子、片山好美、簡 康恵、神田亜貴江、神保明美、田中藤子、

谷本法子、田村香雨、林 淑香、森根紫穂、山崎扶美枝

◇前衛書部佳作賞 青木紀子、温井和海、中川佳風、有留有芯、

池田竹葉、今井春鈴、岩本光雄、岩谷桂雪、大平祥子、奥谷 恵、

河井英子、川上真理子、川口絮風、北出喜代子、木村佐枝子、

木村照園、小宮真美、斉藤浩子、佐伯佐恵、坂井幸子、坂下昌苑、

神保春鍾、関本久美子、高橋彰子、竹下京仙、田中溪泉、富永初恵、

長家直子、橋本安希子、深田俊克、藤岡望雲、藤川智彦、本田英之、

松本華苑、森岡美香、諸井光雪

◇漢字部 U23 奨励賞 尾崎ことみ

◇前衛書部 U23 毎日賞 茂田 翔

8~8/2 第 67 回毎日書道展企画展示 書の用具・用材を知る「筆・墨・紙・硯」一毎

日展作家が引出すその魅力一 東京・六本木 国立新美術館 奎星会関係出品者：毎

日書道会理事：中原志軒、堀 吉光

ギャラリートーク：中原志軒 7月23日・30日・31日 堀 吉光 7月18日

11 書の芸術祭 兵庫・神戸 東灘区センター 前田敦子、他

19 第 67 回毎日書道展表彰式 奎星会第 67 回毎日書道展受賞者祝賀会 東京・港区

ザ・プリンスパークタワー東京

19~20 中国へ書の研修視察団 第 6 回豊峯會書展 東京 Gallery 蔵

御茶ノ水ソラシティ 奎星会関係出品者：菅野清峯、糸井 綾、
井上鳳園

20 中国へ書の研修視察団 大一丸倶楽部創立5周年記念祝賀会 東京 上野精養軒
奎星会関係出席者：(来賓) 中原志軒 (副団長) 丸尾鎌使 (団員) 谷野成子、富依
綾子

24～26 平成27年度奎星会夏期書道研究大会 愛媛・松山 奥道後壺湯の守

[顧問] 稲村雲洞、菅野清峯、大楽華雪

[講座] 「皇甫誕碑」 講師：貝原司研、中原志軒、吉田青雲、
佐々木龍雲 「風信帖」 講師：中西浩暘、赤池艸裕、石井抱旦、

天野碧邨、漢字創作 講師：貝原司研、堀 吉光、相原雨雪、

吉田青雲 前衛書創作(第16回宇野雪村賞全国書道展作品)

講師：山本大廣、東原吐雲、原 雲涯、丸尾鎌使 「書譜」 講師：

中原志軒、堀 吉光、西村九十

31～8/2 第41回全日本書道連盟夏期書道大学講座 東京・池袋 サンシャインコン
ファレンスルーム

8月

5～9 第67回毎日書道展関西展 京都市美術館本館(第1会場) 日図デザイン博
物館(第2会場) 京都市美術館別館(第3会場)

6～10 第30回東京都障害者総合美術展—美のなかにふれあいがある— 東京・池袋)
西武池袋本店7階(南) 催事場特設会場 審査員：堀 吉光

3～23 日中韓光州書道交流展 山本大廣、石井抱旦、友葭良一、竹澤順子、国立アジ
ア文化殿堂(韓国光州市)招待出品

12～16 第67回毎日書道展四国展 愛媛・松山 愛媛県美術館

17～25 2015 七夕の祈り 乙女の夢—国際婦女書法作品展 中国・北京 民族文化
宮 奎星会関係出品者：外林道子

20～25 第60回北海道奎星書道展 北海道・函館 テーオー小笠原6F イベントホー
ル

[特別陳列] □奎星会創設者 故上田桑鳩 第二代会長 故宇野雪村

最高顧問 稲村雲洞 北海道奎星会初代会長 故春日浩洞 元顧問 故富原唐蘊
故 三上春雲

23～27 第67回毎日書道展 北陸展 富山県民会館

25～30 第67回毎日書道展東海展 愛知県美術館ギャラリー

25～30 第67回毎日書道展中国展 広島県立美術館県民ギャラリー

28～30 現代の総合展 第51回飛龍書道展 長崎 諫早市美術・歴史館、出口恵山、
原 雲涯 他

9月

- 4～6 第55回照心書展 神奈川・厚木市文化会館 石井抱旦、他
- 4～6 濱田宙子「折々の書」展 兵庫・神戸 兵庫県民会館1階特別陳列室
- 7～10 第30回記念「遊～夢」パラアートスクール作品展 東京 豊島区新庁舎1F センタースクエア 賛助出品：堀 吉光
- 11～13 第14回十來書道会展 広島 県民文化センター地下第2展示室 西村九十、他
- 12 奎星会特別役員会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口3F 出席者：貝原司研、相原雨雪、外林道子、中原志軒、吉田青雲、山本大廣、堀 吉光、中西浩暘
- 12 奎星会役員選出委員会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口3F 出席者：貝原司研、相原雨雪、中原志軒、堀 吉光、中西浩暘
- 13 奎星会おびひろ 第64回奎星展研修会 北海道 帯広柏葉高等学校書道室 八重柏冬雷、他
- 13 奎星会企画委員会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口3F 出席者：中西浩暘、東原吐雲、石井抱旦、天野碧邨、安藤園美、田岡楚香、丸尾鎌使 オブザーバー：堀 吉光
- 13 奎星会9月常任理事会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口3F

[議事]

- 第1号議案 奎星会10月理事会に関する件
- 第2号議案 奎星会役員選出委員会に関する件
- 第3号議案 奎星会創立記念事業に関する件
- 第4号議案 奎星会企画委員会に関する件
- 第5号議案 第64回奎星展に関する件
- 第6号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件
- 第7号議案 奎星会毎日展対策研究会に関する件
- 第8号議案 (一財)毎日書道会・第67回毎日書道展に関する件
- 報告：全書連・事務局各部よりの件

- 17 全日本書道連盟理事会 東京 上野精養軒3階桐の間

[議題]

1. 書写・書道教育推進協議会への協力について
2. 日本書道ユネスコ登録推進協議会への協力について
3. 常務理事会(8/11)の報告・会員増のための方策・連盟会員のメリット・支出の見直しについて 報酬の支給方法、職員の雇用等・年会費について・役員構成機関(理事・監事の職務担当)
4. 平成27年度夏期書道大学講座の報告

5. 平成 27 年度書道講演会について（11 月予定）
6. 平成 27 年度助け合い募金について（10 月～12 月）
7. 助成申請について
8. 高野山開創 1200 年記念献書事業について
9. その他（新役員委嘱について、新入会の報告 等）
- 17～20 第 39 回玄倉社書展 神奈川 平塚市中央公民館 市民ギャラリー 中原茅
秋 他
- 18～23 第 67 回毎日書道展東北仙台展 宮城・せんだいメディアテーク
- 22～26 SHO—楽しむ書展— 富山・南砺市 市の里ギャラリー 1 号館 松本燁之、
他
- 22～27 〈書の前衛〉奎星会 2015 札幌展 北海道・札幌 コンチネンタルギャラリー
— 竹下青蘭、他
- 22～27 2015「巳歳の会」書展 東京 東京銀座画廊・美術館（7 階）
奎星会関係出品者：菅野清峯、中野浦子、藤岡抱玉、清川芭紅、
丸尾鎌使
- 22～27 古稀書道展 熊本 八代市立美術館・未来の森ミュージアム 平江重徳
- 23～27 第 67 回毎日書道展北海道展 北海道 札幌市民ギャラリー
- 24 （一財）毎日書道会理事小委員会 東京 如水会館 奎星会関係出席者：中原志
軒、堀 吉光

[議題]

1. 第 3 回目となるフランス・ギメ美術館の件
2. 2016 「現代の書 新春展」
3. 2016 毎日チャリティー書展
4. 第 70 回記念毎日書道展の件
5. 第 68 回毎日書道展特別展示の件
6. その他（第 69 回毎日書道展の件、東京国立博物館の件）
- 25～27 相原雨雪小品書展 広島・福山 割烹「大吉」 9 月 25 日 11 時～ 作品解
説
- 26～27 第 66 回五風書展—書の心を探求する— 島根 石中央文化ホール 喜代吉織
牛、他 9 月 27 日 11 時～ 席上揮毫
- 30～10/4 第 67 回毎日書道展東北山形展 山形美術館
- 10 月
- 1～4 第 23 回玄書人会展 新潟県民会館 3F ギャラリーA 小黒五稜、他
- 15～11/13 第 11 回西村九十ロビー書展 広島 ホテルグランヴィア広島 ロビー
- 16～18 現代の書総合展 第 69 回飛雲展 第 2 回飛雲学生書展

兵庫・神戸 原田の森ギャラリー 菅野清峯、中西浩暘、他

25 奎星会 10月常任理事会 東京・上野 パークサイドホテル

[議事]

第1号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第2号議案 第64回奎星展に関する件

第3号議案 (一財) 毎日書道会・第67回毎日書道展に関する件

[報告] 全書連・事務局各部よりの件

25 奎星会 10月理事会 東京・上野 パークサイドホテル

[議事]

第1号議案 奎星会総会に関する件

1. 平成27年度 会務報告承認の件、並びに平成28年度事業計画について

2. 平成26年度 決算報告・会計監査報告承認の件

3. 平成28年度 会費決定について

4. 平成28年度 新役員の選出並びに平成29年度議長団選出について

第2号議案 奎星会役員選出委員会に関する件

第3号議案 奎星会創立記念事業に関する件

第4号議案 平成28年度会費に関する件

第5号議案 第64回奎星展に関する件

第6号議案 奎星会企画委員会に関する件

第7号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第8号議案 奎星会毎日展対策研究会に関する件

第9号議案 第16・17回「宇野雪村賞」全国書道展に関する件

第10号議案 第67回毎日書道展・(一財) 毎日書道会に関する件

第11号議案 事務局各部よりの件

報告：全書連・第67回毎日書道展奎星会祝賀会・他

27～11/1 第39回MINI作品 書壇巨匠展 東京 銀座画廊美術館 奎星会関係出品

者：稲村雲洞、大楽華雪

28～11/1 第46回玄武書道展 東京 松坂屋上野店本館7階美術画廊 奎星会関係

出品者：稲村雲洞、他

29 「干支(申歳)文字切手」発売(揮毫者) 堀 吉光

29～31 第2回漕友会書展 新潟 新発田市民ギャラリー

伊集院草香、他

30～11/6 第64回奎星展特別陳列「第16回宇野雪村賞展」特別賞受賞作品 東京・

上野 都美術館 10月23日 搬入・整理 10月24日 役員作品審査・公募作品鑑

査/審査

10月25日事務整理 10月29日 陳列 10月30日 開会

10月31日総会・授賞式・懇親会

11月1日中西浩暘と鎌田恵山によるギャラリートーク&席上揮毫

11月3日ワークショップ 「オリジナルカレンダーを創ろう」

11月6日閉会

入賞者：

〈役員の一部〉

上田桑鳩記念賞 桜庭青泉

宇野雪村記念賞 安田幾栄

同人特別賞 川口夢墨、谷川ゆかり、田原春夕、津能備山

高橋竹村記念賞 岩藤万里恵

天野翠琴記念賞 川口絮風

清田岱石記念賞 筒井 忍

弦巻松蔭記念賞 椿 直子

上松杜暘記念賞 水野博子

中原一耀記念賞 三浦隆子

無鑑査特別賞 常重一志、石井丹青、二見秋桜、笠井翠月、

梅木光充、寺本香波、大町齊邦、谷川美仙

〈公募の一部〉

毎日新聞社賞 A部・穴田尚子、B部・玉井恵心、C部・角屋魁周、D部・國枝礼子

奎星賞A部 白石弥生、古月真奈美、飯野篁秋、香坂照葉、

今井春鈴、五十嵐百合、喜代吉鏡子、竹久清蘭、中宗澄香

奎星賞B部 野地實人、保坂千光、吉村保子、四辻尚苑、奥島玉琇

奎星賞C部 岡 公美

奎星賞D部 藤川純代

特選A部 浮田光浄、岡 公美、沖田寿江、奥崎真弓、神山和子、

川幡梨燐、北島 彩、喜多山孝彦、倉本有佳子、小泉 翠、小林 希、

小林紋子、佐々木義徳、関山華香、高橋柳泉、末包恵理、長島 舞、

畑 温子、前崎秀子、山田しおり、山谷星光、横田眞理子、渡邊竹龍

特選B部 飯尾瑞松、石井圭花、石川弾久、伊藤由枝、加地美智子、

片山好美、川口雅笙、菅 輝子、竹下京仙、田村公恵、富田一象、

福万俊江、藤井路子

特選C部 中川和也、福田千恵子、安田壽巳江、渡邊未菜

特選D部 岡本大樹、小林 希、斉藤絹子、園田ちづる、名井昌代

準特選A部 足立葉子、江草篤史、片山瑠美、加藤理恵、小室聡美、柴田丹鳳、下村

和音、高橋光恵、田中芳佳、玉村廣子、都野守和美、寺田和雪、登利和子、中田貞代、

中村真子、中山紀凌、南部千佳

西島永恵、野村澄石、濱湊政治郎、比企絢子、久恵紀梢、廣瀬一花、藤井利江、坊珠己子、本田英之、村岡美季、村上 香、八木隆幸、

山下夏生、横山寶華、吉田和代、渡邊里彩、渡辺和夫

準特選B部 岡本華心、相澤翠雨、大石幸徑、森 美汀、勝正紫蘭、

犬井雨葉、奥谷 恵、中城美瑛、佐宗桂花、永橋香峰、佐々木法子、露木蕙良、服部艸香、重岡登喜子、二瓶竹聖、渡辺紅楓、岡田玉鈴

準特選C部 岩崎清窓、宇都宮古徑、漆原義典、太田八華、

森木きく子

準特選D部 井澤静岳、小川清篁、鎌倉 和、柴田翠丘、妹尾幸子、野地實人、村川紅雲、山本聖子

褒賞A部 上迫 正、内田紫水、剣持翔伍、斎藤白瑤、澤田昭泉、

嶋尾泰里、塚本江秋、戸津川貴子、中川雅夫、長谷弘華、平岡昭美、山岸鹿聲、山口真由美

褒賞B部 海老原碩風、奥 美加、織田香里、亀田榴花、谷本法子、富士原百扇、松原大梁

褒賞C部 岡崎華鳳、酒井清華

褒賞D部 浅海裕華、山下俊光、湧井久枝

特別賞E部 池田アサエ、深田和彦、古城洋子

31 平成27年度奎星会総会 東京 上野精養軒3F 「さくらの間」

[議事]

第1号議案 平成27年度会務報告承認の件、平成28年度事業計画について

第2号議案 平成26年度各部収支決算報告・監査報告承認の件、代表会計、事務局会計、展覧会部会計、会計監査報告

第3号議案 平成28年度会費決定の件

第4号議案 平成28年度新役員の選出の件

その他 新旧役員挨拶・他

11月

2~29 現代書 オマージュ・KUKAI 友蔭良一と山本大廣 福井 鯖江文化の館

5 日中書道交流会(全日本書道連盟) 東京・六本木 国立新美術館 「日中意見交換会」 14時~15時 「席上揮毫会」 15時~16時 「友好晚餐会」 17時30分~ 奎星会関係出席者:堀 吉光

6~8 耳順+2 富山奎星書作展 富山 砺波市美術館2F市民ギャラリー 石井 駿、石井克代、他

11~15 第6回光華會のなかまたち展=心なごむ墨の華= 広島 福山ギャラリーマサノ 上田幸加、他

賛助出品:大楽華雪

12～15 第 41 回熱き思いを現代書に・・・墨盈会書展 広島 ふくやま書道美術館
市民ギャラリー 相原雨雪、他

「作品解説」 11月12日午前11時から

「席上揮毫」 11月12日午前11時30分から

15 第16回「宇野雪村賞」全国書道展表彰式 兵庫 浜坂多目的集会施設2階ホール
諮問委員：稲村雲洞、岸本太郎、菅野清峯、大楽華雪 審査員：貝原司研、中原
志軒、堀吉光、中原茅秋 「東京会場」 第16回特別賞受賞作品30点を展示 平
成27年10月30(金)～11月6日(金) 会場＝東京都美術館・第64回奎星展にお
いて特別展示

「浜坂会場」 〈第1期〉平成27年11月15日(日) 会場＝浜坂多目的集会施設2
階ホール 〈第2期〉平成27年11月21日～25日 会場＝浜坂先人記念館以命亭ホ
ール

・一般の部

宇野雪村賞・文部科学大臣賞 尾村智子

奎星賞 千田信江、飯野篁秋、村松極水

兵庫県教育長賞 三木奈美、舟岡圭昭、竹内華抄

新温泉町長賞 廣狩礼花、田坂真由美、村上美香

新温泉町教育長賞 松岡鈴江、十亀厚風、簡康恵

新温泉町議会議長賞 小野里裕子、笛木澄紅、上木淳吉

奎星会会長賞 安居栄蔵、佐藤如園、木竜和明

特選 青野妙子、浅海裕華、飯嶋来陽、池上新示、井村明日香、

井本きく江、上田守、浦野蒼峰、奥崎真弓、小田周平、小田厚美、

越智粹鳳、賀川秋泉、籠谷千都子、北川悦子、佐伯佐恵、茂田翔、清水羅王、杉山

由美子、鈴木光葉、竹原悠華、田中美恵子、林櫻華、春名睦、二見秋桜、堀内肇、

増田奈々子、村山京子、八十島聖子、渡辺義之

・学生の部

奎星賞 谷山楓華、尾崎奏愛詩、難波杏樹

新温泉町長賞 井上智華、岡田茉佑子、高田楓果

新温泉町教育長賞 宮田実咲、田碓渚、田村彩音、赤坂秀則、

坂上果穂

特選 東采紋、東紅李、有坪美沙、石井花奈、上田実穂、

上村真里菜、浦上南奈、大達結月、大畑菜月、岡本涼花、角戸愛、

笠松采夏、片川義貴、片山穂乃香、川野優実、桑原鈴奈、近藤昌平、

迫田桃華、左手千尋、社領真由、菅原拳光、高橋月香、谷川碧、

帳馨悦、土屋深愛、鳥羽ちひろ、中尾夢歌、中村彩帆、西島悠夏、

橋本雄大、服部優、濱先桃花、平井陽日、樋渡菜々花、藤井達也、

細川明日香、前田大輝、前田美帆、丸岡裕加、三浦静良、三澤 瞳、
水澤佑香、宮下千波、森石沙織、森本彩音、山内香穂

15 松本昂星 第 67 回毎日書道展会員賞受賞記念祝賀会 岡山 アークホテル岡山
17~22 第 4 回大東文化大学 OB 同期会書展 東京 銀座画廊美術館 奎星会関係出
品者：森 禾甕

20~22 第 24 回長崎県美術協会書部代表作家展 長崎 諫早市美術・歴史館（2 階企
画展示室） 奎星会関係出品者：植松桂春、

小川雅山、近藤幸成、酒井聖舟、菅 白峰、出口恵山、徳永芳園、
原 雲涯、原 清泉、福岡玄海 堀 廬山、前田翠柳、前田清園、
松永馨山、森 岐山

21~22 第 38 回書と華 富山 福野文化創造センター 奎星会関係出品者：松本燁
之

21~1/11 没後 20 年弦巻松蔭展Ⅱ 松蔭とふるさと 新潟一師弟のすがた 新潟
新潟市北区郷土博物館

22~25 第 9 回壘土舎展 新進作家が書の美を求めて集うーこれからー 大阪 大阪
産業創造館 奎星会関係出品者：川邊艸笛、
谷川ゆかり

23 松永馨山 第 67 回毎日書道展会員賞受賞記念祝賀会 長崎・大村 長崎インタ
ーナショナルホテル

26~12/1 第 7 回八重柏冬雷 Sho art 獨り展 「併催」冬蕾舎（楽しい書講座）
受講者展 北海道 帯広市民ギャラリー

12 月

1~6 第 67 回毎日書道展九州展 福岡・福岡市美術館

2~6 吉田青雲古稀記念展 書業五十年の今 愛媛・愛媛県美術館南館 1・2 階

3~7 Ten ten 2015 In 鎌倉一文字の向こうへー近/未/来/の/書/が/こ/こ/に/あ/

る/。 神奈川 鎌倉芸術館 石井抱旦、外林道子、喜代吉鐵牛、竹下青蘭、松本燁之、

江草幽研、佐伯孝子、谷川ゆかり、八重柏冬雷、川口絮風、棒葉寿鶴、友葎良一、宮
村 弦、川邊艸笛、中西浩暘、山本大廣、喜代吉鏡子、高橋彰子、中原一樹、和田 彩、
他

8~13 現代の書の総合展 第 27 回一華会展 「併催」殷代から漢代における臨書展
広島 ふくやま美術館企画展示室 大楽華雪、他

「表彰式」12 月 12 日（土）10 時 30 分より 「席上揮毫」12 月 12 日正午より 「作
品解説」12 月 13 日

11~26 ミクロサロン 2015 小品集 東京・銀座 東京画廊 奎星会関係出品者：外
林道子

17~20 「読めない書と読める書と」琴風会展 静岡 藤枝市文化センター 大小ホール 榛葉壽鶴、他

23~28 第 28 回神奈川書家三十人展 煌びやかなる書の宴 神奈川 横浜市民ギャラリー 奎星会関係出品者：石井抱旦、中原茅秋

26~1/12 新しい旅、そこにある言葉。飛翔 2015 伸展 2016 東京 伊勢丹新宿店メンズ館 8F 吉川壽一

2016 年（平成 28 年）

4 月

4~16 2016 TOKYO 書 公募団体の今 新作と、大作と、38 作家たちの挑戦 東京・上野 東京都美術館公募展示室ロビー階 奎星会関係出品者：田鹿碩峰、眞鍋智浩
「アーティストトーク」 1 月 9 日午後 2 時～ 田鹿碩峰

5~10 第 33 回丑歳生まれの書作家による雅涎会書展 東京 東京銀座画廊・美術館 奎星会関係出品者：中原志軒

5~11 現代の書 新春展—今いきづく墨の華— 東京・銀座 和光ホール/セントラルミュージアム銀座 和光ホール出品者：稲村雲洞、

大楽華雪、田村空谷、中原志軒、中原茅秋、堀 吉光 セントラルミュージアム銀座 出品者：相原雨雪、石井 駿、石井抱旦、貝原司研、

鎌田恵山、外林道子、大六泉嶽、中西浩暘、東原吐雲、藤岡抱玉、

山本大廣、吉川壽一、吉田青雲 「席上揮毫」 石井抱旦、1 月 6 日（水）午後 1 時～ 「作品解説」 鎌田恵山 1 月 9 日（土）午後 1 時～

5~11 2016 毎日チャリティー書展 東京 東京銀座画廊・美術館 奎星会関係出品者：相原雨雪、天野碧邨、石井 駿、石井抱旦、

稲村雲洞、榎本 深、岡本正志、小黒五稜、金竹秋苑、鎌田恵山、

北谷翠峰、越水春汀、榛葉壽鶴、菅野清峯、大楽華雪、大六泉嶽、

高郷石峰、谷野成子、田村空谷、出口恵山、中西浩暘、中原志軒、

中原茅秋、成田誠一、原 雲涯、原田心龍、藤岡抱玉、堀 吉光、

丸尾鎌使、三宅華邦、八重柏冬雷、山本大廣

5 奎星会 1 月常任理事会 東京・八重洲 貸会議室プラザ八重洲北口 5F

[議事]

第 1 号議案 奎星会事務局担当に関する件

第 2 号議案 奎星会新正会員・推挙会員・昇格会員に関する件

第 3 号議案 奎星会創立 75 周年記念事業に関する件

第 4 号議案 奎星会企画委員会に関する件

第 5 号議案 第 64 回・65 回奎星展に関する件

第 6 号議案 奎星会夏期書道研究大会に関する件

第 7 号議案 奎星会毎日展対策研究会に関する件

第8号議案 (一財) 毎日書道会・第68回毎日書道展に関する件

第9号議案 事務局各部よりの件

報告：現代の書新春展・毎日チャリティー書展・現代女流書100人展、他

5~11 第35回世田谷の書展―世田谷ゆかりの作家たち― 東京 世田谷文学館 1F
文学サロン 奎星会関係出品者：稲村雲洞、

丸尾鎌使

5~11 第48回玄穹書道会展 広島 ふくやま美術館ギャラリー 伊豆田雪岳、他

8~9 墨艸'16展 大阪 高槻市現代劇場文化ホール2F

川邊艸笛、他

8~11 第45回玄同社展 東京 ヒルトン新宿地下1階ヒルトピア アートスクエア
稲村雲洞、堀 吉光、天野碧邨、他

8~11 第4回墨盈会迎春展・干支(申・猿)を書く 広島 福山市ものづくり交流館
市民ギャラリーA室 相原雨雪、他 「作品解説と書き初め会」 1月9日(土) 午前
11時~

9 2016 新春ウルトラ書きぞめ「養(ヨウ)要(ヨウ)広島」 広島 基町クレドふ
れあい広場(パセーラ前広島) 北谷翠峰、栗原桜水、田原春夕

14~19 第31回関西代表作家展 大阪 あべのハルカス近鉄本店ウイング館8F 奎
星会関係出品者：[通期] 1月14日(木)~19日(火) 菅野清峯、中原志軒、堀 吉
光、榎本 深、高郷石峰、藤原一三、

安藤明美、江草幽研、岡本正志、川邊艸笛、桑田耕石、佐伯孝子、

島田啓敬、谷野成子、中西浩暘、濱田宙子、前田敦子 [前期] 1月14日(木)~16
日(土) 阿部華陽、小笠原佳香、貝澤洋子、岸 濤風、

岸本翼幸、北岡瑞桐、小坂節子、酒井恵子、高橋知子、谷川ゆかり、

中西雅彦、原 香暘、増田知子、横田久子 [後期] 1月17日(日)~19日(火)

浅田登仙、牛丸好一、碓氷敏江、川瀬風子、甲山京子、

小若緋炎、近藤研秀、清水恵子、菅原美由紀、左右津安輝子、

辻庸三郎、中谷海山、中村瑤光、萩原 文、浜田清苑

14~20 泉会展 東京・銀座 ・Gallery concept 21 中村碧水、他

15~17 書勢会展 福井 福井県立美術館 第2展示室・ギャラリー 林 一昭、玄
千恵子、他

20~24 第40回書界展 愛媛 愛媛県美術館南館 吉田青雲、他

21~27 第47回現代女流書100人展(同時開催・現代女流書新進作家展) 東京 日
本橋高島屋8階ホール 奎星会関係出品者：〈顧問〉平野翠甫 〈漢字部〉安藤明美、
外林道子、藤岡抱玉 〈前衛書部〉金竹秋苑、天満雨丘、豊田法子、本多敬子、三石
真仙、

山田翠香

22～24 第 63 回福井奎星展 福井 福井県立美術館、山本大廣、他

30～31 奎星会・毎日展対策研究会 滋賀 琵琶湖グランドホテル

講師団：大楽華雪、中原茅秋、貝原司研、相原雨雪、中原志軒、

山本大廣、吉田青雲、堀 吉光

〔日程〕1月30日（土） 毎日展の現状ならびに毎日展の作品傾向と対策・質疑応答
デモンストレーション（漢字・前衛） 作品制作・互評会（漢字・前衛）

1月31日（日） 作品制作（漢字・前衛） 研究成果の確認

参加者：桜庭青泉（北海道）、小宮真美（東京）、高 北颯（東京）、

田鹿碩峰（神奈川） 小黒五稜（新潟）、伊集院草香（新潟）、高橋華洲（新潟）、永井
素香（新潟）、宮澤嶺彩（新潟）、石井克代（富山）、

松本燐之（富山）、山根美幸（富山）、谷澤晶華（福井）、別田華楊（福井）、駒井聿碩
（静岡）、諸井光雪（静岡）、安藤明美（兵庫）、江草幽研（兵庫）、佐伯孝子（兵庫）、

中西浩暘（兵庫）、濱田宙子（兵庫）、

岸 濤風（兵庫）、近藤研秀（兵庫）、菅原美由紀（兵庫）、

左右津安輝子（兵庫）、谷川ゆかり（兵庫）、北岡瑞桐（兵庫）、

岸本泰子（兵庫）、浅野墨泉、（岡山）、長家豊丘（岡山）、松本昂星（岡山）、小林安耶
（広島）、北谷翠峰（広島）、国竹杏雨（広島）、

栗原桜水（広島）、瀬尾良乃（広島）、田原春夕（広島）、原田心龍（広島）、

原田遊山（広島）、深田俊克（広島）、脇 壽子（広島）、笠原康伸（香川）、木下彰司
（香川）、合田春江（香川）、島 石邦（香川）、

檜垣哲一（愛媛）、重松竹邦（愛媛）、横田雅丘（福岡）、植松桂（長崎）、

小川雅山（長崎）、近藤幸成（長崎）、福岡玄海（長崎）、松尾碧楓（長崎）、

平江重徳（熊本）、本部スタッフ：相原雨雪、岡本正志、鎌田恵山、佐々木龍雲、天満
雨丘、戸津川政世、吉田青雲

2月

1～2 第 68 回毎日書道展運営委員会 東京 一ツ橋 如水会館 会員賞選考委員：

〈理事〉中原志軒、堀 吉光 〈前衛書部〉竹下青蘭、

豊田法子、原、雲涯

運営委員：〈漢字部〉藤岡抱玉 〈前衛書部〉竹下青蘭、豊田法子、原 雲涯

運営小委員：（前衛書部）原 雲涯

本年度当番審査員：〈漢字Ⅰ類〉吉田青雲 〈漢字Ⅱ類、相原雨雪、木下彰司 〈前衛
書部〉赤池艸裕、天野碧邨、植松桂春、佐伯孝子、佐々木龍雲、東原吐雲、前澤秋紅、

前田敦子、松本燐之、丸尾鎌使、山田翠香、吉川壽一

各展実行委員長：大六泉嶽（北陸）、中西浩暘（関西）、佐々木龍雲

（中国）、友近吾邑（四国）

審査部：前衛書部副部長 東原吐雲

審査部委員 漢字部Ⅰ類：(5月)佐藤奎玉、森田華舟 (6月)檜垣哲一、

濱田宙子 漢字部Ⅱ類：(通期)岡本正志 (5月)原田遊山、安藤明美

(6月)戸津川政世 前衛書部：近藤幸成 (通期)鎌田恵山、

金竹秋苑、八重柏冬雷 (5月)鈴木邦子、谷野成子、三宅華邦

(6月)石井克代、天満雨丘、松本昂星

9～14 書壇受賞に輝く作家展 東京 銀座 セントラルミュージアム銀座 奎星会

関係出品者：荒川泰石、岩波小湖、岸本翼幸

10～14 第57回墨華書道展 香川県立ミュージアム

小森秀雲、東原吐雲、他

13～23 申歳干支文字切手揮毫作家展 東京 アートサロン毎日 出品者：堀 吉光

18～24 第23回神奈川県代表書家展 神奈川 横浜 ギャラリー 守玄齋ゴールデ

ンギャラリー 中原茅秋、石井抱旦、他

24～28 創立40周年記念 2016干支の現代書 「丙申」展 マジカルなSARU 福

井 鯖江市まなべの館 山本大廣、他

25～28 第5回成臼舎書展 香川県文化会館 東原吐雲、他

3月

5～4/10 石井南耕・駿、克代一今を拓く書展一 富山 福光美術館 ギャラリート

ーク (3月27日午後2時～) 作品解説 ワークショップー筆と遊ぼうー (3月13日・3月20日)

7～4/2 2016年毎日書道展新会員作家展 東京 アートサロン毎日 奎星会関係出

品者：[漢字部]石田景雲、竹内小夜、二宮 盛、日野紅雪、矢野玉雪、山本清香 [前衛書部]池田可葉、諸井光雪、温井和海、深田俊克

10 全日本書道連盟第160回理事会 東京 上野精養軒

[議題]

1. 書写・書道教育推進協議会

これまでの報告ならびに今後の活動予定について

2. 日本書道ユネスコ登録推進協議会

これまでの報告ならびに今後の活動予定について

3. 中国書法家協会代表団来日の報告

4. 平成27年度助けあい募金の報告

5. 平成28年度事業計画案ならびに収支予算案について

6. 平成28年度書写書道教育講演会について (6月開催予定)

7. 平成28年度夏期書道大学講座について (8月開催予定)

8. 助成申請について

9. 高野山開創1200年記念献書事業について

10. その他

15～19 第9回豊島区障害者美術展「ときめき想造展」 東京・豊島区 としまセンタースクエア 審査員：堀 吉光

17～4/24 破壊と創造ー比田井天来・小琴、芸術書に捧げた生涯ー 広島 筆の里工房

19～21 第34回朴翠社書道展 広島 ぎやらりいNEWくわもと5F 北谷翠峰、他

24～27 第10回記念かながわ書道まつり 神奈川 ランドマークプラザ3階・1階 中原茅秋、田村空谷、石井抱旦、他

23～27 第12回華心書道展 香川 善通寺市美術館 梅木春華、他

24～29 第21回象 SHOU 展 vol21 テーマ/EN 併設谷川美仙個展 愛媛・松山 ギャラリーリブ・アート 鎌田恵山、他

奎星会 先人の書／書歴

上田桑鳩 （本名・順）

1899（明治 32）年－1968（昭和 43）年 享年 69 歳

師事：比田井天来

役職：奎星会会長、毎日書道展審査員、日展審査員

受賞歴：従五位勲四等旭日小綬章

作家紹介：兵庫県生。井原雲涯、近藤雪竹らの指導をうけ、比田井天来に入門。書道芸術社主宰。日展審査員を経て後離脱。昭和 15 年奎星会を創設し、初代会長として前衛書運動の道を拓いた。 （中原志軒）

出展作品：「寒江」 「獅子吼」

宇野雪村 （本名・武夫）

1912（明治 45）年－1995（平成 7）年 享年 83 歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会会長、毎日書道展理事、日展審査員、玄美社主宰

受賞歴：勲三等瑞宝章、毎日芸術賞

作家紹介：兵庫県生。上田桑鳩に師事し、奎星会創設に参画。日展審後、離脱して前衛書の旗手として活躍。奎星会会長、毎日書道会理事等を歴任。大東文化大学名誉教授。 （中原志軒）

出展作品：「あかとき」 「RIN（臨）」

高橋竹邨 （本名・芳平）

1899（明治 32）年－1968（昭和 43）年 享年 68 歳

師事：館野秋亭（鳴鶴門）、比田井天来（昭和 3 年）

役職：照心書道会創設（昭和 25 年）、毎日書道展依嘱、奎星会総務副会長（昭和 27 年）、『書道芸術』編集同人（昭和 8 年）

作家紹介：神奈川県生。天来門に学ぶ中で、上田桑鳩と同年同月同日生まれを知り合い、そのよしみもあって意気投合、桑鳩の新書芸活動にも形影相伴って行動し、終生に亘って親交を深める。桑鳩をして“無二の親友”と言わしめた。桑鳩先生枕頭・弔辞の一節「…君の如き君子人を我が友とし、刎頸の交わり永年してきたことは、今さらながら幸福であったことを発見し、僕にはこのような友人があったことを誇りにさえ思う。今君を失って、その代わりに誰に求むべきかを知らない…」と。期せずして卒年も同じであった。 （小林清風）

出展作品：「菜根譚 前集（三）より」

天野翠琴 （本名・節子）

1905（明治38）年—1985（昭和60）年 享年80歳

師事：比田井小琴

役職：奎星会顧問、毎日書道展参与

受賞歴：第1回大日本書道院展特選

作家紹介：秋田県生。昭和3年比田井小琴に師事し、古筆に参究する。小琴亡き後、日本書道美術院、書道芸術院を経て、上田桑鳩の奎星会に参加し、仮名の伝統様式から現代性を求めて苦悩の時代を生きぬいた。線質は凜乎として格があり、その姿は現在も瑞瑞しい。（平野翠甫）

出展作品：「けふもまた」

清田岱石 （本名・宗太郎）

1906（明治39）年—1993（平成5）年 享年87歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会顧問、毎日書道展参与、全日本書道連盟参与、墨友会主宰

作家紹介：東京都生。昭和15年奎星会結成に参画、同人となる。戦前の奎星展から出品し、副会長を経て顧問となる。円満な人柄であり、お洒落を好み、ウイットに富んだお話の上手な先生であった。この作品は『龔帖（ろうこうじょう）』に収録されたもので、晩年の代表作である。（田村空谷）

出展作品：「龔」

弦巻松蔭 （本名・悌二）

1906（明治39）年—1995（平成7）年 享年89歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会副会長、毎日書道展名誉会員

受賞歴：日展入選、勲五等瑞宝章

作家紹介：新潟県生。辛口の『男松』の作り酒屋が生家で、幼少よりからだは弱く家中の愛情に包まれ、賢明な乳母と天神様に字が上手になるようにと一緒にお参りをしたという。昭和20年生家に疎開、桑鳩揮毫による「松蔭書院」の看板を掲げ、全く新しい時代の書と「和」の心を説き全身で作品を制作した。（小黒五稜）

出展作品：「張猛龍碑節臨」 新潟市北区郷土博物館蔵

上松杜暘 （本名・邦雄）

1913（大正2）年—1983（昭和58）年 享年70歳

師事：関 甲陽、上田桑鳩

役職：奎星会参与、毎日書道展審査会員、玄美社社賓、飛雲会名誉会長

受賞歴：第5回大日本書道院展褒状、第5回大日本書道連盟展特選

作家紹介：兵庫県生。昭和2年兵庫県立御影師範学校にて宇野雪村を知る。昭和8年神戸又玄社にて上田桑鳩の指導をうける。昭和14年第1回飛雲展に出品、昭和26年には聴風会代表に就任し、同年、奎星会再発足第1次同人となる。兵庫県の書写教育に尽力するとともに、前衛書発展の基盤を築いた。（中西浩暘）

出展作品：「窟」

中原一耀（本名・歆一）

1915（大正4）年—2001（平成13）年 享年86歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会顧問、毎日書道展名誉会員、墨華書道会会長

作家紹介：香川県生。上田桑鳩、宇野雪村に師事、書道芸術院、奎星会。日展入後、離脱して前衛書運動に参加する。墨華書道会を設立して、後進の育成に努めた。

（中原志軒）

出展作品：「日見」

工藤蘭山（本名・俊雄）

1921（大正10）年—1998（平成10）年 享年76歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会参与、毎日書道展審査会員、県展審査員、北門書道会総務

受賞歴：上田桑鳩賞、奎星展同人特別賞、青森県文化賞、地域文化功労者文部大臣賞

作家紹介：青森県生。戦後、上田桑鳩に指示を仰ぎ、地方公務員として働く傍ら、奎星会での活動、地元北門書道会での指導や同人青奎会の運営発展に力を注ぐ。

（石橋青紅）

出展作品：「無」

澁谷竹径（本名・孝喜）

1910（明治43）年—1991（平成3）年 享年81歳

師事：高橋竹邨、上田桑鳩

役職：奎星会参与、毎日書道展参与、玄美社社賓、

照心書道会顧問、厚木市名誉市民（第1号）

作家紹介：仮名、漢字、前衛書と幅広い作品を書く。古典的な作品、枯淡な作品、知的な作品、叙情的な作品、艶やかな作品、現代的でモダンな作品等には、様々な表現がみられる。今回の作品には枯淡な味わいのある幽玄な世界のひろがりがある。高橋

竹邨と共に照心書道会を興す。 (八木梢葉)

出展作品：「きよらけきいづみのごとし」(読み人しらず)

水越茅村 (本名・咲七)

1914 (大正 3) 年—1985 (昭和 60) 年 享年 71 歳

師事：高橋竹邨、上田桑鳩

役職：奎星会副会長、毎日書道展審査会員、照心書道会会長

受賞歴：第 2 回毎日前衛書展大賞

作家紹介：昭和 33 年第 1 回毎日前衛書展では、出品作「無題」が大賞有力候補となるも詮衝委員の対立で該当者無しであった。翌第 2 回展で茅村は「十清九濁」で見事大賞を受賞した。宇野雪村は「この受賞作で、一躍脚光を浴びて書壇に躍り出たといえよう。重厚な線で文字性に依據しながら、構成の確かさがゆるぎない確かさで白を攻めていた。」と記した。(石井抱旦)

出展作品：「十清九濁」 茅ヶ崎市美術館蔵

奥平野牛 (本名・昌信)

1929 (昭和 4) 年—2006 (平成 18) 年 享年 77 歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会顧問、毎日書道展前衛書部審査委員、雄草会主宰

受賞歴：第 4 回毎日前衛書展大賞

作家紹介：第 1 回奎星展 (昭和 27 年) から出品し、奎星会展覧会部長を務める (第 19 回展から 30 回展まで)。副会長、参与を経て、相談役となる。この作品は玄美選展 (第 1 回玄美社公募展、昭和 47 年) 出品作で、自身が“鉄柱”と譬えた強靱な線と緻密に錬られた造形で構成され、代表作の一つといえる。「…奎星会の初期においては模倣ということはひどく戒められ、全て創作的でなければならなかった。自尊心や自意識を刺激し、奪いたたせるようなことばかりであった。それでも 10 回を経ずして類型化ということが常に問題になって纏わりついたものである。…

奎星展をみていつも思うことだが、10 点ぐらいは非常に独創的で印象に残る作品がある。それらは雞壇的な陳列以外の場所にある。僕は今年はどうなのがあるかなと思って見直していく。そして発見すると嬉しくなって雑多でマイナーな印象がふつとんでしまう。『創立 50 周年・第 40 回奎星展作品集』奎星会発行 「年のこと 奥平野牛」より (森 禾甕)

出展作品：□

石井南耕 (本名・長共)

1921 (大正 10) 年—1984 (昭和 59) 年 享年 63 歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会同人会員、毎日書道展審査会員

受賞歴：第9回日展入選、福光町町政功労賞

作家紹介：富山県福光町法林寺に生れる。昭和15年富山師範学校で、上原欣堂より“南耕”の書号を受ける。昭和20年兵役後、小学校教員に復帰。昭和25年上京、桑鳩・雪村の教えを受け富山奎星会を設立する。旁ら高等学校書道教諭として青少年の育成と県書壇の基盤造りに努める。昭和59年心不全にて永眠。（石井 駿）

出展作品：「ぬくもり（土）」

山本翠城（本名・恵三）

1913（大正2）年—2005（平成17）年 享年91歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会参与、毎日書道展参与

作家紹介：静岡県生。幼少時代から書を志し、学生時代には天覧の栄に浴す。卒業後銀行等に約15年勤め、召集、捕虜生活を含む7年を外地で過ごす。昭和24年無事生還、何も無い当時、自から小さな商を興し、苦節15年成功を収めた後、本格的な書の道へと邁進して行く事になる。（赤池艸裕）

出展作品：「大吉祥」

櫻井琴風（本名・桂一郎）

1914（大正3）年—2010（平成22）年 享年96歳

師事：上田桑鳩、黒木拝石

役職：奎星会名誉顧問、毎日書道展名誉会員

作家紹介：静岡県藤枝市に生まれる。戦時下より書活動に参加し、上田桑鳩率いる革新的な前衛書に深く傾倒する。第1回毎日書道展（全日本書道展）で特選首席を受賞し、その後奎星会の発足に尽力してその発展に力を注いだ。晩年は名誉顧問として後進の指導に当たった。（榛葉壽鶴）

出展作品：「「樂」による」

宇高示穹（本名・晃）

1921（大正10）年—2010（平成22）年 享年89歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会名誉顧問、毎日書道展参与会員、素心会主宰

作家紹介：上田桑鳩、宇野雪村、高塚竹堂に師事、日展その他海外展等で活躍。草創の奎星会同人として前衛書運動に参加、推進する。（中原志軒）

父は奎星会立ち上げ時から会社員と書家の二足の草鞋を履き、日々忙しく過ごして

いた姿が脳裏に残っています。晩年は、金文や甲骨文字について独学没頭し、念願の著書も遺すことが出来ました。お陰様で多くの方々との交流の機会を頂き、とても楽しそうに何回も得た知識を話していた姿が今でも思い出されます。いつまでも学びに対して子どものように純真な姿勢を持ち続けている父でした。普通の会社員生活を過ごしていたら、おそらくこれほど多くの人・知識を得ることはできなかったと思います。きっと、冥土でも誇らしくこの遺産を話し続けていることでしょうね。

(宇高史昭)

出展作品：「天馬行空」

川邊清華 (本名・守雄)

1930(昭和5)年—2004(平成16)年 享年74歳

師事：宇野雪村、森 岫雲

役職：奎星会同人、毎日書道展前衛書部審査会員

受賞歴：大阪府生。奎星展同人特別賞、毎日前衛書展大賞

作家紹介：「前衛作品は作った時点で前衛でなくなる」良く口にしていた言葉である。作品に妥協せず、古典臨書も深く研鑽した。桑鳩に憧れるも、その尺牘を観ると間違いなく雪村の弟子だと思えるのは私一人だけではないだろう。(川邊艸笛)

出展作品：「哀」

寺部葭江 (本名・儀衛)

1895(明治28)年—1976(昭和51)年 享年82歳

師事：比田井天来、上田桑鳩

役職：奎星会同人、兵庫県作家協会顧問

受賞歴：大日本書道院展特選

作家紹介：愛知県豊川市に生まれる。昭和7年神戸又玄社創立に参画。比田井天来、上田桑鳩の教えを受く。書道芸術社結成同人、奎星会同人を経て、書道芸術院創立に参画し、委員となる。奎星展、飛雲展を中心に作品を発表。(江草幽研)

出展作品：「七言二句」

藤原清洞 (本名・齊)

1914(大正3)年—2002(平成14)年 享年87歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会副会長、毎日書道展審査会員、

兵庫県書作家協会会長、飛雲会会長

受賞歴：兵庫県文化賞、文部大臣地域文化功労者表彰

作家紹介：兵庫県生。戦後逸早く上田桑鳩に師事、後、宇野雪村の益を受く。兵庫県

の飛雲会総帥として、同県及び関西書壇に前衛書を発展拡充させたその功績は計り知れない。又、奎星会・毎日書道展等中央書壇でも重きを成す一方、武庫川女子大学教授を永年勤めるなど、教育界にも功績を残した。(中西浩暘)

出展作品：「満花」

上羅芝山 (本名・了)

1926 (大正 15) 年—1995 (平成 7) 年 享年 69 歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会副会長、毎日書道展評議員、兵庫県書作家協会顧問、飛雲会副会長

受賞歴：芦屋市民文化賞、兵庫県教職員組合芸術文化賞

作家紹介：兵庫県生。兵庫県下の前衛諸団体、飛雲会を中心に、幅広く書作家活動を行う中、モダンな前衛書や鋭い線質の漢字作品を好んで制作した。温厚で面倒見の良い人柄であった由、飛雲会では今も人気が高い。古典、文房四宝や中国研修を通じて、これまで多くの後進の指導と育成にあたる。晩年病(肺癌)には勝てず、師、上田桑鳩と同年齢で逝去。(岡本正志)

出展作品：「康壽」

喜代吉郊人 (本名・四十三)

1910 (明治 43) 年—2001 (平成 13) 年 享年 92 歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会副会長

作家紹介：島根県生。辻本史邑『書鑑』の関係で広津雲仙に就いたが、新傾向を見抜かれ、軍事郵便にて桑鳩に就くことを勧められる。井原雲涯との縁で松江来訪の桑鳩に心酔し、相思相愛可愛がられる。(喜代吉牛)

出展作品：「空」

河田一曰 (本名・一夫)

1911 (明治 44) 年—2000 (平成 12) 年 享年 89 歳

師事：大原桂南、上田桑鳩

役職：奎星会同人、毎日書道展前衛書部審査会員、日展無鑑査

受賞歴：書道芸術院第 4 回展特別賞、奎星会展第 1 回特別賞、日展特選

作家紹介：岡山県生。戦後の岡山県の書道界に芸術書としての、表現の仕方・見方・考え方を導入した先覚者である。昭和 37 年、墨象会を結成し、岡山の独自性・創造性を主眼とした芸術書を主唱する。昭和 45 年、玉龍会を結成し、芸術の広域をめざし、自由にして創造的な作品活動を主唱した。書を中心に絵画・彫刻・陶芸・写真作家などの賛同を得て、多様な作品展を展開した。(曾我英丘)

出展作品：「色彩作品」

安藤崬光 （本名・正志）

1922（大正 11）年－2009（平成 21）年 享年 88 歳

師事：上田桑鳩、河田一白

役職：奎星会参与、毎日書道展参与、全日本書道連盟参与

受賞歴：第 3 回書道芸術院特選、第 2 回書の美公募展特選、

第 1 回奎星展奎星賞、第 1 回岡山県展山陽新聞社賞

作家紹介：岡山県生。人には誠意をもって接し、自分には徹底して厳しく、「野人」として生きた生涯だった。少年時代に河田一白との出会いが、上田桑鳩との出会いにつながり、厳しい師からの指導を真正面から受けとめ、書に命を燃やし続けた姿は、「生命の躍動」というにふさわしい生き様であった。 （安藤凌雲）

出展作品：「菜花遠望（長沙）」

笹野舟橋 （本名・伸夫）

1922（大正 11）年－2010（平成 22）年 享年 88 歳

師事：上田桑鳩

役職：奎星会名誉顧問、毎日書道展名誉会員

受賞歴：日展入選、奎星展奎星賞、奎星展新人賞

作家紹介：岡山県生。戦中戦後の激動期の中で、常に現代書の在り方を求める前衛書作家であった。若年期より上田桑鳩に師事し、その作品は重量感と大胆且つ独自性に満ち溢れ、現代作家中の重鎮として、戦後の芸術思潮のうねりの中で、近年に至るまで国内外に大きな影響と深い感動を与えてきた人物であった。 （松本昂星）

出展作品：「RAN（鸞）」

曾根慶千 （本名・将史）

1903（明治 36）年－1971（昭和 46）年 享年 68 歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会同人、毎日書道展審査会員

受賞歴：日展入選

作家紹介：広島県生。尾道に生れ育ち、長年の教職生活の中、自然の官能、上品な知覚、感性が漂う書の世界をくり広げた。ほのぼのとした心情、繊細な性格のやさしさが伝わってくる。その作風は桑鳩・雪村から生まれた最先端を行く作家であった。

（中原志軒）

出展作品：「煙門外消」

高尾泉石（本名・敬）

1909（明治 42）年－2011（平成 23）年 享年 103 歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会同人、毎日書道展審査会員

受賞歴：日展入選

作家紹介：広島県生。長寿で百三歳まで元気で活躍。当地府中市内は勿論近郷近在まで高名で知らない人はいない程であった。漢字から前衛まで幅広い分野で活躍し、大変な有名人であった。（貝原司研）

出展作品：「従軍行」

真鍋士鴻（本名・和夫）

1917（大正 6）年－1996（平成 8）年 享年 79 歳

師事：三宅木菟、上田桑鳩

役職：奎星会相談役、毎日書道展参与

作家紹介：愛媛県生。確かな古典の上に立脚し、それと向き合いながら尚、斬新さを求め続けて行った。晩年になるほどそれが顕著になり、究極的には格調のより高い作品を表現し続けた。（吉田青雲）

出展作品：「良寛詩」

野崎嶽南（本名・正人）

1925（大正 14）年－2010（平成 22）年 享年 85 歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会参与、毎日書道展名誉会員、全日本書道連盟参与

受賞歴：地域文化功労賞（長崎県・文部大臣）、特別功労賞（毎日新聞社）、浜文化章（諫早市）、長崎新聞文化章（長崎新聞社）

作家紹介：長野県生。1964 年書壇喧噪の中で、長崎奎星会を結成。1972 年「飛龍会」と改称。現代書追求。前衛書志向に専念。母体の奎星会（東京）の支部として創立以来九州一を辿って今日に至っている。（出口恵山）

出展作品：「シュク（祝）」

西田阿江（本名・俊孝）

1920（大正 9）年－2003（平成 15）年 享年 82 歳

師事：宇野雪村

役職：奎星会同人、毎日書道展審査会員、全日本書道連盟評議員

受賞歴：熊本全国書道展文部大臣賞、奎星展奎星賞・特選、熊本県文化功労賞

作家紹介：熊本県生。八代市に生まれる。昭和 26 年、宇野雪村に入門。昭和 50 年、

小学校校長として県内の書写教育に貢献するとともに、熊本奎星会の発足に尽力し、その運営と発展に力を注いだ。 (中村碧水)

出展作品：「景雲飛」

川添悠石 (本名・昂)

1902 (明治 35) 年—1992 (平成 4) 年 享年 94 歳

師事：上田桑鳩、宇野雪村

役職：奎星会同人、毎日書道展会員、西部書作家協会理事

受賞歴：宮崎県文化賞 (芸術部門)

作家紹介：宮崎県生。大正 8 年小林小学校訓導を皮切りに教壇生活 60 年余、書道教育に一生を捧げ、一幅一瓶展等を主催、地方文化に貢献する。門下生に、前田次郎、藏元長艸、大石三世子等輩出する。 (桃太郎)

出展作品：「壽觴」